

中川健一メッセージシリーズ

『出エジプト記』 21 回～50 回 メッセージアウトライン

～ メッセージ CD を聴く方のためのガイドブック ～

(このアウトラインだけをお読みになっても、十分に意味を理解することはできません。)

ハーベストフォーラム東京
『定例会』メッセージ

2010年5月～2010年11月



ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

In association with Ariel Ministries

Reference: "The Book of Exodus" (MP3 Audio)

Ariel's Bible Commentary Series by Dr. Arnold G. Fruchtenbaum

定価 1,500 円
(税抜 1,429 円)

(無断複製・転載を禁じます)

【出エジ21】出エジプト記16章1節～36節

「シンの荒野にて」

1. 文脈の確認

- (1) イスラエルの民は、紅海を渡った。
- (2) 荒野の旅が始まった。
- (3) マラでの体験
- (4) エリムでの体験
- (5) エジプトを出て1ヶ月後にシンの荒野に入った。
- (6) 荒野の旅は、ご自身の民を訓練する学校でもある。

2. アウトライン

- (1) つぶやき (16: 1～3)
- (2) 神の約束 (16: 4～12)
- (3) マナの供給 (16: 13～15)
- (4) マナに関する命令 (16: 16～34)
- (5) 補足説明 (16: 35～36)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) つぶやきの原因
- (2) 神からの試みの意味
- (3) マナが象徴するもの

このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

I. つぶやき (16章1～3節)

1. エリムからシンの荒野へ

- (1) 第2の月の15日
 - ①エジプトを出たのは、第1の月の15日。
 - ②1ヶ月が経過した。
 - ③食物が尽きたころであろう。
- (2) エリムとシナイの間にある
 - ①エリムからおよそ30キロ

2. つぶやき

- ①全会衆：ヨシュアとカレブのような例外もあったであろう。

- ②モーセとアロンにつぶやいた。つぶやきが、パターン化してきている。
- ③マラでは、モーセに対してであったが、ここではアロンも加わっている。

3. つぶやきの内容

(1) 現状への不満

- ①食べ物が無い。
- ②あなたがたはこの全集団を飢え死にさせようとしている。

* 誇張：彼らは大量の家畜を連れて出てきていたので食べ物はあった。

(2) 過去を美化

- ①奴隷生活を美化している。
- ②エジプトで【主】の手にかかって死んでいたらよかったのに(10の災い)。

(3) 信仰とは、今に感謝し、将来に希望を持つこと。

- ①エジプトに下った10の災害から守られた。
- ②紅海を渡ることができた。
- ③マラの水が甘くなった。
- ④エリムに導かれた。

(4) モーセとアロンへの反抗は神への反抗である。

- ①聖霊を痛ませる罪(イザ63:10)
- ②神の人格への攻撃である。
- ③これは、私自身の罪でもある。
- ④リバイバルは私から始まる必要がある。

II. 神の約束(16章4～12節)

1. 神の恵みと忍耐

- (1) モーセは祈っていた(書かれてはいないが)。
- (2) ソドムとゴモラの上には硫黄の火が降った。
 - ①創19:24
 - ②ここでは、正反対のものが降る。
- (3) 「見よ」
 - ①何か超自然的なこと、驚くべきことが起ころうとしている。
 - ②パンが天から降る。

2. この約束には命令が伴っていた。

(1) 内容

- ①毎日、1日分を集める。
- ②6日目には、2日分を集める。その理由はまだ述べられていない。

(2) 命令の目的

- ①イスラエルの民を試すため
 - ②【主】の意図は、民が日々【主】に信頼して歩むようになること。
 - ③人間の思いは、一時に大量のものを集め、蓄えを増やしたいということ。
 - ④蓄えが増えることは、神から離れた生活、自立した生活につながる。
- * マタ 19：23～24

3. 民に対するモーセとアロンの言葉

- (1) 「夕方には、あなたがたは、【主】がエジプトの地からあなたがたを連れ出されたことを知り、」
- ①イスラエルの民は、モーセとアロンが民をエジプトから連れ出したと言った。
 - ②そうではなくて、【主】が民を連れ出したのだ。
 - ③夕方には、食物が与えられる。
- (2) 「朝には、【主】の栄光を見る」
- ①パンが降ることによって。【主】の栄光とは、現実的な力である。
 - ②あるいは、シャカイナグローリーのこと(出16：10)。
- (3) 「あなたがたが、この私たちにつぶやくとは、いったい私たちは何なのだろう」
- ①自分たちは出エジプトの演出者ではない。
 - ②民のつぶやきは、【主】に対するものである。
 - ③アロンがモーセの代弁者として民に語っている。
- (4) 【主】の栄光が雲の中に現れた。シャカイナグローリーの5番目の働き
- ①モーセを召した。
 - ②イスラエルを導いた。
 - ③イスラエルを守った。
 - ④イスラエルのために戦った。
 - ⑤必要な食物を供給する。

4. モーセに対する【主】のことば

- (1) イスラエル人のつぶやきを聞いた。
- (2) 民に伝えよ。
- ①夕暮れには肉を食べるようになる。
 - ②朝にはパンで満ち足りるようになる。
 - ③「あなたがたはわたしがあなたがたの神、【主】であることを知るようになる」
 - * 契約の神
 - * 恵み深い神
 - * 必要なものはすべて与える神
 - ④マタ 6：31～34

Ⅲ. マナの供給 (16章13～15節)

1. 夕方になると、うずらが飛んできた。
 - (1) エジプトの方から、紅海を超えて。
 - (2) 宿営をおおった。大量に飛来した。
 - ①「宿営をおおい」
 - ②うずらのことは誰でも知っているのに、それ以上の記述はない。
2. 朝になると、宿営の回りに露が一面に降りた。
 - (1) 露が上がると、後に何かが残った。
 - ①白い霜のような細かいもの
 - ②うろこのような細かいもの
 - (2) イスラエル人の反応
 - ①「これはなんだろう」「マン・フー」
 - ②初めて見る食べ物
 - ③詩78：25「それで人々は御使いのパンを食べた。神は飽きるほど食物を送られた」
 - (3) 【主】が食物として与えてくださったパンである。

Ⅳ. マナに関する命令 (16章16～34節)

1. 集める方法
 - (1) ひとり当たり1オメル(2.3リットル)ずつ集める。
 - ①集めたものを積み上げ、各自に分配すると、ちょうどよかった。
 - (2) 朝まで残しておいてはならない。
 - ①全部食べよという意味ではない。
 - ②他の人にあげたり、家畜のえさにしたり、捨てたりできる。
 - ③日々、【主】からのパンの供給に信頼することを教えている。
 - (3) ある者は朝まで、それを残しておいた。
 - ①信仰が足りない。翌朝の供給を信じない。
 - ②虫がわき、悪臭を放った。
 - ③マナの本来の性質が腐りやすいということではない。
 - ④不信仰への罰である。
 - ⑤モーセの怒り。神の命令に従わないことへの怒り
 - (4) 朝ごとに、集めた。日が熱くなると、溶けた。
2. 6日目の規定
 - (1) 2倍のパンを集める。

(2) 7日目は「【主】の聖なる安息である」

- ①ヘブル語では定冠詞がない。
- ②初めて出てくる概念である。
- ③モーセの律法により、安息日の規定が定まる。

(3) マナの調理法

- ①焼いても、煮てもおいしい。
- ②そのままでも食べられる。
- ③調理するのは、味の変化のためであって、保存のためではない。
- ④翌日まで取っておいたが、それは腐敗しなかった。

3. 7日目の規定

(1) 前日から残ったものを食べる。

- ①安息の7日目は、マナと同様に【主】からの祝福である。

(2) 安息の7日目には、マナは降らない。

- ①民の中のある者は7日目に集めに出た。
- ②食べ物が不足しているからではない。
- ③モーセの言葉が本当かどうか試すために。
- ④何も見つけることができなかった。

(3) 【主】のことば

- ①祝福のことばは、命令のことばに変わる。
- ②「7日目には、あなたがたはそれぞれ自分の場所にとどまれ。その所からだれも出てはならない」
- ③「それで、民は七日目に休んだ」

4. マナという命名

(1) 「マン・フー」から来ている。

(2) 特徴

- ①コエンドロの種のように白い
- ②味は蜜を入れたせんべい（ウェファース）のよう。

5. 後の世代のために保存する。

(1) 壺の中に、1 オメルのマナを入れる。

- ①ヘブ9：3～4

V. 補足説明（16章35～36節）

1. 40年間マナの供給は続いた。

(1) ヨシ5：10～12

①約束の地に入った時に、マナの供給は止んだ。

2. 1 オメルは1 エパの 10 分の 1

(1) 1 エパは 23 リットル。

結論：このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

1. つぶやきの原因

- (1) 混じって来た人の存在
- (2) 啓示への理解不足
- (3) 奴隷の生活を忘れている。
- (4) 信仰がない。

2. 神からの試みの意味

- (1) 【主】に従うかどうか。
- (2) 日々のマナ、6日目の2倍、7日目の安息
 - ①すべて特権であり、恵みである。
 - ②その認識がないと、自分勝手な行動になる。
 - ③恵みのことばが命令に変わらざるを得なくなる。

3. マナが象徴するもの

(1) マナは、主イエスを象徴している。

「これは天から下って来たパンです。あなたがたの父祖たちが食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きています」(ヨハ6：33)

(2) 私たちへの適用

- ①神は【主】(ヤハウエ)である。
 - * マナは、記念として残された。
 - * 【主】は必要を満たす神である。
- ②マナの奇跡は、自然と超自然の融合。
 - * イエスの二面性。人であり神である。
- ③マナは、ルールに基づいて集め、食べる。
 - * 日々の行為
 - * 7日目の安息
- ④マナは、完璧な食べ物である。
 - * コロ2：9「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています」

【出エジ 22】 出エジプト記 17 章 1 節～7 節

「メリバの水」

1. 文脈の確認

- (1) 荒野の旅は、ご自身の民を訓練する学校でもある。
- (2) 行程
 - ① マラでの体験
 - ② エリムでの体験
 - ③ シンの荒野での体験
- (3) レフィディムでの体験 (出 17～18 章)
 - ① メリバの水
 - ② アマレクとの戦い
 - ③ イテロの助言

2. アウトライン

- (1) 民の不満 (17：1～3)
- (2) モーセの祈り (17：4)
- (3) 【主】からの答え (17：5～6)
- (4) 場所の命名 (17：7)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 【主】を試すということについて
- (2) 岩が象徴していることについて
- (3) メリバという地名が再度出てくることについて

このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

I. 民の不満 (17：1～3)

1. シンの荒野からレフィディムへ (1 節)

- (1) 【主】の命により
- (2) 「旅を重ねて」
 - ① 多くの人々と大量の家畜がいた。
 - ② 旅はゆっくりと進んだ。
 - ③ シャカイナグローリーが動けば動き、止まれば止まった。
 - ④ 次の宿営地であるレフィディムに来るまでは、長期滞在はなかった。
- (3) より深刻な状況が訪れる。
「そこには民の飲む水がなかった」

2. 不満の言葉(2～3節)

(1) 不満が膨らんでいく。

- ① 15:24 マラで、民はモーセにつぶやいた。
- ② 16:2 シンの荒野で、民はモーセとアロンにつぶやいた。
- ③ 17:2 レフィディムで、民はモーセと争った。
「私たちに飲む水を下さい」

3. モーセの回答

(1) 「なぜ私と争うのですか」

- ① 出エジプトの主役は【主】である。
- (2) 「なぜ【主】を試みるのですか」
 - ① モーセに対する不満は【主】に対する罪である。
 - ② 【主】が自分たちのことを守ってくださるかどうかが疑っている。

4. 民の反撃

(1) 「いったい、なぜ私たちをエジプトから連れ上ったのですか」

- ① 民をエジプトから連れ上ったのはモーセだと言っている。
- ② 【主】が出エジプト記の演出者であることを忘れている。
- (2) 「私や、子どもたちや、家畜を、渇きで死なせるためですか」
 - ① 誇張
 - ② 16:3と同じパターンの繰り返し
 - ③ 渇きが激しかったので、マラでの水の供給のことを思い出せなかった。

II. モーセの祈り(4節)

(1) いつものように、モーセは【主】に祈っている。

- ① この祈りは叫びでもある。
- ② 「私はこの民をどうすればよいのでしょうか」
- (2) 「もう少しで私を石で打ち殺そうとしています」
 - ① 群集心理が働いている。
 - ② 暴徒化している。

III. 【主】からの答え(5～6節)

1. 【主】は民のテストに応じてくださる。

(1) 民の前を通れ。

- ① 民があなたを打つことはない。堂々と行け。
- (2) イスラエルの長老たちを幾人か連れて行け。
 - ① 確かにモーセが奇跡を行ったと証言する証人が必要である。

- (3) ナイルの水を血に変えたあの杖を持って行け。
 ①奇跡の杖を示すことによって民に希望を与える。
2. 【主】は主体的にかかわってくださる。
- (1) 【主】がモーセの前に立たれる。
 ①シャカイナグローリーが、ボレブにある特定の岩の上にとどまる。
 (2) モーセは杖でその岩を打つ。
 ①岩盤のことである。
 (3) 岩から水が出る。
 (4) 民はそれを飲む。
3. モーセはその通りにした。
- (1) 証人が見ていた。
 ①詩78：15～16にその情景が書かれている。
 「荒野では岩を割り、深い水からのように豊かに飲ませられた。また、岩から数々の流れを出し、水を川のように流された」
 (2) この体験は、私たちのものとなりうる。

IV. 場所の命名(7節)

1. 命名者はモーセである。
2. 2つの名前
- (1) マサ
 ①その意味は、試みる、あるいは、テストするということ。
 ②イスラエルの民は、【主】をテストした。
- (2) メリバ
 ①その意味は、争うということ。
 ②イスラエルの民は、モーセと争った。

結論：このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

1. 【主】を試すということについて
- (1) イスラエルの民は疑った。
 ①【主】はともにおられるのかどうか。
 ②【主】は必要を満たしてくださるのかどうか。
 ③もしおられるなら、それを証明してほしい。
- (2) 2種類のテスト
 ①不信仰に基づくテスト ヨハ6：30～31「そこで彼らはイエスに言った。『それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どの

ようなことをなさいますか。私たちの父祖たちは荒野でマナを食べました。「彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた」と書いてあるとおりです』

*人間が裁判官の位置にある。

*神は被告席にいる。

- ②信仰に基づくテスト マコ9:23～24「するとイエスは言われた。『できるものなら、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです』。するとすぐに、その子の父は叫んで言った。『信じます。不信仰な私をお助けください』

*神は、信仰に基づくテストを歓迎される。

2. 岩が象徴していることについて

①岩(石)という言葉が象徴的に用いられた時は、それは常にメシアを指す。

(1) メシアの一般的な性質(神性と人性の二面性)

①創49:24 ヨセフ族の預言

「しかし、彼の弓はたるむことなく、彼の腕はすばやい。これはヤコブの全能者の手により、それはイスラエルの岩なる牧者による」

②申32:15「エシュルンは肥え太ったとき、足でけた。あなたはむさぼり食って、肥え太った。自分を造った神を捨て、自分の救いの岩を軽んじた」

③IIサム23:2～3「【主】の霊は、私を通して語り、そのことばは、私の舌の上にある。イスラエルの神は仰せられた。イスラエルの岩は私に語られた」

④詩18:31「まことに、【主】のほかになだれが神であろうか。私たちの神を除いて、だれが岩であろうか」

⑤マタ16:16～18「シモン・ペテロが答えて言った。『あなたは、生ける神の御子キリストです』。するとイエスは、彼に答えて言われた。『バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません』

⑥Iコリ10:4「みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです」

(2) メシアの永遠性

①ダニ2:34「あなたが見ておられるうちに、一つの石が人手によらずに切り出され、その像の鉄と粘土の足を打ち、これを打ち砕きました」

(3) 試され、信頼性が証明された。

①イザ28:16「だから、神である主は、こう仰せられる。『見よ。わたしはシオンに一つの石を礎として据える。これは、試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊いかしら石。これを信じる者は、あわてることがない』

②Iペテ2:4、6「主のもとに來なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です」

「なぜなら、聖書にこうあるからです。『見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない』

(4) つまづきとなる。

①イザ8：14「そうすれば、この方が聖所となられる。しかし、イスラエルの二つの家には妨げの石とつまづきの岩、エルサレムの住民にはわなとなり、落とし穴となる」

②ロマ9：32「しかし、イスラエルは、義の律法を追い求めながら、その律法に到達しませんでした。なぜでしょうか。信仰によって追い求めることをしないで、行いによるかのように追い求めたからです。彼らは、つまづきの石につまづいたのです。それは、こう書かれているとおりです。『見よ。わたしは、シオンに、つまづきの石、妨げの岩を置く。彼に信頼する者は、失望させられることがない』

③Iペテ2：7～8「したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでいない人々にとっては、『家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった』のであって、『つまづきの石、妨げの岩』なのです。彼らがつまづくのは、みことばに従わないからですが、またそうなるように定められていたのです」

(5) 拒否された。

①詩118：22「家を建てる者たちの捨てた石。それが礎の石になった」

②マタ21：42「イエスは彼らに言われた。『あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。「家を建てる者たちの見捨てた石。それが礎の石になった。これは主のなさったことだ。私たちの目には、不思議なことである』』

③マコ12：10

④ルカ20：17

⑤使4：11

⑥エペ2：20「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です」

3. メリバという地名が再度出てくることについて

(1) 民20章

①同じ地名、メリバが出てくる。

②神はモーセに、「彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す」と言われた。

* 英語では、「speak」である。

③モーセは怒って、杖で岩を2度打った。

④その不従順の罪のために、モーセはカナンの地に入れなくなった。

(2) メシアは、打たれるために、十字架で死ぬために来られる。

①一度信じたなら、願うだけでよい。

②Iヨハ1：9「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」

(3) メシアは、打たれるためではなく、王として再臨される。

【出エジ23】出エジプト記17章8節～16節

「アマレクとの戦い」

1. 文脈の確認

(1) 荒野の旅は、ご自身の民を訓練する学校でもある。

(2) 行程

- ①マラでの体験
- ②エリムでの体験
- ③シンの荒野での体験
- ④メリバの水（レフィディムでの体験）
- ⑤アマレクとの戦い（レフィディムでの体験）

2. アウトライン

- (1) アマレクの攻撃（17：8）
- (2) イスラエルの反撃（17：9～13）
- (3) 戦いの記念（17：14～15）

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 罪と裁きのパターンについて
- (2) ヨシュアという人物について
- (3) 主の戦いの本質について

このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

I. アマレクの攻撃（17：8）

1. アマレクという人々

- (1) アマレクは、エサウの孫である（創36：11～12）。
 - ①エサウ→エリファズ→アマレク
 - ②エサウの子孫は、エドムの地を本拠として遊牧生活を送っていた。
 - ③定住している民を略奪して、生計を立てていたと思われる。

2. 攻撃の方法

申25：17～18「あなたがたがエジプトから出て、その道中で、アマレクがあなたにした事を忘れないこと。彼は、神を恐れることなく、道であなたを襲い、あなたが疲れて弱っているときに、あなたのうしろの落後者をみな、切り倒したのである」

- (1) 神を恐れることのない行為

- ①神がイスラエルの民のためにエジプトにしたことを無視している。
- ②神が葦の海を分けてイスラエルの民を渡らせたことを無視している。

(2) 卑劣な方法での攻撃

- ①イスラエルから攻撃を受けたわけではない。
- ②自衛の戦いではなく、略奪のための戦いである。
- ③イスラエルの民は、エジプトの富を持って出て来ていた。
- ④最後部の者たち、落後者たちから、切り倒して行った。

3. 攻撃の理由

(1) ヤコブとエサウの葛藤(創27:36)

「エサウは言った。『彼の名がヤコブというのも、このためか。二度までも私を押しつけてしまって。私の長子の権利を奪い取り、今また、私の祝福を奪い取ってしまった』。また言った。『あなたは私のために祝福を残してはおかれなかったのですか』」

(2) 民族の怨念

- ①エドム人は、イスラエルと歴史的に仲が悪かった。
- ②エドム人は、南王国ユダの滅亡(前586年)を喜んだ(エゼ35:15、36:5)。
- ③エドムをギリシア語に音訳するとイドマヤとなる。
- ④ヘロデ大王は、イドマヤ人である。イエスはヤコブの子孫である。

II. イスラエルの反撃(17:9~13)

1. イスラエルにとっては最初の戦いとなる。

(1) 出エジプトによって国が誕生した。

- ①【主】によって造られた国である。
- ②民の間では、いまだに国としての自意識が乏しい。

(2) 若い国にとっては存立にかかわる重大事件であった。

(例話) 日清、日露戦争と似たような状況である。

- ①武器と武器はエジプト人の兵士たちのものだったのだろう。

2. ヨシュアの役割

(1) ヨシュアが指揮官(将軍)となる。

- ①ここでは、彼はモーセの従者である。
- ②この戦争は、将来の指導者を養成するための訓練となる。

(2) ヨシュアの仕事は、最強の兵士たちを選び、戦うこと。

①基本戦略

- * 敵よりも量において勝る。
- * 最も優秀な兵士を揃える。

*一点突破主義で戦う。

②人間的な努力を精一杯する。

3. モーセの役割

(1) モーセの仕事は、執りなしの祈りを捧げること。

①あす(戦いのための準備は1日しかない)

②神の杖を手に持つ。

③丘の頂に立つ。

(2) 戦場にいるイスラエルの民は、モーセが杖を持っているのを見ることができる。

4. 2人の援助者の存在

(1) 兄のアロン

(2) フル

①誰であるかは不明

②ヨセフは、フルはミリアムの夫であるとする(モーセの義兄)。

(3) 【主】の戦いにおける役割分担がある。

5. 自然と超自然のミックス

(1) モーセの手が上がっている時は、イスラエルが優勢になった。

①祈りの姿勢である。

(2) モーセの手が下がっている時は、アマレクが優勢になった。

(3) アロンとフルが両側からモーセの手を支えた。

①モーセの謙遜

②日が沈むまで継続する祈り

③ヨシュアに勝利をもたらす祈り

III. 戦いの記念(17:14～15)

1. 【主】の命令

「このことを記録として、書き物に書きしるし、ヨシュアに読んで聞かせよ。わたしはアマレクの記憶を天の下から完全に消し去ってしまう」

(1) 書き物に記し、記録として残す。

(2) ヨシュアに読んで聞かせる。

①次世代のリーダー訓練

②さらに次の世代に伝えるために

(3) アマレクの記憶が消される。

①申25:19

②Iサム15:2～3

* サウル王への命令。

* サウルは、アマレク人の王アガグと肥えた羊や牛を残した。

③ IIサム 1 : 1

* ダビデがアマレク人を打った。

④ IIサム 8 : 12

2. 祭壇

(1) 「アドナイ・ニシ」と呼ぶ。

① 「主はわが旗」(口語訳、新共同訳)

② 「ヤハウエ・ニシ」(ヤハウエは我が旗)が正しい。

(2) 出 17 : 16

「【主】の御座の上の手」(新改訳) 【主】が手を上げられた。

「主の旗にむかって手を上げる」(口語訳) モーセは【主】に向かって手を上げた。

「彼らは主の御座に背いて手を上げた」(新共同訳) アマレクは手を上げた。

(3) 杖は、イスラエル軍の軍旗である。

① 元来、軍旗は部隊の精神的支柱であった。

② また、指揮官の所在を明示するものであった。

③ 【主】は指揮官としてそこにおられた。

結論：このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

1. 罪と裁きのパターンについて

(1) 出 17 章

① イスラエルの民がモーセ(神)と争った。

② 水に関する争い。

③ モーセは杖で岩を打ち、水が与えられた。

④ 裁きの内容は、アマレクがイスラエルの民と争ったこと。

(2) 民 20 章

① イスラエルの民がモーセとアロンに逆らった。

② 水に関する争い。

③ モーセは杖で岩を2度打ち、水が与えられた。

* モーセはカナンの地に入れなくなった。

④ 裁きの内容は、エドムがイスラエルの民の通過を許さなかったこと。

(3) 霊的原則

① イスラエルの民に与えられた神の約束は、必ず成就する。

② イスラエルの民が罪を犯した時、裁きが下る。

- * 往々にして、神は敵を裁きの器として用いる。
- * イスラエルの民を攻撃した国は、必ず裁かれる。

2. ヨシユアという人物について

(1) ここで登場するのは、ごく自然である。

- ①水の争いの後
- ②2度目の水の争いでモーセが失敗する。
- ③ヨシユアがモーセの後継者であることが暗示されている。

(2) ヨシユアという名前の意味

- ①「【主】は救い」
- ②新約聖書のイエスと同じ。

(3) ヨシユアの成長

- ①出24：13 モーセの従者ヨシユア
- ②出32：17 靈的に未熟

「ヨシユアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。『宿営の中にかくさの声がします』」

- ③出33：11 幕屋の管理

「【主】は、人が自分の友と語るように、顔と顔とを合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシユアという若者が幕屋を離れないでいた」

- ④民13章 12人のスパイの内のひとり

- ⑤ヨシ1：1「さて、【主】のしもべモーセが死んで後、【主】はモーセの従者、ヌンの子ヨシユアに告げて仰せられた」

(4) リーダーの使命は、次のリーダーを育てること

3. 主の戦いの本質について

(1) 不変の原則

- ①勝利の秘訣は、神の祝福と摂理的な御手である。
- ②カナンの地を征服する戦いでも同じ原則が働いている。

(2) 変化する内容

- ①神が、神の民のために戦ってくださる。

* 出14：14「【主】があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない」

- ②神が、神の民の中であって戦ってくださる。

(3) ペリ4：13の原則

「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです」

【出エジ24】出エジプト記18章1節～12節

「イテロの到着」

1. 文脈の確認

(1) レフィディムでの体験

- ①メリバの水
- ②アマレクとの戦い
- ③イテロとの出会い（激闘の後の静寂とでも言うべき風景）
 - *イテロの到着
 - *イテロの助言

2. アウトライン

- (1) イテロが旅をしてきた理由（18：1～6）
- (2) イテロとモーセの会見（18：7～12）

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 不信仰の結果
- (2) 人材への投資
- (3) 家族伝道

このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

I. イテロが旅をしてきた理由（18：1～6）

1. イテロという人物（1節）

(1) 出2：18 レウエルは固有名詞。

- ①「神の友」という意味
- ②アブラハム→イサク→エサウ→レウエル（アブラハムのひ孫）
- ③母は、イシュマエルの娘でネバヨテの妹バセマテ（創36：4）。

(2) 出18：1 イテロはタイトル。

- ①「卓越した」という意味
- ②ミデヤンには王はなく、祭司が首長であった。

(3) モーセのしゅうと

- ①出2：16～22 モーセは井戸のそばでレウエルの7人の娘たちを助けた。
- ②レウエルは、モーセを招いて食事をした。
- ③モーセは、思い切ってこの人といっしょに住むようにした。
- ④レウエルは、娘のチッポラをモーセに与えた。

(4) イテロの移動

- ①出エジプトの情報が彼に伝えられた。
- ②神がモーセと御民イスラエルのためになさったすべてのことを聞いた。

2. イテロが連れて行った人々(2節～4節)

(1) モーセの家族

- ①妻のチッポラ
- ②長男のゲルシヨム
- ③次男のエリエゼル

* この名前はここで初めて登場する。

(2) 家族が実家で待機していた理由

- ①出4：24～26
- ②エジプトへの途上、モーセは危篤状態に陥った。
- ③モーセが次男に割礼を施していなかったため、神が怒った。
 - * 神はアブラハム契約の条項に違反しているモーセを殺そうとされた。
 - * アブラハム契約の条項に違反したままでは、解放者の資格はない。

④妻のチッポラは、急いで弟に割礼を施した。

⑤その包皮をモーセの両足につけ、モーセを死から救った。

⑥モーセは家族を家に帰した。

* 不信仰な家族は、神の計画にとって妨害となる。

⑦マタ19：29「また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます」

⑧マタ10：37「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません」

* 実際に憎むということではない。

* 優先順位の問題である。

(3) 長男ゲルシヨム

「そのひとりの名はゲルシヨムであった。それは『私は外国にいる寄留者だ』という意味である」(新改訳)

「一人は、モーセが、『わたしは異国にいる寄留者だ』と言って、ゲルシヨムと名付け、」(新共同訳)

①ゲルシヨムの意味は、「寄留者」「外国人」である。

* ヘブル人は、誕生時の背景や状況を基に名前を付けることが多い。

②創46:11「レビの子はゲルシオン、ケハテ、メラリ」

* アロンとモーセは、レビ→ケハテ→アムラム→アロンとモーセとなる。

* モーセは、大伯父の名前を自分の長男に付けた。

③この命名は、モーセの信仰告白でもある。

* ヘブ11:13「これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです」

(4) 次男エリエゼル

「もうひとりの名はエリエゼル。それは『私の父の神は私の助けであり、パロの剣から私を救われた』という意味である」(新改訳)

「もう一人は、『わたしの父の神はわたしの助け、ファラオの剣からわたしを救われた』と言って、エリエゼルと名付けた」(新共同訳)

①エリエゼルの意味は、「神は助け手」である。

②殺人者モーセがエジプトを逃れた経緯を指す。

③エリエゼルという名前はここで初めて登場する。

④出4章でチポラが急いで割礼を施した息子である。

3. イテロの到着(5節～6節)

(1) 燃える柴のシナイ山からおよそ1日半の距離か。

①モーセは、シナイ山まで羊を追って来ていた。

②老人にとってもさほどの距離ではない。

(2) イテロからモーセへの伝言

①アマレクとの戦いの後は、衛兵が配置されていたと思われる。

②モーセは、取り次ぎが必要なほど重要な人物となっている。

II. イテロとモーセの会見(18:7～12)

1. モーセが示す敬意(7節)

(1) イテロはモーセの義父であり、ミデヤンの祭司である。

(2) 当時のこの地方の習慣

①身をかがめ(おじぎをすること)

②口づけした。

2. モーセの報告(8節)

(1) エジプトの偶像たちが裁かれたこと

(2) 葦の海を渡ったこと

(3) 荒野でのすべての困難と、そこからの救出劇

3. イテロの喜び(9～11節)

(1) ともに喜んだ。

- ①ロマ12:15「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい」
- ②人間関係を豊かにする秘訣

(2) 告白

「【主】はほむべきかな。主はあなたがたをエジプトの手と、パロの手から救い出し、この民をエジプトの支配から救い出されました」

「今こそ私は【主】があらゆる神々にまさって偉大であることを知りました。実に彼らがこの民に対して不遜であったということにおいても」

- ①異邦人であるイテロが【主】(ヤハウエ)を称えている。
- ②彼は【主】に関する知識を持っていたが、今や体験的に【主】を知った。
- ③エジプトの偶像たちは、不遜であった。

4. 全焼のいけにえと食事(12節)

(1) 祭司であるイテロは、全焼のいけにえを捧げた。

- ①モーセの律法が与えられる前の自然な行為
- ②将来の祭司アロンは、ここでは受動的な存在である。

(2) 神の前での食事

- ①これは、契約の食事である。
- ②イテロは、契約の民イスラエルの共同体の一員となった。
*彼はマナを食べた。
- ③契約の食事の典型：新しい契約を結ぶ際の過越の食事

結論：このメッセージは、神からの訓練を受けるためのものである。

1. 不信仰の結果

(1) チッポラは4:25で登場し、次に出てくるのは、18:2である。

- ①割礼を嫌ったために、モーセが実家に送り返した。

(2) 彼女が体験しそとなったこと

- ①エジプトに下った9つの災害
- ②エジプトに下った第10の災害と過越の食事
- ③葦の海が2つに分かれ、民がそこを通過した体験
- ④マラで水が甘く変わった体験
- ⑤エリムでのオアシスの体験
- ⑥マナが降る体験(これ以降、彼女もそれを食べるようになる)
- ⑦アマレクに勝利した体験

2. 人材への投資

(1) イテロはモーセに投資したと言える。

- ①寄留者のモーセを家に招き入れ、そこに定住することを勧めた。
- ②娘のチッポラを嫁として与えた。

(2) 投資の結果

- ①イテロにとっては、誇らしい結果となった。
- ②「モーセのしゅうとイテロ」という言葉の繰り返しがある。

* 1、2、5、12 (2回)、14、17

(3) よき奉仕者の背後には、その人に投資をした人がいる。

- ①ヨナタンとダビデ
- ②パウロとテモテ

(4) 投資を受けた人には責任が伴う。

- ①良き実をつけること
 - ②次世代への投資を行うこと
- * モーセとヨシュアの関係

3. 家族伝道

(1) イテロの信仰告白

- ①多くの学者が、これを異邦人の救いの型と見る(先駆けと見ていいだろう)。
- ②エペ3：6「その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです」
- ③イザ2：2～3「終わりの日に、【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。多くの民が来て言う。『さあ、【主】の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてください。私たちはその小道を歩もう』。それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから【主】のことばが出るからだ」

(2) イテロの子どもたち

- ①民10：29 レウエルの子ホバブ
- ②士1：16 ケニ人の子孫(ミデヤン人)
- ③士4：11 ケニ人ヘベル

(3) モーセの存在が、家族を【主】に導いた。

【出エジ25】出エジプト記18章13節～27節

「イテロの助言」

1. 文脈の確認

(1) レフィディムでの体験

- ①メリバの水
- ②アマレクとの戦い
- ③イテロとの出会い(激闘の後の静寂とでも言うべき風景)
 - *イテロの到着
 - *イテロの助言

(2) 摂理による神の業

- ①これまでは奇跡の連続であった。
- ②ここでは、摂理による神の業に目を留めたいと思う。

2. アウトライン

- (1) モーセの激務(18:13～16)
- (2) イテロの助言(18:17～23)
- (3) 助言の受容と実行(18:24～26)
- (4) イテロの帰還(18:27)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) リーダーのあるべき姿
- (2) リーダーの行動力
- (3) 聖書的教会像

このメッセージは、聖書的リーダーシップを学ぶためのものである。

I. モーセの激務(18:13～16)

1. 忠実なリーダー(13節)

(1) 「翌日」

- ①イテロと食事をした翌日のことである。
- ②しゅうとをもてなす暇もなく、モーセは仕事に励んだ。

(2) 「座に着いた」

- ①さばきつかさ(裁判官)としての責務を行っている。
- ②争い好き、口論好きな民である(モーセやアロンにも反抗する)。

(3) 「朝から夕方まで」

- ①種類も深刻さも異なる雑多な争いごとが持ち込まれて来た。
- ②150～200万人の争いごとが持ち込まれて来た。
- ③いつ果てるともしれない激務である。

2. イテロの疑問 (14 節)

「モーセのしゅうとは、モーセが民のためにしているすべてのことを見て、こう言った。『あなたが民にしているこのことは、いったい何ですか。なぜあなたひとりだけがさばきの座に着き、民はみな朝から夕方まであなたのところに立っているのですか』」

(1) 観察

- ①観察しているのは、イテロが有能なリーダーであることの証拠である。
- ②その観察は、モーセとイスラエルの民に祝福をもたらすという動機に基づく。

(2) 質問

- ①知らないからではなく、会話を導くための知恵である。
- ②なぜ責任を分担しないのか。
- ③なぜ民はいつまで経っても自分の問題を聞いてもらえないのか。

3. モーセの回答 (15～16 節)

「モーセはしゅうとに答えた。『民は、神のみこころを求めて、私のところに来るのです。彼らに何か事件があると、私のところに来ます。私は双方の間をさばいて、神のおきてとおしえを知らせるのです』」

(1) 神のみこころを求めて

- ①マナと安息日に関して
- ②礼拝の規定に関して
- ③相互に果たすべき義務に関して

(2) 何か事件があると

- ①刑法的なもの
- ②民法的なもの
- ③道徳法的なもの

(3) モーセは双方の言い分を聞いて、判断を下す。

- ①律法がまだ与えられていないので、モーセの指示を仰ぐ必要があった。
- ②判断を下し、何をなすべきかを教えた。

(4) このようなリーダーシップを取っていた理由

- ①エジプトの統治形態は、パロによる専制政治である。
- ②エジプトからは、ハムラビ法典のような法体系は発掘されていない。
- ③すべては、状況に応じたパロの命令によって決定された。
- ④エジプトで教育を受けたモーセは、エジプト風リーダーシップを採用した。

II. イテロの助言(18:17～23)

1. 現状評価(17～18節)

「するとモーセのしゅうとは言った。『あなたのしていることは良くありません』」

- (1) 道徳的・倫理的評価ではない。
- (2) 今の方法は、正しくないという意味である。
 - ①ひとりで重荷を担ぎ過ぎている。
 - ②モーセも民も、疲れ果ててしまう。

2. 助言(19～23節)

- (1) イテロはモーセに、預言者としての役割と管理的役割の分離を勧めた。
- (2) 預言者としての役割
 - ①民の代表として神の前に出る。
 - ②事件を神のところに持って行く。
 - ③神の教えを民に伝える。
 - ④なすべきことを民に教える。
- (3) 管理的役割
 - ①千人の長、百人の長、50人の長、10人の長を民の上に立てる(さばきつかさ)。
 - ②資格は4つある。
 - * 力のある人々(精神的力のこと)
 - * 神を恐れる人々
 - * 不正の利を憎む人々
 - * 誠実な人々
- (4) 権威の委譲
 - ①さばきつかさたちが、民をさばく。
 - ②大きい事件の場合は、それをモーセのところに持って来させる。
 - ③小さい事件はみな、彼らがさばく。
- (5) 神の御心

「もしあなたがこのことを行えば、——神があなたに命じられるのですが——あなたはもちこたえることができ、この民もみな、平安のうちに自分のところに帰ることができます」

 - ①イテロは、モーセがこのことについて神に祈るであろうことを確信していた。
 - ②自分の助言が神の御心と合致するなら、という意味である。
 - ③自分の助言を受け入れてそれを実行するなら、長く奉仕することができる。
 - ④民にとっても祝福となる。短時間の内に、自分の住まいに帰ることができる。

Ⅲ. 助言の受容と実行 (18:24～26)

1. モーセはしゅうとイテロの助言を聞き入、すべて言われた通りにした (24～26節)。
 - (1) 千人の長、百人の長、50人の長、10人の長の任命
 - (2) 役割の分担
 - ①彼らは、むずかしい事件はモーセのところに持って来た。
 - ②小さい事件は、自分たちでさばいた。

Ⅳ. イテロの帰還 (18:27)

1. 安心して国に帰った。
 - (1) ミデヤンの地
 - (2) 老年のゆえに、約束の地への旅には加わらなかった。
2. 彼の子孫は、イスラエルの信仰に改宗する。
 - (1) 士1:16 ケニ人

「モーセの義兄弟であるケニ人の子孫は、ユダ族といっしょに、なつめやしの町からアラデの南にあるユダの荒野に上って行って、民とともに住んだ」
 - (2) I歴2:55 レカブ家

「ヤベツに住んでいた書記の諸氏族は、ティルア人、シムア人、スカ人。彼らはレカブ家の父祖ハマテから出たケニ人である」
 - (3) エレ35:1～19 レカブ人の家

「イスラエルの神、万軍の【主】は、こう仰せられる。『あなたがたは、先祖ヨナダブの命令に聞き従い、そのすべての命令を守り、すべて彼があなたがたに命じたとおりに行った』。それゆえ、イスラエルの神、万軍の【主】は、こう仰せられる。『レカブの子、ヨナダブには、いつも、わたしの前に立つ人が絶えることはない』」(18～19節)

結論：このメッセージは、聖書的リーダーシップを学ぶためのものである。

1. リーダーのあるべき姿
 - (1) 熱心さ (勤勉)
 - ①始めたことを完成させようという決意
 - ②フォロワーよりも多く働くという決意
 - (2) 謙遜 (心が柔らかい)
 - ①民12:3 「さて、モーセという人は、地上のだれにもまさって非常に謙遜であった」
 - ②イテロはモーセのしゅうとであり、年長者である。
 - ③しかし、神に関する知識においてはモーセが格段に上である。

(3) 良きリーダーは、良きフォロワーでもある。

2. リーダーの実行力

(1) 真の実行力とは、暴走する力ではない。

(2) 神の御心に沿って実行する力である。

①申1：9～18 モーセの律法を与えられて以降のことである。

②イテロの助言を受け入れたが、それを実行に移すまでに時間が経過している。

③モーセは神に祈って、それを実行に移した。

④民の同意を得て、それを実行に移した。

(3) 実行する前の熟慮

①神のみこころを確認したか。

②状況が整っているか。

③かかわる人たちの同意を得ているか。

3. 聖書的教会像

(1) 使6：3～6「そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします」。この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた。

①霊的資質：御霊に満ちた人

②人間的資質：知恵に満ちた人

(2) 預言者としての役割と管理的役割の分離

(3) 聖書的教会像の特徴

①単独の人物による管理ではない。

②完全な民主主義でもない。

③複数のリーダーシップによる管理が想定されている。

(4) 単独の人物による管理の危険性

①カルト化の危険性

②その人物がいなくなった時に、教会が消滅する危険性

【出エジ26】出エジプト記19章1節～25節

「シナイ契約の準備」

1. 文脈の確認

- (1) エジプトを出た民は、約束の地を目指して荒野を旅している。
- (2) レフィディムから次の宿営地であるシナイの荒野に入った。
 - ① 15:22～19:2までが、エジプトからシナイの荒野までの旅の記録。
 - ② 残りの部分(19章から40章)は、すべてシナイの荒野での啓示。
- (3) その啓示の内容は、シナイ契約(モーセ契約)と呼ばれるものである。
 - ① きょうの箇所は、その契約を結ぶ準備段階である。
 - ② 契約条項は、20章以降に出てくる。

2. アウトライン

- (1) 場所(19:1～2)
- (2) イスラエルの召命(19:3～9)
- (3) イスラエルの聖別(19:10～15)
- (4) 神の顕現(シャカイナグローリー)(19:16～25)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 選びの意味
- (2) 召命の内容
- (3) 律法と恵みの関係

このメッセージは、聖書の救いの構造を理解するためのものである。

I. 場所(19:1～2)

1. エジプトからシナイの荒野までに要した時間

- (1) 新改訳「第三の月の新月のその日に」
 - ① 3月1日のこと
 - ② 1月15日から42日が経過している。
- (2) 新共同訳「三月目のその日に」
 - ① 3月15日のこと
 - ② 1月15日からちょうど2ヶ月が経過している。
 - ③ あるいは、4月15日のことか。
 - ④ 1月15日からちょうど3ヶ月が経過している。
- (3) いずれにしても、休みながらの移動なので、相当な時間を要した。

(4) これは、出3:12の約束の成就である。

「神は仰せられた。『わたしはあなたとともにいる。これがあなたのためのしるしである。わたしがあなたを遣わすのだ。あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない』」

- ①「しるし」とは、歴史的しるし(後になって分かるしるし)である。
- ②「神に仕える」とは、第一義的には、神を礼拝することである。
- ③モーセは、特別な感慨をもってこの時を迎えたことであろう。

2. 地名と地形

(1) ホレブは山脈、シナイはその山脈の中のひとつの山。

(2) 山の麓に広大な平地が広がっている。

- ①恐らく、山の東側であろう。
- ②200万人前後の民の宿营地として、広大な平地が必要である。
- ③民は、シナイ山に神が下って来られる様子を目撃する必要があった。

3. これまでのイスラエルの民の神体験

(1) 神の力の体験

- ①エジプトに下った災いの体験
- ②過越の夜の体験
- ③葦の海の体験

(2) 神の守りの御手の体験

- ①水の供給
- ②マナの供給
- ③アマレクに対する勝利

(3) まだ目覚めていないこと

- ①神の聖い性質
- ②神の人類救済計画
- ③自分たちに与えられた使命

(4) 神の視点からは、民の心からエジプトの影響を取り除く作業が待っている。

- ①エジプトの神々は偶像である。
- ②真の神は唯一である。
- ③それを教えるために、契約を結ぶ。
- ④この契約は、宗主契約(宗主国と属国の間の契約)の形式を取っている。

*【主】が宗主国、イスラエルの民が属国

II. イスラエルの召命 (19:3~9)

1. 【主】からの呼びかけ (3節)

(1) 山の上に雲があり、モーセはそれに向かって上って行った。

- ①シャカイナグローリーのこと
- ②この時点で、山の頂に上ったわけではない。

(2) 「あなたは、このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げよ」

- ①ヤコブの家と、イスラエルの人々は、同じである。
- ②出エジプトの世代のイスラエルの民は、ヤコブ (イスラエル) の子孫である。
- ③過去と現在との連続性を見ることができる。
- ④神は約束をお守りになる。

2. 契約の前提 (4節)

「あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た」

(1) 過去の回顧

- ①【主】はイスラエルの民をエジプトから解放した。
- ②「鷲の翼に載せ」とは、追って来る敵の手からすみやかに救出したことを指す。
* 申 32:11
* 黙 12:14
- ③「わたしのもとに連れて来た」とは、神の山シナイ山に来たことを指す。

(2) イスラエルの民は、以上のことを目撃者となった。

3. 契約の条件 (条項) (5a節)

「今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら」

(1) 訳語の問題

- ①「今」(新改訳、新共同訳)
- ②「それで」(口語訳)
- ③神からこれほどの恵みを受けた者として、神に対する責務がある。

(2) 「まことにわたしの声に聞き従い」

- ①真心から
- ②注意深く耳を傾け
- ③喜んで従うこと。

(3) 「わたしの契約を守るなら」

- ①これから啓示されることがら
- ②神からの祝福の啓示
- ③イスラエルの民の責務の啓示

4. 祝福の約束(5b～6a節)

(1)「あなたがたはすべての国々の民の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから」(5b)

- ①【主】は、全世界の所有者である。
- ②【主】は、御心のままに祝福し、罰することができる。
- ③イスラエルの民は、特別な宝(神の私有財産)となる。
- ④イザ43:4の約束

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ」

- *この約束は、第一義的にはイスラエルの民に与えられた。
- *神はイスラエルの民を守るために、エジプトを罰した。
- *異邦人クリスチャンは、アブラハム契約の幹に接ぎ木された枝である。

(2)「あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる」(6a節)

①祭司の王国

- *奴隷の民ではなく、独立国となる。
- *神を王とした王国となる。
- *神の律法(法律)が統治原則となる。
- *その王国には、祭司職が設けられ、神との交流が維持される。
- *イスラエルの民は、諸国民に対して祭司職を行う民となる。

②聖なる国民

- *諸国の中から分離された国民
- *神を知る知識と、神への礼拝を保持する国民
- *神の律法に従って歩む聖なる国民

5. 民の応答(6b～8節)

(1)「これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである」

- ①あなたがたは、神の力と恵みを体験した。
- ②それゆえ、神の声に聴き従い、神との契約を守りなさい。
- ③そうすれば、あなたがたは神にとって特別な民となる。

(2)モーセは民の長老たちに【主】のことばを伝えた(7節)。

(3)「私たちは【主】が仰せられたことを、みな行います」(8節)。

- ①民は同意した。
- ②余りにも軽すぎる同意である。
- ③自分の限界を知らなさ過ぎる。

(4)モーセは、民のことばを【主】に届けた。

6. 【主】からの答え(9節)

- (1) シャカイナグローリーの中から、【主】はモーセに語る。
- (2) 民は、その声を聞く。
 - ①モーセが本当に神と語っていることを知るため
 - ②モーセのリーダーシップを民が認めるため

III. イスラエルの聖別(19:10～15)

1. 契約締結のための準備

- (1) 2日間かけた準備
 - ①体と衣服を洗う。内面の聖めを教えるために、外側の聖めを命じる。
 - ②男女関係を避ける。
- (2) 3日目には、【主】がシナイ山に降りて来られる。
 - ①民全体の目の前で
 - ②シャカイナグローリーそのものである。

2. シナイ山は聖なる山となる。

- (1) 周囲に境を設ける必要性が出て来た。
 - ①人間も動物も、その境を越えることは許されない。
- (2) 角笛の音が長く鳴り響く時、山に登らねばならない。

3. モーセは民にその通りのことを行わせた。

IV. 神の顕現(シャカイナグローリー)(19:16～25)

1. 神の啓示の最も驚くべきケースが展開されている。

- (1) シャカイナグローリーのモチーフ
 - ①雷といなずま
 - ②密雲
 - ③角笛の音
- (2) 民はみな震え上がった。
- (3) モーセは、神を迎えるために彼らを山の麓に立たせた。
- (4) 神が山の上に降りて来られた。
 - ①全山が煙っていた。
 - ②火の中であって
 - ③かまどの煙のように立ち上り
 - ④全山が激しく震えた
 - * 破壊的なほどの揺れではない。
 - * 民に恐れを与えるに十分な揺れがあった。

⑤角笛の音がいよいよ高くなった。

(5) モーセと神の対話

- ①この喧噪の中でも、神との対話は可能であった。
- ②民は、神の声を聞いた。

2. シナイ山に上るモーセ

(1) 【主】はシナイ山の頂に降りて来られた。

- ①モーセを山の頂に呼び寄せられた。
- ②モーセがシナイ山の頂に登るのは、これが最初である。

(2) 【主】からの戒め(21～22節)

- ①境を越えて【主】に近づかないように。
- ②シャカイナグローリーは、神が自然を超越したお方であることを示している。
- ③人間が神に近づくためには、神が用意した方法によらねばならない。
 - * この方法は、後に啓示される。
 - * 幕屋と祭儀法は、そのためのものである。

④この方法には例外がない。祭司たち(レビ族)も例外ではない。

(3) モーセの答え(23節)

- ①民にはすでに警告を発しているのです、再度警告する必要はない。
- ②モーセよりも、神の方がイスラエルの民の本質をよく知っている。

(4) 【主】からの再度の戒め(24節)

- ①降りて行け。
- ②次は、アロンといっしょに登れ。
- ③それ以外の者は、境を越えてはならない。

3. シナイ山を下るモーセ

(1) モーセは【主】の命じられたことを民に伝えた。

(2) これで、契約締結の準備ができた。

結論：このメッセージは、聖書の救いの構造を理解するためのものである。

1. 選びの意味

(1) イスラエルの民は選びの民である。

- ①選民思想は、現代人には人気のない考え方である。
- ②しかし、これを否定するならば、聖書の救いの歴史は成り立たなくなる。

(2) その選びは、神によるものである。

- ①「アブラハムの選び」の延長線上にある。
- ②先ず神が、イスラエルの民に恵みを与え、彼らをエジプトから解放された。
- ③イスラエルの民は、律法を行ったからではなく、恵みによって選民となった。

2. 召命の内容

(1) 選びの目的は、全人類を救うためである。

①選びのための選びではなく、方法の選びである。

②選ばれたがゆえの責務が伴う。それが召命 (calling) である。

(2) 特別な祝福

①神の宝

②祭司の王国

③聖なる国民

(3) 祭司的使命

①神の愛と義を、諸国民に示す。

②神と諸国民の間に立って、両者をつなげる。

③後の歴史が示すように、イスラエルの民はその使命を果たすことに失敗した。

3. 律法と恵みの関係

(1) ヘブ 12:18～22「あなたがたは、手でさわれる山、燃える火、黒雲、暗やみ、あらし、ラッパの響き、ことばのとどろきに近づいているのではありません。このとどろきは、これを聞いた者たちが、それ以上一言も加えてもらいたくないと願ったものです。彼らは、『たとい、獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない』というその命令に耐えることができなかつたのです。また、その光景があまり恐ろしかったので、モーセは、『私は恐れて、震える』と言いました。しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです」

①これは、信仰が後退しつつあるユダヤ人信者への警告である。

②律法の時代と恵みの時代の対比がなされている。

(2) モーセの律法は、劇的なシャカイナグローリーの中で与えられた。

①民は恐れた。

②モーセも恐れた (申 9 : 19)

(3) 恵みの時代は、メシア誕生のしらせとともに始まった。

①ルカ 2 : 8～14

②シャカイナグローリーがある。

③羊飼いたちは恐れた。

④「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです」

⑤天の軍勢による賛美

(4) 私たちが近づいているのは、地上のシナイ山ではなく、天のエルサレムである。

①生ける神の都

②天使たちの大宴会

【出エジ27】出エジプト記20章1節～17節

「モーセの律法の7つの側面」

1. 文脈の確認

(1) 出19章の内容は、シナイ契約の準備であった。

①神は、過去の出来事を回顧し、契約の前提(土台)を示された。

②神は、契約の条件を示された。

③神は、契約の祝福を示された。

(2) きょうの箇所から、契約の条項(モーセの律法)が啓示される。

(3) モーセの律法は、613の命令からなる。

①十戒は、その最初に出てくるものである。

②それは、天使たちを通して与えられた。

*ユダヤ教の伝承の中から、正しいものが新約聖書に採用された。

③3つの聖句

*使7:53(新共同訳) ステパノのメッセージ

「天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした」

*ガラ3:19

「では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです」

*ヘブ2:2

(4) モーセの律法に関して混乱がある。

①土曜日の礼拝を主張する人たちがいる。

②律法そのものを悪と見る人たちがいる。

③旧約は終わったのだから、新約だけを読めばいいと言う人たちがいる。

④モーセの律法に関する誤解を解く。

2. アウトライン(モーセの律法の7つの側面)

(1) 救いの方法ではない。

(2) 神が聖であること示す。

(3) 旧約時代の聖徒たちの行動基準である。

(4) 人の罪を示す。

(5) 人にもっと罪を犯させる力となる。

(6) 人を信仰へと導く。

(7) すでに終わった。

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) クリスマンとモーセの律法の関係
- (2) クリスマンの行動基準

このメッセージは、モーセの律法を人類救済計画の中に正しく位置づけるためのものである。

I. 救いの方法ではない。

1. 契約の背景

- (1) イスラエルの民は、すでにエジプトから解放されている。
 - ① 神がイニシアティブを取って行動された。
 - ② 神に選ばれたことを土台として、モーセの律法が与えられる。

2. もしこれが救いの方法であるなら、それは「業による救い」となる。

- (1) アブラハムの義認 創 15: 6 「彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた」
 - ① 信仰義認の原則
 - ② これが聖書を貫く唯一の救いの方法である。
- (2) 救いの方法の確認
 - ① 救いの方法：信仰により恵みによって
 - ② 信仰の対象：神
 - ③ 信仰の内容：時代によって異なる。
 - ④ 救いの土台：キリストの死

II. 神が聖であることを示す。

1. イスラエルの民への教育

- (1) 神の力と守りの御手は経験したが、神のご性質については無知である。
- (2) 613の律法を読み進むことによって、神がいかに聖なるお方であるかが分かる。
 - ① レビ 11: 45 「あなたがたは聖なる者となりなさい。わたしが聖であるから」
 - ② この聖句が、モーセの律法の中心にある。

2. 業による救いは不可能であることが分かる。

- (1) 読み進めば、613にまでいかなくても実行不可能であることが分かる。
- (2) 山上の垂訓
 - ① メシアによるモーセの律法の解釈
 - ② それもまた、救いの方法を示したものではない。
 - ③ すでに信仰によって救われた聖徒たちへのメッセージである。

Ⅲ. 旧約時代の聖徒たちの行動基準である。

1. イスラエルの民の召命

(1) 神の宝

- ①諸国民の中で特別な存在
- ②神の私有財産

(2) 祭司の王国

- ①神が王であり、祭司職を持った国
- ②神と諸国民をつなぐ役割

(3) 聖なる国民

- ①神を知る知識と真の礼拝を保持する国民
- ②その性質が聖である国民

2. 神によって召された国民として行動基準が必要

(1) 旧約時代の聖徒たちにとっての信仰表現とは、モーセの律法に従うことである。

- ①真の信仰を持ったことが、行動によって証明される。
- ②アブラハムがイサクを捧げたのは、そういう意味である。

(2) 新約時代の聖徒たちにも、行動基準が与えられている。

- ①それを、キリストの律法という。

Ⅳ. 人の罪を示す。

1. パウロの教え

(1) ロマ3：20「なぜなら、律法を行うことによって、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです」

- ①これは、パウロ自身の体験である。
- ②人類の歴史上、律法を行うことによって義とされた人はひとりもない。
- ③律法は、罪の意識を生じさせる。

(2) ロマ3：28「人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです」

- ①人間の側の誇りは取り去られた。

2. 律法が悪いわけではない。

(1) 問題は、人の内側にある罪の性質である。

V. 人にもっと罪を犯させる力となる。

1. パウロの教え

(1) ロマ4:15「律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違反もありません」

①罪の性質はあっても、律法がなければ、律法違反ということが成り立たない。

(2) ロマ7:7「それでは、どういうことになりますか。律法は罪なのでしょう。絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、『むさぼってはならない』と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう」

①律法は悪でも罪でもない。

②律法によって、人の罪の性質が活動を始めるのである。

(3) ロマ7:8～10「しかし、罪はこの戒めによって機会を捕らえ、私のうちにあらゆるむさぼりを引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たときに、罪が生き、私は死にました。それで私には、いのちに導くはずのこの戒めが、かえって死に導くものであることが、わかりました」

①律法が、罪の性質が働く土台となった。

②律法が与えられたので、罪の性質は暴君のようになって暴れ出した。

2. するなと言われれば、したくなるのが私たちである。

(例話) 十戒の朗読を嫌う婦人の話

VI. 人を信仰へと導く。

1. パウロの教え

(1) ガラ3:23～24「信仰が現れる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ、閉じ込められていましたが、それは、やがて示される信仰が得られるためでした。こうして、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私たちが信仰によって義と認められるためなのです」

①律法は、業による救いが不可能であることを示す。

②その結果、信仰による救いを求めるようになる。

③最終的には、キリストに対する信仰へと導かれる。

2. 犠牲の動物

(1) 救いの方法ではない。

(2) 旧約時代の聖徒たちは、血の犠牲の必要性を認識するようになった。

VII. すでに終わった。

1. モーセの律法は統一体である。

- (1) 全部終わったか、全部残っているかのどちらかである。
- (2) よく行われるモーセの律法の分割法
 - ①祭儀法
 - ②道徳法
 - ③民法
- (3) 祭儀法と民法とは終わったが、道徳法は今も有効であるとの主張がある。
 - ①モーセの律法の分割は不可能。
 - ②一部が今も有効であるという主張には、聖書的根拠がない。

2. パウロの教え

- (1) ロマ10：4「キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認められるのです」
 - ①キリストは律法の要求を満たされた。
 - ②つまり、律法が目的としていたことが成就したので、その効力が消えた。
- (2) ガラ3：19「では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです」
 - ①一時的に与えられたもの
 - ②この子孫（メシア）の登場とともに終わる。
- (3) ヘブ7：12「祭司職が変われば、律法も必ず変わらなければなりません、私たちが今まで論じて来たその方は、祭壇に仕える者を出したことの無い別の部族に属しておられるのです」
 - ①モーセの律法を運用する土台は、レビ族から出た祭司である。
 - ②ヘブル人への手紙が論じている祭司とは、メシアであるイエス。
 - ③イエスは、レビ族ではなく、ユダ族から出ている。
 - ④祭司職が変わった（メルキゼデクの位の祭司）。
 - ⑤それゆえ、律法も変わらねばならない。
 - ⑥新しい律法とは、「キリストの律法」である。

結論：このメッセージは、モーセの律法を人類救済計画の中に正しく位置づけるためのものである。

1. クリスマンとモーセの律法の関係

(1) エペ2：14～16「キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまな規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました」

①敵意とは、律法のこと。

②それは、二つのもの（ユダヤ人と異邦人）を分けている「隔ての壁」である。

③十字架によって、敵意（律法）は葬り去られた。

(2) エペ2：12「そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあって望みもなく、神もない人たちでした」

①異邦人は、望みもなく、神もない人たち。

②「約束の契約」（複数形）：神がイスラエルと結んだ無条件契約

* アブラハム契約

* 土地の契約

* ダビデ契約

* 新しい契約

③異邦人も信仰により、ユダヤ人の契約の祝福に与ることができるようになった。

2. クリスマンの行動基準

(1) IIコリ3：6「神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです」

①文字は殺す。

②「石に刻まれた文字」（7節）とは、十戒のこと。

③十戒だけは有効とする考え方は否定されている。

④律法には、義認の力も、聖化の力もない。

⑤御霊がそれをするのである。

(2) ガラ6：2「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい」

①「キリストの律法」（Iコリ9：21も参照）

②キリストの律法の条項の中には、十戒の中の9戒が含まれている。

③使徒の働き以降の書簡の教えが、キリストの律法である。

④その実行を可能にするのは、聖霊の働きである。

(3) 新約時代の信者は、モーセの律法から多くの適用を学ぶことができる。

【出エジ28】出エジプト記20章1節～17節

「シナイ契約(1)」

1. 文脈の確認

- (1) 出19章の内容は、シナイ契約の準備であった。
- (2) きょうの箇所から、契約の条項(モーセの律法)が啓示される。
 - ①モーセの律法は613の命令から成る。
 - ②十戒は、その最初に出てくるものである。

2. 十戒に関する認識の相違

- (1) ユダヤ人の認識：2枚の石板にそれぞれ5つの戒めが書かれている。
 - * 第1戒：わたしは【主】(ヤハウェ)である。
 - * 第2戒：ほかの神々があってはならない。偶像を作ってはならない。
 - * 第3戒：御名をみだりに唱えてはならない。
 - * 第4戒：安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。
 - * 第5戒：両親を敬え。
 - * 第6戒：殺してはならない。
 - * 第7戒：姦淫してはならない。
 - * 第8戒：盗んではならない。
 - * 第9戒：偽りの証言をしてはならない。
 - * 第10戒：隣人のものを欲しがってはならない。
- (2) クリスチャンの認識(A)：2枚の石板にそれぞれ5つの戒めが書かれている。
 - * 第1戒：ほかの神々があってはならない。
 - * 第2戒：偶像を作ってはならない。
 - * 第3戒：御名をみだりに唱えてはならない。
 - * 第4戒：安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。
 - * 第5戒：両親を敬え。
 - * 第6戒：殺してはならない。
 - * 第7戒：姦淫してはならない。
 - * 第8戒：盗んではならない。
 - * 第9戒：偽りの証言をしてはならない。
 - * 第10戒：隣人のものを欲しがってはならない。
- (3) クリスチャンの認識(B)：最初に3つ、次に7つの戒めが書かれている。
 - * 第1戒：ほかの神々があってはならない。偶像を作ってはならない。
 - * 第2戒：御名をみだりに唱えてはならない。

- * 第3戒：安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。
- * 第4戒：両親を敬え。
- * 第5戒：殺してはならない。
- * 第6戒：姦淫してはならない。
- * 第7戒：盗んではならない。
- * 第8戒：偽りの証言をしてはならない。
- * 第9戒：隣人の家を欲しがってはならない。
- * 第10戒：隣人の妻、奴隷、家畜を欲しがってはならない。

(4) 第4の認識：2枚の石板にはともに10の戒めが書かれている。

- ①出32：15「モーセは向き直り、二枚のあかしの板を手にして山から降りた。板は両面から書いてあった。すなわち、表と裏に書いてあった」
- ②申19：15「どんな咎でも、どんな罪でも、すべて人が犯した罪は、ひとりの証人によっては立証されない。ふたりの証人の証言、または三人の証人の証言によって、そのことは立証されなければならない」

3. シナイ契約の構造（宗主契約）

- * 当時の政治的な契約形式を採用している。
- * ただし、偶像的要素はすべて排除されている。
- * この契約によって、神はイスラエルの民を正式な契約関係へと招かれた。

- (1) この契約を結ぶ王の名（20：1）
- (2) この契約を結ぶに至った歴史的経緯（20：2）
- (3) 両者が同意する条項（命令と祝福）（20：3～17）
- (4) 挿入句（20：18～26）
- (5) 基本条項に付加された諸条項（21：1～23：33）
- (6) 契約の書を朗読する時と、それを保管する場所（24：7、25：16）
- (7) 証人として神々が呼ばれる（24：4、12の石の柱）
- (8) 祝福と呪い（23：20～33）

4. アウトライン

- (1) この契約を結ぶ王の名（20：1）
- (2) この契約を結ぶに至った歴史的経緯（20：2）
- (3) 両者が同意する条項（命令と祝福）（20：3～17）
 - * 第1戒～第4戒

5. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 第1戒と第2戒の現代的適用
- (2) 第3戒の現代的適用
- (3) 第4戒の現代的適用

このメッセージは、モーセの律法を人類救済計画の中に正しく位置づけるためのものである。

I. この契約を結ぶ王の名 (20：1)

「それから神はこれらのことばを、ことごとく告げて仰せられた」

1. 語る主体は「神」(エロヒム)である。
2. 語る内容は「これらのことば」である。
 - (1) 「十のことば」(The Ten Words)
 - ①出34：28
 - ②申4：13、10：4
 - (2) 気まぐれや、思いつきの言葉ではない。
 - ①創造主から人間に与えられた生活原則である。
 - ②人生のマニュアル(取り扱い説明書)である。

II. この契約を結ぶに至った歴史的経緯 (20：2)

「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、【主】である」

1. 宗主契約の前書きの部分に当たる。
 - (1) この契約が可能であり、道理にかなっていることを示している。
2. イスラエルの民を契約関係に招いているのは、知らない神ではない。
 - (1) アブラハム、イサク、ヤコブの神である。
 - (2) その御名は【主】である。
 - (3) イスラエルの民をエジプトから救った神である。
 - ①イスラエルの民は、神の力を体験した。
 - ②イスラエルの民は、神の恵みを体験した。

III. 両者が同意する条項(命令と祝福) (20：3～17)

- * 神との契約関係に入った者の行動規範
- * 第1戒～第4戒は、神と人との関係を規定する。
- * 第5戒～第10戒は、人と人との関係を規定する。

1. 第1戒(3節)

「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない」

- (1) 正しい神学を持つということである。
 - ①すべての神学が正しいわけではない。
 - ②しかし、神学なしに正しい信仰を持つことはできない。

(2) 神は唯一であるということを認めることが信仰の第一歩である。

①申4：35「あなたにこのことが示されたのは、【主】だけが神であって、ほかには神はないことを、あなたが知るためであった」

②イザ43：10～11「あなたがたはわたしの証人、——【主】の御告げ——わたしが選んだわたしのしもべである。これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、わたしがその者であることを悟るためだ。わたしより先に造られた神はなく、わたしより後にもない。わたし、このわたしが、【主】であって、わたしのほかに救い主はいない」

(3) イスラエルの民の使命は、神が唯一であることを諸国民に示すことである。

2. 第2戒(4～6節)

「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、【主】であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである」

(1) 真の礼拝とは何かを教えている。

①神は被造の世界を超越している。

②その神を目に見えるもので表現することは不可能である。

③それをするなら、最終的には被造物を拝む結果を招く。

(2) 礼拝のための像を造ることを禁止したもので、それ以外の像は除外される。

①モーセは幕屋の中にケルビムの織物や、像を造った。

(3) 【主】は、ねたむ神である。

①イザ54：5～6「『あなたの夫はあなたを造った者、その名は万軍の【主】。あなたの贖い主は、イスラエルの聖なる方で、全地の神と呼ばれている。【主】は、あなたを、夫に捨てられた、心に悲しみのある女と呼んだが、若い時の妻をどうして見捨てられようか』とあなたの神は仰せられる」

②イスラエルの民は、【主】の妻である。

③偶像礼拝は、靈的姦淫である。

④【主】は、夫が妻に対して嫉妬するように、背信の民に対して嫉妬する。

(4) 「父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし」

①父の犯した罪のゆえに子が罰を受けることはない。

②先祖の罪の悪影響が子孫に及ぶということ。

③【主】はそれを三代か四代でとどめてくださる。

(5) 「恵みを千代にまで施す」

- ①先祖の良い影響が子孫に及ぶということ。
- ②その場合は、それが長く続くということ。

(6) 神の義と愛とのバランスを保つことが必要である。

3. 第3戒(7節)

「あなたは、あなたの神、【主】の御名を、みだりに唱えてはならない。【主】は、御名をみだりに唱える者を、罰せずにはおかない」

(1) 神の尊厳や性質を引き下げてはいけないということを教えている。

- ①ヘブル的には、名は実態を表す。
- ②「みだりに唱える」とは、神を価値のない存在のように扱うことである。
- ③実行する気がないのに、神の名によって誓うのは、この罪に当たる。

(2) ユダヤ人たちは、偶然に神の御名をみだりに唱えることさえ恐れた。

- ①発音しなくなった。
- ②ヤハウエという発音が最も近いと思われるが、正確なところは分からない。

4. 第4戒(8～11節)

「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならぬ。しかし七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。——あなたも、あなたの息子、娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も——それは【主】が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、【主】は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された」

(1) 神との契約関係に入ったなら、神がなさるようになる。

- ①創造の7日目に、神は休まれた。
- ②6日間ですべての労働を終え、7日目に休む。

(2) 安息日は、シナイ契約のしるしである。

- ①出31：13
- ②奴隷から自由の民となったことのしるしである。

(3) 神が私たちの必要を満たしてくださる方であることを思い出す。

結論：このメッセージは、モーセの律法を人類救済計画の中に正しく位置づけるためのものである。

1. 第1戒と第2戒の適用

- (1) 他の神々があってはならないという命令は、キリストの律法にもある。
- (2) 「神」とは、私たちの心の中心を占めているもの。

- (3) エペ5：5 「あなたがたがよく見て知っているとおりに、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です、——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません」
- (4) イスラエルの民は【主】の妻
- (5) 新約時代の信者は、キリストの花嫁
 - ①【主】のねたみは、花婿が花嫁に対して抱く感情である。

2. 第3戒の適用

- (1) 【主】の御名を辱めてはならないという命令は、キリストの律法にもある。
- (2) 英語圏の人たちの御名の使用法
- (3) ヤコ2：7 「あなたがたがその名で呼ばれている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか」
- (4) カルト的言葉
 - ①神が私にこう語っている。
 - ②私は聖霊によって語っている。
- (5) 霊的リーダーが置かれている位置
 - ①恐ろしいのは、人々が耳を傾けないことではない。
 - ②人々が耳を傾け、それに従うことこそ恐ろしいのである。

3. 第4戒の適用

- (1) 安息日の規定は、キリストの律法にはない。
- (2) 安息日は、キリストを信じた人が経験する霊的状态の型である。
 - ①ヘブ4章
- (3) 新約時代の信徒は、どの日に礼拝をしてもよい。
 - ①ロマ14：5 「ある日を、他の日に比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい」
 - ②ヘブ10：25 「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか」
 - * 定期的集まる。
 - * 最低週に1回であろう。

【出エジ29】出エジプト記20章1節～17節

「シナイ契約(2)」

1. 文脈の確認

(1) シナイ契約は宗主契約である。

- ①当時の政治的な契約形式を採用している。
- ②この契約によって、神はイスラエルの民を正式な契約関係へと招かれた。

(2) シナイ契約の構造

- ①この契約を結ぶ王の名(20:1)
- ②この契約を結ぶに至った歴史的経緯(20:2)
- ③両者が同意する条項(命令と祝福)(20:3～17)
- ④挿入句(20:18～26)
- ⑤基本条項に付加された諸条項(21:1～23:33)
- ⑥契約の書を朗読する時と、それを保管する場所(24:7、25:16)
- ⑦証人として神々が呼ばれる(24:4、12の石の柱)
- ⑧祝福と呪い(23:20～33)

2. アウトライン

- (1) 両者が同意する条項(命令と祝福)(20:3～17)の後半
- (2) 第5戒～第10戒を扱う。

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 第5戒～第10戒の現代的適用

このメッセージは、モーセの律法を人類救済計画の中に正しく位置づけるためのものである。

I. 第5戒(20:12)

「あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである」

- (1) 両親を敬うことは、神の立てた秩序と権威に従うことである。
- (2) 両親を敬うことは、謙遜を学ぶことである。
 - ①自分だけで立っている人はいない。
 - ②傲慢は破滅をもたらす。
- (3) この戒めには約束が伴っている。
 - ①個人的な長寿というよりも、約束の地で長く住むという約束。

(4) イエスによる引用

- ① マタ 15：4 「神は『あなたの父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は死刑に処せられる』と言われたのです」
- ② マコ 7：10

II. 第6戒 (20：13)

「殺してはならない」

(1) 命の尊厳を教えたもの

- ① 個人的な理由で、故意に殺すこと。
- ② 自殺もこれに含まれる。

(2) この戒めに含まれないもの

- ① レビ 20：10 「人がもし、他人の妻と姦通するなら、すなわちその隣人の妻と姦通するなら、姦通した男も女も必ず殺されなければならない」
- ② 民 35：16～21 「血の復讐をする者は、自分でその殺人者を殺してもよい。彼と出会ったときに、彼を殺してもよい」(19節)
 - * 故意に殺人を犯した者を殺してもよい。
 - * 過失の場合は、犯人は逃れの町に逃げ込むことができる。

③ 申 13：15 (新共同訳 13：16)

「あなたは必ず、その町の住民を剣の刃で打たなければならない。その町とそこに
いるすべての者、その家畜も、剣の刃で聖絶しなさい」

- * 偶像礼拝を扇動した者への裁き
- * 【主】が命じる戦争における殺人

(3) 第6戒を基に死刑廃止論を展開するのは的外れである。

III. 第7戒 (20：14)

「姦淫してはならない」

- (1) 結婚関係の尊厳を教えたもの
- (2) すべての性的罪を含む。
- (3) 結婚している人が犯す罪は、相手に対する裏切りとなる。

IV. 第8戒 (20：15)

「盗んではならない」

- (1) 私有財産の尊厳を教えたもの
- (2) 神は私たちが所有している物まで評価し、認めておられる。
- (3) 盗むことは、自分には自分の思い通りに生きる権利があると言うのと同じ。

V. 第9戒 (20:16)

「あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない」

「隣人に関して偽証してはならない」(新共同訳)

- (1) 真実の大切さを教えたもの
- (2) 嘘をつくかどうかは、個人的なことである。
- (3) ここでは、隣人に関する偽証が問題になっている。
 - ①法廷での偽証から、偽りの噂話まで含む。
 - ②偽証を拒否することは、無私的行為、隣人の価値を守る行為である。

VI. 第10戒 (20:17)

「あなたの隣人の家を欲しがってはならない。すなわち隣人の妻、あるいは、その男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを、欲しがってはならない」

- (1) 心の問題を扱っている。
 - ①貪欲という罪
 - ②他人が持っている物を手に入れたなら、幸せになるという誤解
- (2) 神はすべての必要を満たしてくださるという信仰を否定する行為である。
- (3) この戒めを守ることができるなら、十戒すべてを守ることができる。

結論：このメッセージは、モーセの律法を人類救済計画の中に正しく位置づけるためのものである。

1. 第5戒の適用

- (1) エペ6:1~3 「子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。『あなたの父と母を敬え』。これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、『そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする』という約束です」
 - ①第一の戒めとは、約束が伴った第一の戒めという意味
- (2) 第5戒はキリストの律法の中に含まれている。
 - ①「【主】が与えようとしている地で」→「地上で」
- (3) エペ6章の文脈から学ぶこと
 - ①結婚生活はキリストと教会の関係の投影である。
 - ②親子関係もまた、主への献身の投影(表れ)でなければならない。
 - ③子どもは神への献身の表れとして両親を敬う。
 - ④両親もまた神への献身の表れとして子どもたちを訓練する。

2. 第6戒の適用

(1) マタ5：21～22「昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければならない。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます」

①パリサイ人の口伝律法と、イエスの律法解釈の違い

②モーセの律法は、心の在り方を問題にしている。

(2) Iヨハ3：15「兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです」

3. 第7戒の適用

(1) ヘブ13：4「結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行う者とをさばかれるからです」

4. 第8戒の適用

(1) エペ4：28「盗みをしている者は、もう盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい」

5. 第9戒の適用

(1) ヤコ4：11「兄弟たち。互いに悪口を言い合ってはいけません。自分の兄弟の悪口を言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているのです。あなたが、もし律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者です」

6. 第10戒の適用

(1) コロ3：5「ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです」

①第10戒はむさぼりの罪である。それはそのまま偶像礼拝である。

②第10戒は第1戒と第2戒につながる。

7. まとめ

(1) 第5戒～第10戒は、人と人との関係を規定する。

①古代世界で極めて稀な道徳法である。

②異教の神々は気まぐれで、不道徳で、信頼できない。

③イスラエルの民においては、神への信仰の表現が道徳的行為となる。

④十戒の中で第4戒(安息日)以外はすべてキリストの律法に再度出てくる。

⑤神が人を扱われるように、人は隣人を扱うべきである。

(2) キリストの律法の本質（ロマ 13：8～10）

「だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです。『姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな』という戒め、またほかにどんな戒めがあっても、それらは、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』ということばの中に要約されているからです。愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします」

【出エジ 30】 出エジプト記 20 章 18 節～ 26 節

「シナイ契約 (3)」

1. 文脈の確認

(1) シナイ契約は宗主契約である。

①当時の政治的な契約形式を採用している。

②この契約によって、神はイスラエルの民を正式な契約関係へと招かれた。

(2) シナイ契約の構造

①両者が同意する条項 (命令と祝福) (20 : 3 ~ 17)

②挿入句 (20 : 18 ~ 26)

③基本条項に付加された諸条項 (21 : 1 ~ 23 : 33)

2. アウトライン

(1) 民の恐れ (20 : 18 ~ 21)

(2) 偶像に関する命令 (20 : 22 ~ 23)

(3) 祭壇に関する命令 (20 : 24 ~ 26)

3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

(1) メシア論の一端を論じてみたい。

仲介者イエス・キリストの本質を教える7つの箇所

このメッセージは、メシア論の一端を論じるものである。

I. 民の恐れ (20 : 18 ~ 21)

1. 恐るべき光景 (18a 節)

(1) 彼らは恐るべき光景を目撃した。

「民はみな、雷と、いなずま、角笛の音と、煙る山を目撃した」

(2) ヘブ 12:18 ~ 21 「あなたがたは、手でさわられる山、燃える火、黒雲、暗やみ、あらし、ラッパの響き、ことばのとどろきに近づいているではありません。このとどろきは、これを聞いた者たちが、それ以上一言も加えてもらいたくないと願ったものです。彼らは、『たとい、獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない』というその命令に耐えることができなかつたのです。また、その光景があまり恐ろしかったので、モーセは、『私は恐れて、震える』と言いました」

①ヘブル人の記憶に刻まれている歴史のひとつ。

②こう書けば、誰もがこの出来事を理解した。

2. 民の恐れ

(1) この時の民の状態 (18b 節)

「民は見て、たじろぎ、遠く離れて立った」

(2) 民の言葉 (19 節)

「彼らはモーセに言った。『どうか、私たちに話してください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお話しにならないように。私たちが死ぬといけませんから』」

①神の権威、栄光、聖なることを目撃した。

②自らの罪を認識した。

③仲介者の必要性を感じた。

④ルカ5：8「これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、『主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから』と言った」

⑤律法は人の罪を示し、人をメシアに導く。

3. モーセの応答

(1) 神が直接民に語った理由を説明する (20 節)。

「それでモーセは民に言った。『恐れてはいけません。神が来られたのはあなたがたを試みるためなのです。また、あなたがたに神への恐れが生じて、あなたがたが罪を犯さないためです』」

①恐れる必要はない。

②神が民に直接語られた理由は、イスラエルの民に恐れを与えるためである。

③それは、死に至る恐れではなく、健全な畏怖の念である。

④畏怖の念を持った者は、罪を犯さなくなる。

(2) モーセは仲介者としての行動を開始する (21 節)

「そこで、民は遠く離れて立ち、モーセは神のおられる暗やみに近づいて行った」

①民は神に直接応答することをせず、遠く離れて立っている。

②モーセは神に近づいて行った。

③「暗やみ」に入ると、その中にシャカイナグローリーが輝いているということ。

④モーセはメシアの型である。

II. 偶像に関する命令 (20：22～23)

1. この命令の背景 (22 節)

「【主】はモーセに仰せられた。『あなたはイスラエル人にこう言わなければならない。あなたがた自身、わたしが天からあなたがたと話したのを見た』」

(1) 神は目に見える世界を超越している。

①「天から話した」

(2) イスラエル民は神が話すのを聞き、神の権威を体験した。

- ①それが恐れの原因となった。
- ②モーセに仲介者になるように懇願した。

2. 命令の内容 (23 節)

「あなたがたはわたしと並べて、銀の神々を造ってはならない。また、あなたがた自身のために金の神々も造ってはならない」

- (1) 礼拝の対象として、偶像を造ってはならない。
- (2) 銀や金で造ってはならない。
 - ①最初の偶像は、金の子牛であった (32 章)。
 - ②偶像の価値を高めるために、貴金属が用いられる。

III. 祭壇に関する命令 (20 : 24 ~ 26)

1. 祭壇を造れという命令

- (1) これは幕屋の設計図が示される前の祭壇である。
- (2) 信仰の行為によって造られる祭壇である。
 - ①族長たちも祭壇を造った。
 - ②目的は、【主】へのいけにえを捧げるためである。
 - ③幕屋建設以降も、このような祭壇は造られた。
- (3) 旧約聖書の例
 - ①士 6 : 24 「そこで、ギデオンはそこに【主】のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。これは今日まで、アビエゼル人のオフラに残っている」
 - ②士 13 : 19 「そこでマノアは、子やぎと穀物のささげ物を取り、それを岩の上で【主】にささげた。主はマノアとその妻が見ているところで、不思議なことをされた」
 - ③Iサム 7 : 17 「(サムエルは) ラマに帰った。そこに自分の家があったからである。彼はそこでイスラエルをさばいた。彼はまた、そこに【主】のために一つの祭壇を築いた」

2. 祭壇の造り方

- (1) 土の祭壇
 - ①非常に質素な素材である。
 - ②神を礼拝する際の心の在り方を暗示している。
 - ③この命令には、祝福の約束が伴っている。
- (2) 石の祭壇
 - ①石の多い場所で祭壇を造る場合、切り石、のみを当てた石、は使用しない。
 - ②カナン人の偶像礼拝者たちは、見事な石で祭壇を築いていた。

③のみを石に当てることは、偶像を刻む誘惑を受けることである。

④階段を造らない。

⑤裸が表れないように。これもまた、カナン人の淫乱な礼拝を避けるためである。

⑥この祭壇は、非常に低い。神の前での謙遜を教えている。

- (3) ヨハ4:23～24「しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません」

結論：このメッセージは、このメッセージは、メシア論の一端を論じるものである。

聖句：Iテモ2:5「神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです」

(1) 人でなければ死ねない。

(2) 神でなければ救えない。

仲介者イエス・キリストの本質を教える7つの箇所

1. 人として成長しながら(ルカ2:40)、永遠の昔からおられた(ヨハ8:58)。
「幼子は成長し、強くなり、知恵に満ちていった。神の恵みがある上であつた」
「イエスは彼らに言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです』」
2. 肉体の疲れを覚えながら(ヨハ4:6)、疲れている人を招かれた(マタ11:28)。
「そこにはヤコブの井戸があつた。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は第六時ごろであつた」
「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」
3. 空腹になりながら(マタ4:2)、「命のパン」だと宣言された(ヨハ6:35)。
「そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた」
「イエスは言われた。『わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません』」
4. 渴きを覚えながら(ヨハ4:7、19:28)、命の水を提供された(4:10、7:37～38)。
「ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは『わたしに水を飲ませてください』と言われた」

「この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、『わたしは渴く』と言われた」

「イエスは答えて言われた。『もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言う者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう』

「さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。『だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる』

5. 「父はわたしよりも偉大な方」(ヨハ 14:28)と言いながら、「わたしを見た者は、父を見た」(ヨハ 14:9)と言われた。

『わたしは去って行き、また、あなたがたのところに来る』とわたしが言ったのを、あなたがたは聞きました。あなたがたは、もしわたしを愛しているなら、わたしが父のもとに行くことを喜ばずです。父はわたしよりも偉大な方だからです」

「イエスは彼に言われた。『ペリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか』

6. 墓の前で泣きながら (ヨハ 11:35)、死人を蘇らせた (ヨハ 11:43)。

「イエスは涙を流された」

「そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。『ラザロよ。出て来なさい』

7. 十字架に付きながら (マタ 27:46)、救いを約束された (ルカ 23:43)。

「三時ごろ、イエスは大声で、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と叫ばれた。これは、『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である」

「イエスは、彼に言われた。『まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます』

【出エジ 31】 出エジプト記 21 章 1 節～ 22 章 15 節

「シナイ契約 (4)」

1. 文脈の確認

(1) シナイ契約は宗主契約である。

①当時の政治的な契約形式を採用している。

②この契約によって、神はイスラエルの民を正式な契約関係へと招かれた。

(2) シナイ契約の構造

①両者が同意する条項 (命令と祝福) (20 : 3 ~ 17)

②挿入句 (20 : 18 ~ 26)

③基本条項に付加された諸条項 (21 : 1 ~ 23 : 33)

(3) モーセの律法に関する理解の変遷

① 19 世紀終わりまでの理解

* モーセの律法は、ローマ法よりも千年も古い最古の法典。

* モーセの律法のユニークさが強調された。

② 20 世紀初頭、ハムラビ法典 (前 1700 年頃) の発掘

* バビロニアの王ハムラビが布告した。

* モーセの律法よりも少なくとも 300 年も前にできている。

* 判例法の体系は、類似している。

* 同態復讐法も、類似している。

* モーセの律法は、ハムラビ法典を手本にしているという説が生まれた。

③ 20 世紀半ば、ウル・ナンム法典 (前 2000 年頃) の発掘

* メソポタミア文明のウル第三王朝・初代王ウル・ナンムによって発布。

* 現存する世界最古の法典

* ハムラビ法典よりもさらに古い法典があることが分かった。

④ 古代中近東の法体系には、ある一定の特徴がある。

* モーセの律法も、その特徴に基づいて作られている。

* 古代法では、祭儀法 (祭司が司る) と市民法 (王が司る) とは分離。

* モーセの律法では、祭儀法と市民法は、同じ法体系の中に含まれる。

2. アウトライン

(1) 奴隷の扱い (21 : 1 ~ 11)

(2) 傷害事件 (21 : 12 ~ 32)

(3) 物権の侵害 (21 : 33 ~ 22 : 15)

3. きょうのメッセージから、現代的適用を学ぶ。

このメッセージは、モーセの律法の現代的適用を学ぼうとするものである。

I. 奴隷の扱い (21: 1 ~ 11)

1. 前文 (1節)

- ①モーセが仲介者として神の命令を民に伝える。
- ②イスラエル人の基本的人権を守るための規定
- ③違反した場合の罰則規定

2. 男奴隷 (2 ~ 6節)

(1) ヘブル人の奴隷

- ①この時代にあっては、貧者には奴隷制は必要不可欠なものであった。
- ②経済的理由で自分を売る場合がある。
- ③盗みの代償を支払うために自分を売る場合もある (22: 3)。

(2) 6年仕え、7年目に去ることができる。

- ①自由の身として無償で去ることができる。
- ②手ぶらでなく、物質的祝福を与えて去らせる。

「彼を自由の身にしてやるときは、何も持たせずに去らせてはならない。必ず、あなたの羊の群れと打ち場と酒ぶねのうちから取って、彼にあてがってやらなければならない。あなたの神、【主】があなたに祝福として与えられたものを、彼に与えなければならない。あなたは、エジプトの地で奴隷であったあなたを、あなたの神、【主】が贖い出されたことを覚えていなさい。それゆえ、私は、きょう、この戒めをあなたに命じる」(申 15: 13 ~ 15)

「彼を自由の身にしてやるときには、きびしくしてはならない。彼は六年間、雇い人の賃金の二倍分あなたに仕えたからである。あなたの神、【主】は、あなたのなすすべてのことにおいて、あなたを祝福してくださる」(申 15: 18)

(3) 妻があれば、妻ともに去る。

(4) 主人から与えられた妻なら、その妻と、生まれた子どもを置いて行く。

- ①その妻と子どもは、主人の所有物である。

(5) 自由意思による奴隷

- ①主人のもとに留まり、家族とともに住むことを願った場合
- ②ある儀式によってその願いが確定する。

「その主人は、彼を神のもとに連れて行き、戸または戸口の柱のところに連れて行き、彼の耳をきりで刺し通さなければならない。彼はいつまでも主人に仕えることができる」(6節)

* 彼はその家の所有物となる。

2. 女奴隷(7～11節)

(1) 男奴隷よりも扱いが優しい。

①父が経済的理由で自分の娘を女奴隷として売る。

(2) 7年目に去るのとは男奴隷と同じ。

(3) 女奴隷だけにある規定

①主人がめかけとなった女奴隷を嫌った場合

*旧約聖書は、めかけの制度を禁止していない。

*彼女が、家族、親戚、友人などによって贖い出されるようにする。

*残った年数を基に、その価格を決める。

*異邦人に売ってはならない(男奴隷の場合も同じ)。

②息子の嫁とした場合は、娘として取り扱う。

③複数のめかけを持った場合、彼女たちを平等に扱う。

*食べ物

*着物

*夫婦の務め(夫婦の交わり)

*このことを行わないなら、女奴隷は無償で去ることができる。

*聖書は、男女の結婚関係を祝福している。雅歌のテーマである。

II. 傷害事件(21:12～32)

1. 死刑が求められる事件

(1) 殺人事件(12～14節)

①殺人犯は、必ず殺されなければならない。

②過失致死の場合は、逃れの場所に逃げ込むことができる(民35:6～28)。

③遺族は、復讐することができない。

④もし殺人犯がそこに逃げ込んだ場合は、無理やりにでも連れ出し、殺す。

(2) 誘拐事件(16節)

①いかなる場合でも、犯人は殺されなければならない。

(3) 両親への侮辱(15、17節)

①両親に暴力を振るった者は、殺される。

②両親に暴言を吐いた者は、殺される。

2. 補償が要求される事件

(1) 傷害事件(18～19節)

①休業補償をする。

(2) 奴隷に暴力を働いた場合 (20～21 節)

- ①即死させた場合は、相応の罰(死刑ではない)を受ける。
- ②そうでない場合は、自分で自分の財産を破壊したと解釈される。
- ③主人が奴隷に暴力を働くことを抑制するための規定

(3) 流産の場合 (22～23 節)

①流産させた場合

- * その女の夫との交渉で罰金を支払う。
- ②その女に対する殺傷事故となった場合
 - * 「いのちにはいのち」とは、いのちに値する対価を払うこと。

(4) 同態復讐法 (24～25 節)

「目には目。歯には歯。手には手。足には足。やけどにはやけど。傷には傷。打ち傷には打ち傷」

- ①過剰な裁きを行わないようにとの意図がある。
- ②字義通りに解釈すると
 - * 二通りの解釈がある。
 - * 実践においては、物質的補償を差し出すことが多い。

(5) 奴隷の人権 (26～27 節)

- ①目の代償として、その奴隷を自由の身とする。
- ②歯の代償として、その奴隷を自由の身とする。

3. その他の事件 (28～32 節)

(1) 牛が人を殺した場合

- ①牛は石打ちの刑に処す。
- ②肉は食べてはならない。
- ③牛の持ち主は無罪である。

(2) 持ち主が、牛に突くくせがあることを知っていた場合

- ①牛は石で撃ち殺される。
- ②持ち主は殺人犯と見なされる。
 - * 未必の故意
 - * 死刑か、それに相当する罰金刑

(3) 牛が奴隷を殺した場合

- ①奴隷の主人に、銀貨 30 シェケルを支払う。
- ②牛を石打ちの刑に処す。

Ⅲ. 物権の侵害 (21:33 ~ 22:15)

1. 物権を侵害した場合

①失われた物と同価の補償を支払う。

2. 盗みを働いた場合 (22:1)

①数倍にして償う。

②牛は5倍、羊は4倍

③生きてままで見つかった場合は、2倍。

3. どちらに責任があるか分からない場合は、神の前に出て誓う。

①具体的方法は書かれていない。

結論：このメッセージは、モーセの律法の現代的適用を学ぼうとするものである。

1. 盗みを働いた場合の償い

(1) 牛は5倍、羊は4倍

(2) ルカ 19:7~9 「これを見て、みなは、『あの方は罪人のところに行って客となられた』と言ってつぶやいた。ところがザアカイは立って、主に言った。『主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します』。イエスは、彼に言われた。『きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから』

①モーセの律法が機能していた時代

②ザアカイは、救われた。

* 信仰が、モーセの律法に従うという形で明らかになった。

(3) 私たちも、信仰によって救われるが、信仰は行動によって表現される。

2. 牛が奴隷を殺した場合

(1) 奴隷の主人に、銀貨30シケルを支払う。

①死んだ奴隷の値段

②どんな奴隷でも同じ値段

(2) マタ 26:15 「そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテ・ユダという者が、祭司長たちのところへ行って、こう言った。『彼をあなたがたに売るとしたら、いったいいくらくれますか』。すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った」

①イエスを売る提案をしたのは、イスカリオテのユダ

②値踏みをしたのは、ユダヤ人の指導者たち

* 銀貨30枚とは、銀貨30シケルのこと。

* イエスを見下した値段である。

③イエスの生涯は、奴隷のそれであった。

3. 奴隷

(1) 古代世界では、奴隷になることは神々から見捨てられたことを意味する。

(2) 契約の民の間では、そうではない。

①7年後に次のチャンスが与えられる。

②やり直しがきく。

③永遠に主人の所有物になるのではない。

(3) 自由意志の奴隷 (bond slave) という道がある。

①彼は自由になった。

②しかし、家族への愛、主人への愛のゆえに、戸口の柱のところに立つ。

③耳をきりで刺し通される。

(4) ロマ1：1 「神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ」

①「しもべ」とはギリシア語で「デューロス」。

②この言葉は、自由意志の奴隷 (bond slave) である。

③パウロは自らを、「デューロス」と呼び、生涯そのように生きた。

④私たちはキリストにあって自由となり、キリストにあって「デューロス」となった。

【出エジ32】出エジプト記22章16節～31節

「シナイ契約（5）」

1. 文脈の確認

(1) シナイ契約の構造

- ①シナイ契約は宗主権契約である。
- ②両者が同意する条項（命令と祝福）（20：3～17）
 - * 十戒
- ③基本条項に付加された諸条項（21：1～23：33）
 - * 十戒の原則を解説した補足条項
 - * 判例法の形式を取っている。

(2) 前回学んだ内容

- ①奴隷の扱い（21：1～11）
- ②傷害事件（21：12～32）
- ③物権の侵害（21：33～22：15）

2. きょうのアウトライン（その他の規定）

- (1) 処女の誘惑
- (2) 呪術
- (3) 獣姦（動物が相手の性行為）
- (4) 偶像礼拝
- (5) 在留異国人
- (6) やもめとみなしご
- (7) 利息
- (8) 神へののろい
- (9) 初子
- (10) 殺された家畜

3. きょうのメッセージから、神の性質と現代的適用を学ぶ。

このメッセージは、モーセの律法から神の性質と現代的適用を学ぼうとするものである。

I. 処女の誘惑（16～17節）

「まだ婚約していない処女をいざない、彼女と寝た場合は、その人は必ず花嫁料を払って、彼女を自分の妻としなければならない。もし、その父が彼女をその人に与えることを堅く拒むなら、その人は処女のために定められた花嫁料に相当する銀を支払わなければならない」

1. ヘブル式結婚

- (1) 婚約を経て結婚へ
- (2) 法的には婚約すると結婚したのと同じ
- (3) 「婚約していない処女」とは、まだ制約のない状態の乙女

2. もし婚約している場合は、両者ともに死刑になる(申22:23～24)。

3. 「いざない」とは誘惑のことである。

- (1) 巧みな言葉によって、過大な約束をする。
- (2) 態度によって愛を表現する。

4. 罰則

- (1) その人は花嫁料(結納金)を払って、彼女を妻とする。
- (2) 父が拒む場合は、花嫁料だけを支払う。
- (3) 目的は、結婚の尊厳を教えるため。

II. 呪術(18節)

「呪術を行う女は生かしておいてはならない」

1. 「呪術を行う女」とあるのは、呪術を行うのは主に女性だからである。

- (1) 闇の世界(悪霊)との交流によって、情報や力を得ようとする。
- (2) 下北半島、^{おそれざん}恐山のイタコ
- (3) 沖縄のユタ

2. 「呪術を行う女」は死刑となる。

- (1) イスラエルの民は、かつてそういう文化の中にいた(エジプト)。
- (2) 今や、創造主、先祖の神に立ち返り、自由の民となった。
- (3) 神を信じる者の世界観と、呪術者の世界観とは対立する。

III. 獣姦(動物が相手の性行為)(19節)

「獣と寝る者はすべて、必ず殺されなければならない」

1. 人間の墮落の深みを教えている。

①カナン人の習慣の中にあつた行為

②ロマ1:26～27「こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。

すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうしで情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行うようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです」

IV. 偶像礼拝 (20 節)

「ただ【主】ひとりのほかに、ほかの神々にいけにえをささげる者は、聖絶しなければならぬ」

1. 偶像礼拝と呪術とは相関関係にある。
 - (1) 被造の世界を超越した神を目に見えるもので表現しようとする。
 - (2) 神の許しの範囲を越えて、将来をのぞき見ようとする行為である。
2. 死罪に当たるが、ここでは「聖絶」という言葉が使用されている。
 - (1) ヘブル語で「ヘレム」という。
 - (2) 「聖絶しなければならぬ」(新改訳)
 - (3) 「断ち滅ぼされる」(新共同訳)
3. ヨシ6:21の例
 - (1) エリコの町は聖絶の対象であった。
 - (2) アカンの罪のゆえに、アイとの戦いに敗れた。
4. それ以外の聖句
民31:15～17、申7:2、20:16～17、ヨシ10:1、11:12
士21:11、Iサム15:3、27:9～11、エレ25:9

V. 在留異国人 (21 節)

「在留異国人を苦しめてはならない。しいたげてはならない。あなたがたも、かつてはエジプトの国で、在留異国人であったからである」

1. 在留異国人の存在は、かつての自分たちの姿を思い起こすきっかけとなる。
2. 在留異国人を大切に扱う理由
 - (1) 自分たちが受けた苦しみを知っているので、在留異国人に優しくする。
 - (2) 神の性質を思い起こして、自分たちもそれにならう。
 - (3) ルカ6:31「自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい」

VI. やもめとみなしご (22～24 節)

「すべてのやもめ、またはみなしごを悩ませてはならない。もしあなたが彼らをひどく悩ませ、彼らがわたしに向かって切に叫ぶなら、わたしは必ず彼らの叫びを聞き入れる。わたしの怒りは燃え上がり、わたしは剣をもってあなたがたを殺す。あなたがたの妻はやもめとなり、あなたがたの子どもはみなしごとなる」

1. 神が人間を評価する基準は、人間の基準とは異なる。
 - (1) 富、地位、能力ではない。
 - (2) 創1：27「神のかたち」
2. やもめとみなしごは、当時の世界では、最も弱い人たちである。
 - (1) 神は弱者を憐れみ、守るお方である。
 - (2) 神は彼らの祈りを聞かれる。
3. やもめとみなしごを悩ませる人への罰
 - (1) 神がその人を殺す。
 - (2) その人の妻と子どもたちは、やもめとみなしごになる。

VII. 利息 (25～27 節)

「わたしの民のひとりで、あなたのところにいる貧しい者に金を貸すのなら、彼に対して金貸しのようにあってはならない。彼から利息を取ってはならない。もし、隣人の着る物を質に取るようなことをするのなら、日没までにそれを返さなければならない。なぜなら、それは彼のただ一つのおおい、彼の身に着ける着物であるから。彼はほかに何を着て寝ることができよう。彼がわたしに向かって叫ぶとき、わたしはそれを聞き入れる。わたしは情け深いから」

1. 利息を取ってはならない。
 - (1) イスラエル人同士の間で適用される命令
 - (2) 異邦人の場合は、利息を取ってもいいとされている。
2. 着物(上着)を質に取る場合
 - (1) 利息ではないが、補償として質物を取る場合のこと
 - (2) 日没までに返す。
 - (3) 理由は、「わたしは情け深いから」。

VIII. 神へののろい (28 節)

「神をのろってはならない。また、民の上に立つ者をのろってはならない」

1. 神への畏怖の念を忘れてはならない。
2. 神によって立てられた秩序を軽蔑してはならない。
 - (1) ロマ13：1～2「人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにもついでているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます」

IX. 初子 (29 節)

「あなたの豊かな産物と、あふれる酒とのささげ物を、遅らせてはならない。あなたの息子のうち初子は、わたしにささげなければならない。あなたの牛と羊についても同様にしなければならない。七日間、その母親のそばに置き、八日目にわたしに、ささげなければならない」

1. 産物

(1) 申 8 : 8 7つの産物

「小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろの地、オリーブ油と蜜の地

(2) 量は規定されていない。

2. 初子の息子

(1) 出 13 : 2 の再確認

「イスラエル人の間で、最初に生まれる初子はすべて、人であれ家畜であれ、わたしのために聖別せよ。それはわたしのものである」

(2) 聖別とは、贖い金を支払うことである。

(3) 民 18 : 16 によれば、5 シェケルである。

3. 動物の初子

(1) 聖い動物は、いけにえとする。

(2) 聖くない動物は、5 シェケルであがなう。

X. 殺された家畜 (31 節)

「あなたがたは、わたしの聖なる民でなければならない。野で獣に裂き殺されたものの肉を食べてはならない。それは、犬に投げ与えなければならない」

1. レビ 17:10～11「また、イスラエルの子らの者、または彼らの間の在留異国人のだれであっても、どんな血でも食べるなら、わたしはその血を食べる者から、わたしの顔をそむけ、その者をその民の間から断つ。なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である」

(1) 「肉のいのちは血の中にある」

(2) 命の尊厳を教えるために、血を食べることを禁止した。

2. 獣に殺された家畜の肉を食べることは、血のついた肉を食べることである。

3. エホバの証人はこの規定を曲解し、本来の意味から外れた教えを広めている。

結論：このメッセージは、モーセの律法から神の性質と現代的適用を学ぼうとするものである。

1. 神は永遠である。

神の存在が消滅することは決してない。それゆえ、神の守りの御手はすべての物と出来事の上に常にある。神に信頼する者は、失望させられることがない。

2. 神は全能である。

全能の神は、私の日々の生活を守ってくださる。また、朽ちない体に復活する希望を与えてくださる。

3. 神は全知である。

全知の神は、私の行動と意思をすべて知っておられ、その上で、私を愛してくださる。悲劇や試練が起こる時、私は神に祈り、神から慰めを受けることができる。なぜなら、神は私にとって不可解なことでもすべてご存知で、それらを益としてくださるから。全知の神の前に立つ日が来ることを思い、自らの生活を正すことができる。

4. 神は遍在する。

神が遍在するという事実は、信者にとっては慰めとなり、未信者にとっては警告となる。私は、人生のいかなる状況下にあっても、神の臨在を体験し、それを楽しむことができる。

5. 神は聖である。

罪人である私は、神が用意された方法によらなければ、神に近づくことができない。神が用意された方法とは、イエス・キリストの贖いの死である。神の子とされた私は、神が聖であることを覚え、自らの生活において聖なる選びと行為を追求しなければならない。

6. 神は愛である。

神は、罪人の私を愛してくださる。また、私が誤った道に進んだ時には、私を訓練し、矯正し、正しい道に連れ戻してくださる。神は、私のいのちの価値を、御子のいのちを犠牲にするほどに高く見積もってくださった。

7. 神は義である。

義なる神は、私に対して決して不公平なことはなさない。それゆえ、自己弁護をしたり、仕返しをしたりする必要はない。神が私のことを心配してくださるので、重荷を神に委ねればよい。

【出エジ33】出エジプト記23章1節～19節

「シナイ契約(6)」

1. 文脈の確認

(1) シナイ契約の構造

- ①シナイ契約は宗主権契約である。
- ②両者が同意する条項(命令と祝福)(20:3～17)
 - *十戒
- ③基本条項に付加された諸条項(21:1～23:33)
 - *十戒の原則を解説した補足条項
 - *判例法の形式を取っている。

(2) 今回の内容

- ①諸条項の最後の部分
- ②今回は、命令を守った者への祝福が出てくる。

2. きょうのアウトライン

- (1) 正義と公正
- (2) 祭り

3. きょうのメッセージから、モーセの律法の現代的適用を学ぶ。

このメッセージは、モーセの律法から現代的適用を学ぼうとするものである。

I. 正義と公正(1～9節)

1. 裁判において(1～3節)

「偽りのうわさを言いふらしてはならない。悪者と組んで、悪意ある証人となってはならない。悪を行う権力者の側に立ってはならない。訴訟にあたっては、権力者にかたよって、不当な証言をしてはならない。また、その訴訟において、貧しい人を特に重んじてもいけない」

- (1) 悪者からの圧力があっても、真実を証言する。
- (2) 多数の者からの圧力があっても、真実を証言する。
 - ①権力者は多数の者とも訳せる。
- (3) 同情できる状況であっても、真実を証言する。
 - ①貧しい人への憐れみの心は、重要である。
 - ②しかし、貧しい人が罪を犯しているなら、それは別個の問題である。

2. 動物について(4～5節)

「あなたの敵の牛とか、ろばで、迷っているのに出会った場合、必ずそれを彼のところに返さなければならない。あなたを憎んでいる者のろばが、荷物の下敷きになっているのを見た場合、それを起こしてやりたくなくても、必ず彼といっしょに起こしてやらなければならない」

- (1) 敵の家畜であっても、迷っているのに出会ったら、必ず所有者に返す。
- (2) こちらを憎んでいる者の家畜が苦しんでいるなら、助けてあげる。
- (3) モーセの律法は、一貫して動物愛を説いている。

3. 再び、裁判において(6～8節)

「あなたの貧しい兄弟が訴えられた場合、裁判を曲げてはならない。偽りの告訴から遠ざからなければならない。罪のない者、正しい者を殺してはならない。わたしは悪者を正しいと宣告することはしないからである。わいろを取ってはならない。わいろは聡明な人を盲目にし、正しい人の言い分をゆがめるからである」

- (1) 誤った動機で動いてはならない。
- (2) 無罪の人を訴えてはならない。
- (3) 冤罪を排除する。
- (4) 贈賄、収賄の禁止。
- (5) 神の性質を考えることこそが、正義と公正を行う動機となる。

4. 在留異国人について(9節)

「あなたは在留異国人をしいたげてはならない。あなたがたは、かつてエジプトの国で在留異国人であったので、在留異国人の心をあなたがた自身がよく知っているからである」

- (1) 出22:21にすでに出ていた命令である。
- (2) 自らがエジプトで経験した苦しみが、他者への思いやりを生む。

II. 祭り(10～19節)

1. 安息年(10～11節)

「六年間は、地に種を蒔き、収穫をしなければならない。七年目には、その土地をそのままにしておき、休ませなければならない。民の貧しい人々に、食べさせ、その残りを野の獣に食べさせなければならない。おどろ畑も、オリーブ畑も、同様にしなければならない」

- (1) 約束の地に定住して以降に実行する規定である。
- (2) この規定が与えられている理由
 - ①神が土地の所有者であり、イスラエルの民は小作人であることを学ぶため。

- ②神に信頼することを学ぶため。
- ③貧しい人々、野の獣、などへの配慮を示すため。
- ④結果的に、より多くの収穫を得るため。

2. 安息日(12節)

「六日間は自分の仕事をし、七日目は休まなければならない。あなたの牛やろばが休み、あなたの女奴隷の子や在留異国人に息をつかせるためである」

(1) 安息日の目的

- ①「息をつかせるため」(新改訳)
- ②「休ませるため」(口語訳)、「元気を回復するため」(新共同訳)

(2) イスラエルの民だけでなく、家畜、奴隷、在留異国人も恩恵に浴する。

3. 真実な礼拝(13節)

「わたしがあなたがたに言ったすべてのことに心を留めなければならない。ほかの神々の名を口にしてはならない。これがあなたの口から聞こえてはならない」

- (1) 神を信じ、礼拝するとは、神の命令を実行することである。
- (2) 偶像の名を唱えてはならない。ほかの神々を信頼してはならないということ。

4. 巡礼祭(14～17節)

「年に三度、わたしのために祭りを行わなければならない。種を入れないパンの祭りを守らなければならない。わたしが命じたとおり、アビブの月の定められた時に、七日間、種を入れないパンを食べなければならない。それは、その月にあなたがエジプトから出たからである。だれも、何も持たずにわたしの前に出てはならない。また、あなたが畑に種を蒔いて得た勤労の初穂の刈り入れの祭り、年の終わりにはあなたの勤労の実を畑から取り入れる収穫祭を行わなければならない。年に三度、男子はみな、あなたの主、【主】の前に出なければならない」

(1) 【主】の前とは、幕屋か神殿がある場所。年に3度そこで祭りを祝う。

- ①最初はシロという場所で祭りが祝われた。
- ②後に、エルサレムがその場所となった。
- ③民族の歴史を振り返り、神の恵みを思い出すために。
- ④すべては農業祭である。今も働く神の恵みに感謝するために。
- ⑤契約の民として的一致と自己認識を促すために。
- ⑥地域毎に礼拝の場所を造らせないために。
- ⑦この規定を守ることは、離散の歴史の中では困難になった。

(2) 種を入れないパンの祭り

- ①春の祭り
- ②過越の祭りを含む。

(3) 初穂の刈り入れの祭り

- ①春の終わりの祭り
- ②民 28：26「初穂の日、すなわち七週の祭り」
- ③申 16：10「七週の祭り」
- ④使 2：1「五旬節」(ペンテコステ)

(4) 収穫祭

- ①秋の祭り
- ②レビ 23：34「仮庵の祭り」

5. 捧げ物について (18～19 節)

「わたしのいけにえの血を、種を入れたパンに添えてささげてはならない。また、わたしの祭りの脂肪を、朝まで残しておいてはならない。あなたの土地の初穂の最上のものを、あなたの神、【主】の家に持って来なければならない。子やぎを、その母親の乳で煮てはならない」

- (1) 「パン種」という言葉が象徴的に用いられた場合は、必ず「罪」を指す。
- (2) 「子やぎを、その母親の乳で煮てはならない」という命令は3度出てくる。

- ①出 34：26、申 14：21
- ②カナン人の偶像礼拝の形式
 - * 子やぎを殺す。
 - * 母親の乳をしぼる。
 - * その乳で子やぎを煮る。

- ③カナン人の偶像礼拝からイスラエルの民を守るための規定である。

結論：このメッセージは、モーセの律法から現代的適用を学ぼうとするものである。

原則

- (1) モーセの律法はキリストの十字架の死によって全うされ、無効となった。
- (2) 新約時代の信者は、モーセの律法の下にはいない。
- (3) 私たちには、「キリストの律法」が与えられている。
- (4) モーセの律法から出てくるのは、第2義的適用(霊的教訓)である。

1. 正義と公正を行う理由

- (1) 神の性質がその動機になる。
- (2) 「イエス様ならどうされるだろうか」という問いかけは、素晴らしい。
- (3) 「イエス様は私に何を期待されているだろうか」は、もっと素晴らしい。
- (4) 「私が実行すべき聖句はなんだろうか」は、最高に素晴らしい。

2. パリサイ的ユダヤ教の教えとメシアの律法解釈の対立

(1) 安息日

- ①安息日は、人のために作られた。
- ②パリサイ的ユダヤ教では、「人は安息日をあがめるために作られた」とされた。
- ③今もその影響が続いている。
 - * ホテルのエレベーター
 - * 明りを灯すために異邦人を雇う。
 - * ノートに文字を書いたり、写真を撮ったりすることは、律法違反である。

④マコ2：27～28

「安息日は人間のために設けられたのです。人間が安息日のために造られたのではありません。人の子は安息日にも主です」

- ⑤モーセの律法は、一貫して人の命を第一にしている。
 - * 動物の命も尊重されている。

(2) 「子やぎを、その母親の乳で煮てはならない」という命令

- ①食物規定の拡大解釈
- ②肉製品と乳製品を同時に食べてはならない。
- ③食器と流しも、完全に区分しておく。

(3) 以上は、パリサイ的ユダヤ教だけの問題ではなく、キリスト教の問題でもある。

3. 巡礼祭

(1) ユダヤ人にとっての歴史的価値

- ①種なしパンの祭りは、出エジプトを記念している。
- ②五旬節の祭りは、モーセの律法の付与を記念している。
- ③仮庵の祭りは、荒野の放浪体験を記念している。

(2) 新約時代の信者にとっての預言的価値

- ①種なしパンの祭りは、メシアの死と復活を予表している。
- ②五旬節の祭りは、聖霊降臨を予表している。
- ③仮庵の祭りは、千年王国を予表している。

【出エジ34】出エジプト記23章20節～33節

「シナイ契約(7)」

1. 文脈の確認

(1) シナイ契約の構造

- ①シナイ契約は宗主権契約である。
- ②両者が同意する条項(命令と祝福)(20:3～17)
 - *十戒
- ③基本条項に付加された諸条項(21:1～23:33)
 - *十戒の原則を解説した補足条項
 - *判例法の形式を取っている。

(2) 今回の内容

- ①契約条項を守った者への祝福
- ②イスラエルの民は、重要な任務を帯びてカナンの中に入ろうとしている。

2. きょうのアウトライン

- (1)【主】の御使いの約束(23:20～23)
- (2)健康と子孫繁栄の約束(23:24～26)
- (3)土地相続の約束(23:27～31)
- (4)カナン人との契約禁止

3. メッセージのゴール

- (1)カナンの地の重要性
- (2)偶像礼拝の本質
- (3)領土の範囲

このメッセージは、モーセの律法から現代的適用を学ぼうとするものである。

I. 【主】の御使いの約束(20～23節)

1. 使いとは誰か(20～21節)

「見よ。わたしは、使いをあなたの前に遣わし、あなたを道で守らせ、わたしが備えた所にあなを導いて行かせよう。あなたは、その者に心を留め、御声に聞き従いなさい。決して、その者にそむいてはならない。わたしの名がその者のうちにあるので、その者はあなたがたのそむきの罪を赦さないからである」

- (1)「使い」とは、【主】の使いである。

①「わたしの名がその者のうちにある」

「彼はわたしの名を帯びているからである」(新共同訳)

②ヨハ14:11「わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい」

③この者は、創造された天使のひとりではない。

*三位一体の第2位格。その名は、【主】(ヤハウエ)である。

③そむきの罪を赦さない。

*罪を赦すか赦さないかは、神の領域のことがらである。

*罪があれば、矯正のために裁きが下る。

(2) モーセが燃える柴の中で出会ったのは【主】の使いであった。

「すると【主】の使いが彼に、現れた。柴の中の火の炎の中であった。よく見ると、火で燃えていたのに柴は焼け尽きなかった」(出3:2)

①出エジプトの出来事を始めたお方

(3) 【主】の使いの役割

①イスラエルの民を守る。

②イスラエルを導く。

③出エジプトの出来事を完成させるお方

(4) イスラエルの責任

①その者に心を留める。

*摂理的導き注意を払う。

*心の平安に注意を払う。

②御声に聞き従う。

③そむいてはならない。

2. 使いに従う者の祝福(22～23節)

「しかし、もし御声に確かに聞き従い、わたしが告げることをことごとく行うなら、わたしはあなたの敵には敵となり、あなたの仇には仇となろう。わたしの使いがあなたの前を行き、あなたをエモリ人、ヘテ人、ペリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人のところに導き行くとき、わたしは彼らを消し去ろう」

(1) 祝福を受ける条件は、従順である。

①「わたしが告げること」とは「わたしが使いを通して告げること」という意味。

(2) 祝福の内容

①【主】の使いが、イスラエルの敵には敵となったださる。

②【主】の使いが、イスラエルの民のために戦ったださる。

(3) イスラエルの敵となるエモリ人の6つのグループ

①エモリ人、②ヘテ人、③ペリジ人、カナン人、⑤ヒビ人、⑥エブス人

②「わたしは彼らを消し去ろう」とは、国として存在しなくなるという意味。

II. 健康と子孫繁栄の約束 (24～26節)

1. カナン人の風習からの分離 (24節)

「あなたは彼らの神々を拜んではならない。仕えてはならない。また、彼らの風習にならなくてはならない。これらを徹底的に打ちこわし、その石の柱を粉々に打ち砕かなければならない」

(1) 彼らの風習とは、偶像礼拝のことである。

①偶像からいかなる祝福も期待してはならない。

②偶像に、いかなるものも捧げてはならない。

③彼らの墮落した風習にならってはならない。

(2) 偶像礼拝に関連したものを徹底的に粉砕する。

①カナン人の礼拝では、聖なる柱が立てられた。

②その柱に、人間の形をした像が刻まれた。

③神々を象徴する聖なる柱を打ち砕く。

(3) 私たちへの適用 (日本の習慣の「仕分け作業」の必要性)

2. 真の祝福は、【主】から与えられる (25～26節)。

「あなたがたの神、【主】に仕えなさい。主はあなたのパンと水を祝福してくださる。わたしはあなたの間から病気を除き去ろう。あなたの国のうちには流産する者も、不妊の者もいなくなり、わたしはあなたの日数を満たそう」

(1) 「あなたがたの神、【主】に仕えなさい」

①出エジプトを可能にした【主】

②イスラエルの民と契約を結ぶ【主】

③カナンの地に導かれる【主】

④イスラエルの民には、【主】だけを礼拝すべき理由がある。

⑤私たちへの適用 (三位一体の神を礼拝する理由)

* 父なる神は、私を創造し、私を生かしておられる。

* 子なる神は、私のために死に、復活し、大祭司となられた。

* 聖霊なる神は、私の内に住み、私の救いを完成させてくださる。

(2) パンと水の祝福

①食べ物と飲み物が豊かになる。

②健康が祝される。

(3) 病の癒し

(4) 子孫の繁栄

- ①流産がなくなる(人間も動物も)。
- ②不妊がなくなる(人間も動物も)。
- ③長寿が約束される。

Ⅲ. 土地相続の約束(27～31節)

1. 【主】が先頭に立たれる(27～28節)

「わたしは、わたしへの恐れをあなたの先に遣わし、あなたがそこに入って行く民のすべてをかき乱し、あなたのすべての敵があなたに背を見せるようにしよう。わたしは、また、くまばちをあなたの先に遣わそう。これが、ヒビ人、カナン人、ヘテ人を、あなたの前から追い払おう」

(1) カナンの地は【主】からの贈り物である。

- ①すでにアブラハムとその子孫に土地が約束されていた。
- ②イスラエルの民がカナンの地を侵略するわけではない。
- ③イスラエルの民は、カナンの地に帰還するのである。

(2) 創15:16「そして、四代目の者たちが、ここに帰って来る。それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることはないからである」

- ①なぜ出エジプトがこの時期になったのかという理由が書かれている。
- ②イスラエルの民は、神の裁きの執行者である。

(3) 「くまばちをあなたの先に遣わそう」

- ①「わたしはまた、あなたの前に恐怖を送り」(新共同訳)
- ②カナン人にイスラエルの神への恐れを起こさせる。
 - *くまばちそのもの
 - *飢饉
 - *出エジプトの噂による恐れ(ヨシ2:9～11)
- ③カナン人(ヒビ人、カナン人、ヘテ人)を追い払う。

2. タイミング(29～30節)

「しかし、わたしは彼らを一年のうちに、あなたの前から追い払うのではない。土地が荒れ果て、野の獣が増して、あなたを害することのないためである。あなたがふえ広がって、この地を相続地とするようになるまで、わたしは徐々に彼らをあなたの前から追い払おう」

(1) カナン人は徐々に追い払われるという予告

- ①この予告は、イスラエルの民を励ますためのものである。

(2) 神の意図

- ①土地が荒廃しないように

②野の獣が増して、害を加えることのないために

(3) 私たちのへの適用

①神の御業は時には、人間が期待しているよりも遅く進むことが多い。

②人間の側にまだ祝福を受け取る準備ができていないから。

③結局は、神の時が最善の時である。

3. 領土の範囲 (31 節)

「わたしは、あなたの領土を、葦の海からペリシテ人の海に至るまで、また、荒野からユーフラテス川に至るまでとする。それはその地に住んでいる者たちをわたしがあなたの手に渡し、あなたが彼らをあなたの前から追い払うからである」

(1) 東西南北

①東：荒野（今のヨルダン）

②西：ペリシテ人の海（地中海）

③南：葦の海（紅海）

④北：ユーフラテス川

IV. カナン人との契約禁止 (32 ~ 33 節)

1. 2種類の契約 (32 節)

「あなたは、彼らや、彼らの神々と契約を結んではならない」

(1) カナン人との契約

①平和契約、同盟契約など

②彼らを常に敵と考える。

③結婚も契約に含まれる。

④ギブオン人の策略 (ヨシ9章)

* 恐らく、イスラエルの民が契約を結ばないと知っていたのだろう。

* 遠方から来たかのように見せかけて、同盟契約を結んだ。

(2) カナン人の神々との契約

①礼拝の禁止

②請願の禁止 (〇〇してくだされば、〇〇します)

2. カナン人の排除 (33)

「彼らは、あなたの国に住んではならない。彼らがあなたに、わたしに対する罪を犯させることのないためである。それがあなたにとってわなとなるので、あなたが彼らの神々に仕えるかもしれないからである」

(1) カナン人がその地に住んでよいのは、イスラエルの民にとって助けとなる場合。

(2) 排除の理由は、イスラエルの民に悪影響を与えさせないためである。

結論：このメッセージは、モーセの律法から現代的適用を学ぼうとするものである。

1. カナンの地の重要性

- (1) 6つのグループの名が上げられていた(23節)
- (2) 世界を支配しようと願う者にとっては、「一等地」である。
- (3) しかし、危険な地である。

- ①目立つ
- ②狙われる

(4) 神の意図

- ①イスラエルを目立たせる。
- ②祭司の王国、宝の民として、【主】の栄光を反映させる。
- ③信仰を訓練する土地を与える。

(5) 私たちへの適用(ヨハ16:33)

「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」

2. 偶像礼拝の本質

- (1) 偶像を破壊せよという命令の後に、祝福の約束が続く(24～26)
 - ①カナン人の偶像礼拝は、物質的祝福(多産、豊かな収穫)を求める豊穡神礼拝。
 - ②礼拝の中に、淫乱な要素が含まれる。
- (2) 【主】を礼拝することは、何よりも霊とまことによらねばならない。
 - ①父と子との関係において礼拝する。
 - ②物質的祝福は、その結果として与えられる。
- (3) 預言者エリヤの時代に雨が3年間降らなくなった(Ⅰ列18章)
 - ①バアルの預言者450人、アシュラの預言者400人との戦い
 - ②その戦いの本質は、雨を降らし、収穫を与えるお方は誰かというもの
- (4) 実存的な意味で、私の生活を支えてくださる方は誰かを問う必要がある。

3. 領土の範囲

- (1) この約束は、今に至るまで実現していない。
- (2) 千年王国の時に実現する。
- (3) イスラエルの神は契約の神である。
 - ①神の約束は必ず成就する。
 - ②千年王国は必ず現れる。

【出エジ 35】 出エジプト記 24 章 1 節～ 18 節

「シナイ契約の締結」

1. 文脈の確認

- (1) 出エジプトを経験した民は、神の期待を負った民である (出 19 章)。
 - ①わたしの宝、②祭司の王国、③聖なる国民
- (2) その使命を果たすために必要なのがモーセの律法である (出 20～23 章)
 - ①基本条項 (出 20 章の十戒)
 - ②基本条項に付加された諸条項 (出 21～23 章)
- (3) 今回の内容
 - ①イスラエルの民は神との契約関係に入ることを了解するかどうか。
 - ②シナイ契約が締結される。

2. きょうのアウトライン

- (1) イスラエルの民の同意 (24：1～3)
- (2) 契約の血 (24：4～8)
- (3) 契約の食事 (24：9～11)
- (4) シャカイナグローリー (24：12～18)

3. メッセージのゴール

- (1) 契約の食事と新しい契約
- (2) 契約の血と十字架
- (3) シャカイナグローリーとメシアの受肉

このメッセージは、シナイ契約に隠されたメシアを発見するためのものである。

I. イスラエルの民の同意 (1～3 節)

1. 山に上れとの命令 (1～2 節)

「主は、モーセに仰せられた。『あなたとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は、【主】のところに上り、遠く離れて伏し拝め。モーセひとり【主】のもとに近づけ。他の者は近づいてはならない。民もモーセといっしょに上ってはならない』」

- (1) 主語は誰か。
 - ①「主は、モーセに仰せられた」(新改訳)
 - ②「主はモーセに言われた」(新共同訳)、「また、モーセに言われた」(口語訳)
 - ③ヘブル語では、「さて、彼はモーセに言われた」
 - ④三位一体の神の暗示か。

(2) 上る人々

- ①モーセ
- ②アロンとその息子たち(ナダブとアビフ)
- ③イスラエルの長老70人(しゅうとイテロの助言で長老制度ができた)

(3) 彼らの立ち位置

- ①【主】のもとに立つのはモーセだけ。モーセは仲介者である。
- ②中腹に立つのは、アロン、ナダブ、アビフ、イスラエルの長老70人。
- ③麓では、民が待機している。

2. モーセによる解説(3a節)

「そこでモーセは来て、【主】のことばと、定めをことごとく民に告げた」

(1) 山に上る前に、民の意志を確認しておく必要がある。

- ①「【主】のことば」とは、出エジプト20章の内容である。
* 私たちはそれを4回にわけて学んだ(27回～30回)。
- ②「定め」とは、出エジプト21章～23章の内容である。
* 私たちはそれを4回にわけて学んだ(31回～34回)。
- ③そのために8時間以上かけたが、モーセも相当な時間を使ったはずである。
* 契約締結の儀式は、翌朝行われている(4節)

3. 民の同意(3b節)

「すると、民はみな声を一つにして答えて言った。『【主】の仰せられたことは、みな行います』」

(1) モーセが告げることは、すべて【主】のことばとして認識された。

- ①出20:19で、彼らはモーセが仲介役を務めるように懇願した。

(2) 彼らの応答

- ①神と契約関係に入り、モーセの律法の下で生きることを誓う。
- ②しかし、余りにも理解が浅く、言葉が軽い。
- ③自分たちの将来に対する神の計画が十分に理解されていない。
- ④神の聖さの基準が理解されていない。
* モーセの律法が要求する霊性を理解していないので、形式に終始する。
* 後の時代に現れるパリサイ主義の芽がすでにある。
* イエスはメシアとしてモーセの律法の再解釈を行われた。
- ⑤自分たちの弱さと限界が理解されていない。
- ⑥いずれにしても、彼らが同意したので、契約の締結に向かう。

II. 契約の血 (4～8節)

1. 祭壇と12の石の柱 (4節)

「それで、モーセは【主】のことばを、ことごとく書きしるした。そうしてモーセは、翌朝早く、山のふもとに祭壇を築き、またイスラエルの十二部族にしたがって十二の石の柱を立てた」

(1) 山の麓の境界線のあたりに祭壇を築き、12の石の柱を立てた。

①祭壇はいけにえを捧げるためのもの。

②12の石の柱は、契約の一方の当事者であるイスラエルの民を象徴するもの。

(2) 通常の宗主権契約では、偶像たちが証人に呼ばれる。

①12の柱は、シナイ山麓で神との契約が締結されたことの記念でもある。

2. 祭壇に血を注ぐ (5～6節)

「それから、彼はイスラエル人の若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のいけにえをささげ、また、和解のいけにえとして雄牛を【主】にささげた。モーセはその血の半分を取って、鉢に入れ、残りの半分を祭壇に注ぎかけた」

(1) イスラエル人の若者たちが、全焼のいけにえと和解のいけにえを捧げた。

①祭司制度が啓示される前なので、若者たちは、必ずしもレビ族ではない。

(2) モーセは血の半分を鉢に入れ、残りの半分を祭壇に注ぎかけた。

①創15：9～21 アブラハム契約締結の時

* 3歳の雌牛、3歳の雌やぎ、3歳の雄羊、山鳩とそのひな

②シナイ契約は血の契約である。

3. 契約条項の朗読 (7節)

「そして、契約の書を取り、民に読んで聞かせた。すると、彼らは言った。『【主】の仰せられたことはみな行い、聞き従います』」

(1) 契約の書とは、出20～23章の内容である。

①前日の解説よりも、短時間で終わったはずである。

(2) 民は前日同様に、ただちに同意した。

4. 民に血を注ぐ (8節)

「そこで、モーセはその血を取って、民に注ぎかけ、そして言った。『見よ。これは、これらすべてのことばに関して、【主】があなたがたと結ばれる契約の血である』」

(1) 血の半分を民に注ぎかけた。

①民とは誰か。3つの可能性あり。

* 若者たち、70人の長老たち、12本の石の柱

(2) 神とイスラエルの民の契約の土台は、いけにえの血にある。

Ⅲ. 契約の食事(9～11節)

1. 食事に参加した人々(9節)

「それからモーセとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は上って行った」

(1) 24:1の命令通りに、モーセ、アロン、ナダブとアビフ、70人の長老が上る。

- ①契約書の朗読
- ②民の同意
- ③いけにえの血を祭壇に注ぐ
- ④いけにえの血を民に注ぐ
- ⑤以上のことを行ってから、山に上って行った。

2. シャカイナグローリー(10節)

「そして、彼らはイスラエルの神を仰ぎ見た。御足の下にはサファイヤを敷いたようなものがあり、透き通っていて青空のようであった。」

(1) モーセ以外の人々にも、特権が与えられた。

①モーセは【主】から啓示を受けたことを証言するためであろう。

(2) 彼らは、神の形を見たわけではない。

- ①彼らが見たのは、シャカイナグローリーである。
- ②サファイヤを敷いたようなもの、透き通っていて青空のよう

3. 契約の食事(11節)

「神はイスラエル人の指導者たちに手を下されなかったので、彼らは神を見、しかも飲み食いをした」

(1) 神を見たなら死ぬというのが、イスラエル人の一般的な認識である。

(2) 彼らは神とともに契約の食事をした。

①和解のいけにえの肉を食べた(雄牛)。

Ⅳ. シャカイナグローリー(12～18節)

1. 山に上るモーセ(12～14節)

『【主】はモーセに仰せられた。『山へ行き、わたしのところに上り、そこにおれ。彼らを教えるために、わたしが書きしるしたおしえと命令の石の板をあなたに授けよう』。そこで、モーセとその従者ヨシュアは立ち上がり、モーセは神の山に登った。彼は長老たちに言った。『私たちがあなたがたのところに帰って来るまで、ここにいなさい。ここに、アロンとフルとがあなたがたといっしょにいます。訴え事のある者は、だれでも彼らに告げるようにしなさい』』

- (1) 山に上る目的は、神から石の板(複数形)を受けるため。
 - ①そこには、おしえと命令が書かれている。
 - ②長持ちする。
 - ③モーセは、これを用いて民を教える。
- (2) 従者ヨシュアがともに上る。
 - ①ヨシュアは、頂上までは行かないで、途中で待機している。
 - ②シャカイナグローリーに入るのはモーセだけである。
 - ③モーセ、ヨシュア、70人の長老、イスラエルの民の順番で神に向かっている。
- (3) アロンとフルに後を任せる。
 - ①このふたりは、アマレクとの戦いの時に、モーセの両手を支えた(出17:12)。
 - ②フルは、70人の長老のひとりであろう。

2. シャカイナグローリー (15～18節)

「モーセが山に登ると、雲が山をおおった。【主】の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。【主】の栄光は、イスラエル人の目には、山の頂で燃え上がる火のように見えた。モーセは雲の中に入って行き、山に登った。そして、モーセは四十日四十夜、山にいた」

- (1) 山をおおった雲は、【主】の栄光、シャカイナグローリーである。
 - ①モーセは6日間、雲の外にいて待った。
 - ②7日目に、モーセが招かれた。
 - ③山麓にいた民の目には、シャカイナグローリーは燃え上がる火のように見えた。
- (2) モーセは、シャカイナグローリーの中に40日間とどまった。
 - ①断食をした。

「私が石の板、【主】があなたがたと結ばれた契約の板を受けるために、山に登ったとき、私は四十日四十夜、山にとどまり、パンも食べず、水も飲まなかった」(申9:9)
 - ②ヨシュアは断食をしたか。マナを食べたであろう。

結論：このメッセージは、シナイ契約に隠されたメシアを発見するためのものである。

1. 契約の食事と新しい契約

- (1) ヘブル的には、和解の食事、契約の食事というものがある。
 - ①ガリラヤ湖畔でイエスが用意された食事は、和解の食事である。
 - ②最後の晩餐は、新しい契約のための食事である。
- (2) 最後の晩餐
 - ①過越の食事である。
 - ②その食事を、イエスは新しい契約のための食事とされた。
 - ③聖餐式は、それを記念するための儀式である。

2. 契約の血と十字架

(1) 血が祭壇と、12の石の柱に注ぎかけられた。

- ①イスラエルの民には感動的なシーンである。
- ②シナイ契約の土台が、血のいけにえにあることを認識させられるシーンである。

(2) 24：8のモーセの言葉

「見よ。これは、これらすべてのことばに関して、【主】があなたがたと結ばれる契約の血である」

①マタ 26：28のイエスのことば

「これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです」

②ヘブ 9：13～14「もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々に注ぎかけると、それが聖めの働きをして肉体をきよいものにするとなれば、まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者とすることでしょう」

(3) クリスマンとは、キリストの血による契約にサインをした人である。

- ①キリストは私の罪のために死なれた。
- ②墓に葬られた。
- ③3日目に甦られた。

3. シャカイナグローリーとメシアの受肉

(1) 出エジプト記におけるシャカイナグローリーの働き

- ①モーセを出エジプトのリーダーとして召した。
- ②イスラエルの民を荒野の旅へと導いた。
- ③イスラエルの民をエジプトの軍勢から守った。
- ④エジプトの軍勢を滅ぼした。
- ⑤マナとうずらを供給した。
- ⑥シナイ契約を結んだ。
- ⑦十戒が刻まれた石の板を与えた。

(2) シャカイナグローリーは、人間イエスの内に宿った。

①ヨハ 1：14「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた」

【出エジ36】出エジプト記25章1節～9節

「幕屋のための奉納物」

1. 文脈の確認

- (1) 創3：24以降、人はシャカイナグローリーから切り離された。
「こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東にケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた」
- (2) シャカイナグローリーは、必要に応じて現れた。
 - ①創15章アブラハム契約とシャカイナグローリー
 - ②出エジプト記では、頻繁にシャカイナグローリーの現れがある。
- (3) 出エジプトの目的は、民の中にシャカイナグローリーが宿ることにある。
 - ①モーセの律法は、神の民に生きるための指針(理念)を与えた。
 - ②幕屋は、神の民に礼拝の方法を教えた。
 - * 神に近づくための方法を教えた。
 - * この啓示によって、神の民は神学的盲目から解放される。
- (4) 幕屋は、神の計画がすべて成就する前の一時的な仕組みである。
 - ①神殿の役割も同じである。
 - ②人が永遠の世界でシャカイナグローリーとともに住むことがゴールである。

2. きょうのアウトライン

- (1) 幕屋に関する一般的な解説
- (2) 幕屋を指す5つの言葉
- (3) 幕屋のための奉納物(25：1～7)
- (4) 幕屋の目的(25：8～9)

3. メッセージのゴール

- (1) 父の愛
- (2) 愛の啓示
- (3) 愛の犠牲

このメッセージは、幕屋を通して父の愛を発見するためのものである。

I. 幕屋に関する一般的な解説

1. 幕屋とメシアの型

- (1) 第1の極端な立場を避ける。
 - ①幕屋の細部に至るまで、メシアの型として理解する。

②聖書的裏付けがなく、「聖なる想像」に基づく説明になる(ゲスワークである)。

③人によって意見が異なる。

(2) 第2の極端な立場を避ける。

①幕屋の中には、メシアの型となるものは何もない。

(3) 第3の道を採用する。

①幕屋のある部分は、メシアの型(予表)となっている。

②それを証明するのは、新約聖書の聖句である。

③新約聖書の聖句による裏付けがあるものだけを採用する。

④空想的議論から自分を守る最善の方法である。

2. 幕屋と教会

(1) 幕屋は、王なる神が住まう(臨在される)場所(王宮)である。

①創3章以降で初めて起こる、革命的な変化である。

②神の民はシャカイナグローリーとともに住み、なおかつ死なない。

(2) 教会(建物としての)は、神の民が礼拝するために集まる場所である。

①後のユダヤ教の会堂に似ている。

②ある時期以降、神殿と会堂が併存するようになった。

II. 幕屋を指す5つの言葉

(1) 聖所(25:8)

①ミクダッシュ

②聖さが強調されている言葉である。

(2) 幕屋(25:9)

①ミシュカン

②住まい。住む所という面が強調されている。

(3) 天幕(26:36)

①オヘル

②一時的に住む所。一時的な面が強調されている。

(4) 会見の天幕(29:42)

①オヘル・モエツド

②定められた時と場所、という面が強調されている。

(5) あかしの幕屋(38:21)

①ミシュカン・エデュット

②神の律法が安置されているという面が強調されている。

Ⅲ. 幕屋のための奉納物 (25:1～7)

1. 奉納物の原則

「わたしに奉納物をささげるように、イスラエル人に告げよ。すべて、心から進んでささげる人から、わたしへの奉納物を受け取らなければならない」

(1) 神はシナイ山の頂上、シャカイナグローリーの中からモーセに語っている。

- ①山から下りた時に語る内容が啓示される。
- ②イスラエル人だけに語る。

(2) 強制ではなく、心から進んで捧げる人から受け取る。

- ①身分、経済力、捧げ物の多寡に関係なしに受け取る。
- ②自発的であるかどうかだけが条件となる。
- ③神殿建設の際にも、ダビデとその民は同じことをしている (I 歴 29:6～14)。
- ④律法の時代でもそうなのだから、恵みの時代はなおさらそうである。
- ⑤金の子牛事件では、アロンが「金の耳輪を持ってこい」と命じている (32:2)。

2. 奉納物はエジプトから持ち出した物

「【主】はエジプトがこの民に好意を持つようにされたので、エジプトは彼らの願いを聞き入れた。こうして、彼らはエジプトからはぎ取った」(出 12:36)

(1) 民がエジプト人から富を得ることができたのは、【主】の働きのゆえである。

- ①奉納物は、もともと【主】から与えられたものである。
- ②私たちの捧げ物も、これと同じ原則が適用される。

(2) 各人が異なった富を所有していた。

- ①ある者は1種類、ある者は2種類、あるいはそれ以上を捧げた。
- ②幕屋建設に必要な材料だけを捧げる。

3. 15種類の建設資材

- ①金
- ②銀
- ③青銅
- ④青色の撚り糸
- ⑤紫色の撚り糸
- ⑥緋色の撚り糸
- ⑦亜麻布

* エジプトの名産。祭司の衣装となる。

- ⑧やぎの毛

* 天幕の材料として最適である。

⑨赤くなめした雄羊の皮

*幕屋のおおいとして使用される。

⑩じゅごんの皮

*海に住む哺乳動物。紅海に住む。

⑪アカシヤ材

*シナイ半島にある唯一の木

*根が地中深く張る。

⑫燈油

*オリーブ油

⑬そそぎの油とかおりの高い香のための香料

⑭エポデや胸当てにはめ込むしまめのう

⑮その他の宝石

IV. 幕屋の目的 (25:8～9)

1. 幕屋の2つの目的

「彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む」(8節)

(1) 幕屋は、王が住まう王宮である。

①王に願いを届け、その返事を受ける場所。

(2) 幕屋は、神を礼拝する場所である。

①神が自ら下ってくださる。

2. 民は、神が聖であることを認識する必要がある。

(1) 「聖所」(ミクダッシュ)という言葉がそれを教えている。

(2) 神は、俗世界から切り離されたお方

(3) その神に近づくためには、神の方法によらなければならない。

3. 幕屋建設の方法

「幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない」(9節)

(1) 原型は天にある。

「その人たちは、天にあるものの写しと影とに仕えているのであって、それらはモーセが幕屋を建てようとしたとき、神から御告げを受けたとおりのものです。神はこう言われたのです。『よく注意しなさい。山であなたに示された型に従って、すべてのものを作りなさい』」(ヘブ8:5)

(2) 幕屋は神が指定された、神に近づく方法である。

結論：このメッセージは、幕屋を通して父の愛を発見するためのものである。

1. 父の愛

- (1) 創3：9「神である【主】は、人に呼びかけ、彼に仰せられた。『あなたは、どこにいるのか』」
- (2) いなくなった息子の帰りを待つ父の愛（ルカ15：20）
「こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとに行った。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした」
- (3) シャカイナグローリーは、罪人を招き、その中に住まわれる。

2. 愛の啓示

- (1) 幕屋は、罪人が父のもとに帰るための道である。
- (2) その道は、神が指定した道でなければならない。
 - ①ヨハ14：6「イエスは彼に言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません』」
 - ②使4：12（ペテロの言葉）
「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです」

3. 愛の犠牲

- (1) 幕屋を機能させるためには、祭司といけにえの動物の制度（祭儀法）が必要である。
- (2) 至聖所には、年に一度、大祭司だけが入って行く。
- (3) 大祭司が犠牲の血を持って至聖所に入るのは、イエスの死を予表している。
 - ①マタ27：50～51「そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた」

【出エジ37】出エジプト記25章10節～30節

「契約の箱、贖いの蓋、供えのパンの机」

1. 文脈の確認

- (1) 創3章以降、シャカイナグローリーは現れたり、消えたりした。
- (2) 出エジプトの目的は、民の中にシャカイナグローリーが宿ることにある。
 - ①モーセの律法は、神の民に生きるための指針(理念)を与えた。
 - ②幕屋は、神の民に礼拝の方法を教えた。
 - * 神に近づくための方法を教えた。
 - * 父の愛が啓示された。
 - ③天にある幕屋の型通りに作らねばならない。
- (3) 幕屋は、神の計画がすべて成就する前の一時的な仕組みである。
 - ①人が永遠の世界でシャカイナグローリーとともに住むことがゴールである。
- (4) 幕屋のための奉納物が捧げられた。
- (5) いよいよ、具体的な指示に入っていく。
 - ①幕屋の全体像を確認しておこう(図を参照)。
 - ②具体的な指示は、重要な部分から始まり、外側に広がっていく。
 - * 契約の箱から始まり、幕屋の庭で終わる(27:9～19)。
 - * 香をたく壇(30:1～10)と洗盤(30:17～21)は除外されている。
 - * 祭司に関する命令と関連して出てくる。

2. きょうのアウトライン

- (1) 契約の箱(10～16節)
- (2) 贖いのふた(17～22節)
- (3) 供えのパンの机(23～30節)

3. メッセージのゴール(なぜ私たちが、幕屋について学ぶ必要があるのか)

- (1) 契約の箱とキリスト
- (2) 贖いのふたとキリスト
- (3) 供えのパンの机とキリスト

このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

I. 契約の箱 (10～16節)

1. 幕屋の中で最も重要なもの

(1) 「アカシヤ材の箱」とは、「契約の箱」のことである。

2. その形状

(1) サイズ

① 1 キュビトを約 44cm とすると、箱の大きさは、110cm×66cm×66cm となる。

(2) この箱の内側と外側に純金をかぶせる。

① 持ち運びができるように、4つの金の環を箱の四隅に取り付ける。

② 棒は、箱の環に通したままにしておく。

③ 誤って人が触れないように。

④ 2サム 6:6～7で悲劇が起こっている。

3. 中に入れるもの

(1) 「わたしが与えるさとしをその箱に納める」(16節)

① 十戒を書いた石の板 2枚

② 「あかしの板」(口語訳)

③ 「掟の板」(新共同訳)

(2) 偶像の宮との対比

① 一番奥には、偶像が安置されている。

② 幕屋の場合、一番奥には「契約条項」が安置されている。

③ 神の愛と義(契約に基づく)を信頼する人だけが、神に近づくことができる。

(3) それ以外のもの

① マナを入れた壺

② 芽を出したアロンの杖

4. その意義

(1) その上にシャカイナグローリーが輝いた。

① 神がこの箱に入られたのではない。神を持ち運んだのではない。

(2) この箱は至聖所に置かれた。

① そこには、大祭司が年に一度だけ入ることができた。

② 大祭司は、神の栄光の光に照らされて務めを遂行することができた。

II. 贖いのふた (17～22節)

1. 契約の箱の上に載せるふたである。

- ①「贖いの座」(新共同訳)
- ②「the mercy seat」(英語訳)

2. その形状

- (1) 大きさは、契約の箱のサイズと同じ。
- (2) 材質はすべて純金。
- (3) 2つの金のケルビムを両端に作る。

- ①天使の最高位のものがケルビム(単数形はケルブ)である。翼が2つ。
- ②次がセラフィム(単数形はセラフ)である。翼が6つ。
- ③最下位にいるのが一般の天使である。翼はない。
- ④互いに向かい合い、翼を上の方に伸べ広げ、贖いのふたを覆うようにする。

3. 3つの役割

(1) 神の御座としての役割

- ①最高位の天使であるケルビムが置かれた。
- ②シャカイナグローリーは、ケルビムとの関連でのみ語られている。
 - * 「ケルビムの上に座す【主】」という表現が、たびたび出てくる。
 - * 1サム4:4、2サム6:2、2列19:15
 - * 詩80:1「ケルビムの上の御座に着いておられる方よ」

(2) 贖いの場としての役割

- ①「贖いのふた」は、ヘブル語では「カッポーレス」である。
 - * この語には「覆う」または「隠す」という意味がある。
 - * 「罪をおおう」、「罪を隠す」という意味でも用いられる。
- ②ヘブ9:5では、「ヒラステーリオン」(ギリシア語)と呼ばれている。
 - * 「贖罪所」(口語訳)
 - * 「贖罪蓋」(新改訳)
 - * 「償いの座」(新共同訳)
- ③大祭司が年に一度、いけにえの血を振りかける場所である(レビ16:11～17)。
 - * 贖罪の日
 - * やぎの血

(3) 啓示の場としての役割

「わたしはそこであなたと会見し、その『贖いのふた』の上から、すなわちあかしの箱の上の二つのケルビムの間から、イスラエル人について、あなたに命じることをことごとくあなたに語ろう」(22節)

①神は、そこでモーセに啓示を与えと言われる。

III. 机 (23～30節)

1. パンを置く机

(1) 形状

①この机も、アカシヤ材で表面に純金をかぶせたもの。

②持ち運びができるように、金の環とかが棒も作られた。

③サイズは、契約の箱よりも少し小さめ(88cm×44cm×66cm)。

(2) 機能

①この机は、至聖所の中ではなく、聖所に置かれた。

②机の上には絶えず「供えのパン」が置かれた。

2. 供えのパン

(1)「神の前に供えたパン」という意味である。

*出25:30、35:13、39:36

*民4:7

*1サム21:6

*1列7:48

*2歴4:19

(2) パン種の入らない丸くて薄いパン12個

①6個ずつ二並びにして置かれた。

②各並びに乳香も添えて置かれた(レビ記24:5～7)。

③これは、パンの代わりに燃やして【主】に捧げた。

(3) パンの数は、イスラエルの12部族を表している。

①イスラエル人は常に、自分たちが神の前を歩んでいることを自覚させられた。

②このパンは、週1回、安息日ごとに新しく供えられた(レビ24:8)。

③この奉仕に当たったのは、ケハテ族である(1歴9:32)。

(4) 供えられたパンは聖別された物である。

①祭司だけが食べることを許された。

②しかし、ダビデとその供の者はこれを食した(1サム21:4～6)。

③イエスはこれを引用して、安息日は人のためにあるとされた(マタ12:3～4)。

結論：このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

1. 契約の箱とキリスト

(1) 新約聖書から証明できることだけを、キリストを示す型として理解する。

①「聖書は聖書によって解釈する」という原則

(2) ヨハ1:14からの証明

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた」

①「住まわれた」という言葉は、「スケイネイ」というギリシア語である。

②この言葉には、「幕屋を張る」という意味がある。「シャカイナ」の派生語である。

③旧約時代には、神は幕屋の中に栄光を現された。

④新約時代には、神はイエス・キリストのうちに栄光を現された。

*メシアの受肉は、神が地上に幕屋を張られたことを意味する。

*イエスの御体は、幕屋であり神殿である。

*イエス自身が、シャカイナグローリーである（目に見えない神の現れ）。

(3) ヨハ2:18～21からの証明

「そこで、ユダヤ人たちが答えて言った。『あなたがこのようなことをするからには、どんなしるしを私たちにを見せてくれるのですか』。イエスは彼らに答えて言われた。『この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日でそれを建てよう』。そこで、ユダヤ人たちは言った。『この神殿は建てるのに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか』。しかし、イエスのご自分のからだの神殿のことを言われたのである」

①イスラエルの民は、幕屋の中のシャカイナグローリーを見て、神がともにいてくださることを確認した。

②私たちは、イエスの中にシャカイナグローリーが宿っているのを見て、神がともにいてくださることを確認する。

2. 贖いのふたとキリスト

(1) ヘブ9:1～14からの証明

①「贖いのふた」は、キリストの贖いを示す型である。

②ふたの上にやぎの血が振りかけられ、罪に対する神の怒りが静められた。

③これは、イエスが十字架上で、私たちの罪のために死なれたことを示す型である。

④キリストの犠牲的死は、一度限りのもので、その効果は永遠に続く。

(2) 1ヨハ2:1～2からの証明

「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。この方こそ、私たちの罪のための——私たちの罪だけでなく、世全体のための——なだめの供え物です」

①私たちの罪は、キリストの死によって完全に贖われた。

②新生体験をした者は、習慣的に罪を犯さなくなった。

③もし罪を犯したなら、それを告白することによって赦しをいただくことができる。

* 1ヨハ1:9

3. 供えのパンの机とキリスト

(1) ヨハ6:35、48、51からの証明

①イエスは、ヨハネの福音書で3度、「わたしがいのちのパンです」と語られた。

②パンという言葉は、ユダヤ人にとっては非常に霊的な意味を含んだものである。

* 種入れぬパン

* 天からのパンであるマナ

* 供えのパン

③神は荒野でイスラエルの民を養われた。

④新約時代においては、主イエスが私たちの霊の糧となってくださる。

⑤「いのちのパン」は、毎日食べる必要がある。

【出エジ38】出エジプト記25章31節～26章30節

「燭台、幕、板」

1. 文脈の確認

(1) エルサレムにある temple・インスティテュート

①研究、教育、再建

②その厳密な姿勢は、驚異的なものである。

③きょうの箇所も、そのような厳密さで読まねばならない。

(2) 創3章以降、シャカイナグローリーは現れたり、消えたりした。

(3) 出エジプトの目的は、民の中にシャカイナグローリーが宿ることにある。

①モーセの律法は、神の民に生きるための指針(理念)を与えた。

②幕屋は、神の民に礼拝の方法を教えた。

* 神に近づくための方法を教えた。

* 父の愛が啓示された。

* 天にある幕屋の型通りに作らねばならない。

(4) 幕屋は、神の計画が成就する前の一時的な仕組みである。

①幕屋は型である。対型は何かを考えることこそ重要。

②幕屋は、キリストの型である。

③黙21:3～4「そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。『見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである』」

(5) 幕屋の全体像を確認しておこう。

①具体的な指示は、重要な部分から始まり、外側に広がっていく。

* 契約の箱、贖いのふた、供えのパンの机はすでに論じた。

2. きょうのアウトライン

(1) 燭台(25:31～40)

(2) 幕屋のための幕(26:1～6)

(3) 幕屋を覆う幕(26:7～14)

(4) 幕屋のための板と横木(26:15～30)

3. メッセージのゴール(なぜ私たちが、幕屋について学ぶ必要があるのか)

(1) 幕屋の中に隠されたキリストを発見する。

このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

I. 燭台 (25:31 ~ 40)

1. 材質

(1) 純金1タラントから作るように命じられた。

- ①約30キログラム
- ②槌で打って作る。
- ③パーツを作ってつなぎ合わせるのではない。

2. 形状

- (1) 台座と支柱がある。
- (2) 支柱から6つの枝が左右に3つずつ突き出ている。
- (3) 支柱と6つの枝の上に7つのともしび皿が載せられていた。
- (4) アーモンドの花の形をした節と花卉のあるがくの模様がつけられていた。

3. 使用法

(1) 燭台は、真暗な聖所の中を照らすためにそこに置かれた。

- ①聖所の中には、これしか光がなかった。
- ②至聖所の中は、シャカイナグローリーによって照らされていた。

(2) 7枝の燭台は、メノラーと呼ばれる。

- ①7は完全数。
- ②【主】は、イスラエルを導く完全な光。
- ③1ヨハ1:5「神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです」

4. 燭台のその後

(1) 後代に建てられたソロモンの神殿には、燭台が10個も置かれていた。

- ①聖所の中の右側と左側とに5つずつ置かれていた(1列7:49)。
- ②聖所の中は非常に明るかったと思われる。

(2) 後にそれらは、バビロンに運び去られた(エレ52:19)。

(3) この七枝の燭台は、ユダヤ教の象徴となった。

- ①メノラーが刻まれたマカベア時代の貨幣がエルサレムで発見されている。
- ②また、会堂や墳墓でこのマークが刻まれたものが頻りに発掘されている。

(4) ティトスの凱旋門のレリーフ

- ①ティトスは、紀元70年にエルサレムを滅ぼしたローマの将軍。
- ②その凱旋門の内側には、燭台を運ぶローマ兵の姿が描かれている。

(5) 現在のイスラエル共和国は、その国章として「七枝の燭台」を採用している。

II. 幕屋のための幕 (26:1～6)

- (1) 亜麻布の撚り糸(青色、紫色、緋色)で織られた。
- (2) 幕を10枚作り、それを5枚ずつのセットにして、幕屋を作った。
- (3) この幕には、ケルビムの刺繍が施されていた。
 - ①非常に高度な技術と芸術的センスが要求された。
 - ②完成した幕は、非常に美しいものであった。

III. 幕屋を覆う幕 (26:7～14)

- (1) 山羊の毛で作られた。
- (2) 11枚作る。
- (3) これで幕屋を覆い、その上に赤くなめした雄羊の皮とじゅごんの皮とを乗せた。
- (4) 何重にも覆われた聖所と至聖所の中は真暗になった。
 - ①聖所の中を照らしたのは燭台(メノラー)の光
 - ②至聖所の中を照らしたのはシャカイナグローリー
- (5) 亜麻布の幕や山羊の毛の幕の役割は、雨露をしのぎ、光を完全に遮断すること。
 - ①それ以上の霊的意味はない。

IV. 幕屋のための板と横木 (26:15～30)

- (1) 幕屋に幕をかけるには、骨組みが必要である。
- (2) その骨組みは、板と横木で作られた。
- (3) アカシヤ材の板56枚(440cm×44cm)横木15本が用意された。
 - ①板と横木は、幕屋にある程度の堅固さを与えた。
 - ②また、外光を遮断する役割を果たした。
- (4) 移動する際には、板と横木は解体され、牛車で運ばれた。
- (5) 民7:7～9「車二両と雄牛四頭をゲルシオン族にその奉仕に応じて与え、車四両と雄牛八頭をメラリ族に、祭司アロンの子イタマルの監督のもとにある彼らの奉仕に応じて与えた。しかしケハテ族には何も与えなかった。彼らの聖なるものにかかわる奉仕は、肩に負わなければならないからである」
 - ①ゲルシオン族は、幕と垂れ幕を運んだ。車2両。
 - ②メラリ族は、構造材を運んだ。車4両。
 - ③ケハテ族は、肩に載せて運ぶものを担当した。

(6) 同じ言葉の繰り返しに注目

「あなたは山で示された定めのおりに、幕屋を建てなければならない」(26:30)

①出 25:9

②出 25:40

③出 27:8

④使 7:44 (ステパノのメッセージの中で)

⑤ヘブ 8:5 「その人たちは、天にあるものの写しと影とに仕えているのであって、それらはモーセが幕屋を建てようとしたとき、神から御告げを受けたとおりのものです。神はこう言われたのです。『よく注意しなさい。山であなたに示された型に従って、すべてのものを作りなさい』」

(7) これは、父から子への愛の言葉である。

結論：このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

1. 燭台が象徴しているもの

(1) 燭台は、イエス・キリストの型である。

①イエスは「世の光」として来られた。

ヨハ 1:9、8:12、9:5、12:46、黙 21:24

②先の見えない人生から、希望ある人生への転換

③メノラーはイスラエル共和国の国章であるが、イスラエル人はそれが指示しているお方が誰であることを知らない。

④ヨハ 1:11～12 「この方はご自分のくんに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」

(2) 燭台は、イエスをメシア(キリスト)と信じる人々の型である。

①マタ 5:14～17 「あなたがたは、世の光です」

②新約聖書では、「光」とは「真理」のことである。

③「光の中を歩む」とは、「真理に従って歩む」ことを意味する。

④真理に従って歩む人は、救いの確信を深め、世の光として生きるようになる。

(3) 燭台は、地域教会の型でもある。

①黙 1:20 「わたしの右の手の中に見えた七つの星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、……七つの燭台は七つの教会である」

2. 板と横木が象徴しているもの

(1) 幕屋は神殿の原型であるが、新約聖書は教会を神殿にたとえている。

①エペ2:19～22

②1ペテ2:4～5

(2) 教会とは、建物ではなくイエスを信じた人の集まりである。

①その礎石はキリストである。

②その土台は、使徒と預言者である。

③それを建てるのは聖霊である。

④クリスチャンたちは、その建物を形作る「生ける石」である。

*幕屋に置き換えるなら、クリスチャンは「生ける板」「生ける横木」である。

⑤私たちへの教訓

*礎石となったキリストに信頼を置く。

*板と横木が組み合わされる。

【出エジ39】出エジプト記26章31節～27章19節

「垂れ幕、入口の幕、祭壇、内庭」

1. 文脈の確認

- (1) 幕屋は、神の民に礼拝の方法を教えた。
 - ①神に近づくための方法を教えた。
 - ②そこにシャカイナグローリーが宿った。
 - ③父の愛が啓示された。
 - ④天にある幕屋の型通りに作らねばならない。
- (2) 幕屋の学びは、極めて現代的な意味を持つ営みである。
 - ①今年の新年(ロシュ・ハシヤナ、ラッパの祭り)は9月9日(木)である。
 - ②贖罪の日は、10日後にやって来る。9月18日(土)。
 - ③ラッパの祭りから贖罪の日までを「畏怖の10日間」と言う。
 - ④仮庵の祭りは、9月23日(木)～29日(水)まで。
 - ⑤イスラエル人の霊的状态を理解した上で、執りなしの祈りを捧げる。
- (3) 幕屋は、神の計画が成就する前の一時的な仕組みである。
 - ①幕屋は型である。対型は何かを考えることこそ重要。
 - ②幕屋は、キリストの型である。
 - ③神からの指示は、重要な部分から始まり、外側に広がっていく。
 - * 契約の箱、贖いのふた、供えのパンの机はすでに論じた。
 - * 燭台、幕屋のための幕、幕屋を覆う幕、板と横木についても論じた。

2. アウトライン

- (1) 垂れ幕
- (2) 聖所の入口の幕
- (3) 祭壇
- (4) 内庭

3. メッセージのゴール(なぜ私たちが、幕屋について学ぶ必要があるのか)

- (1) 幕屋の中に隠されたキリストを発見する。

このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

I. 垂れ幕(26:31～35)

1. 幕屋の全体の大きさは約13.3m×4.4m×4.4mで、奥の部分が至聖所である。
 - (1) 約59㎡、17.5坪、35畳

2. 一番奥の部屋が至聖所である。
 - (1) 1辺が約4.4mの立方体である。
 - (2) 約19㎡、5.8坪、12畳
3. 聖所と至聖所とを仕切る垂れ幕
 - (1) 青色、紫色、緋色の撚り糸、撚り糸で織った亜麻布
 - (2) ケルビムを織り出す(ケルビム模様)。
 - (3) この垂れ幕を、金をかぶせたアカシヤ材4本の柱に付ける。銀の台座。
 - (4) この垂れ幕は、一般の祭司と大祭司を区別する仕切りとなる。
 - ①至聖所には大祭司が年に一度だけ入る。
 - (5) 至聖所の中には、「契約の箱(あかしの箱)」と「贖いのふた」がある。
 - (6) 至聖所の外(聖所)には、南側に燭台、北側に供えのパンの机がある。

II. 聖所の入口の幕(26:36～37)

1. 形状
 - (1) 青色、紫色、緋色の撚り糸、撚り糸で織った亜麻布
 - (2) 刺繍をした幕
 - ①垂れ幕の様子は、織り師の仕事。両面から模様が見える。
 - ②入口の幕の様子は、刺繍による作品。片面からしか見えない。
 - (3) この幕を、金をかぶせたアカシヤ材5本の柱に付ける。青銅の台座。
2. この幕は、一般のイスラエル人と祭司を区別する仕切りとなる。
3. 「入口」(ベタハ)とは、門、戸の意味も持つ。

III. 祭壇(27:1～8)

1. 罪の贖いのための祭壇
 - (1) アカシヤ材の祭壇。青銅でおおう。
 - (2) 大きさは、2.2m×2.2m×1.3m
 - (3) 持ち運びができるようなデザイン
 - (4) 青銅の網細工の格子が祭壇の内側にはめ込まれた。
 - ①この格子の上でいけにえの動物が焼かれた。
 - ②大きなバーベキュー用のコンロのようなものを想像すればよい。
2. 祭壇の四隅に角がつけられた。
 - (1) 木や捧げ物が落ちないように。
 - (2) 詩118:27【主】は神であられ、私たちに光を与えられた。枝をもって、祭りの行列を組め。祭壇の角のところまで]

(3) 神学的意味

①寛大な裁きを求める場合

* 1列1:50～51 アドニヤがソロモンに

②罪の贖いと清めのための血が塗られた。

* 出29:12

* レビ4:7

3. イスラエルの民が神に近づく際に最初に出会うのがこの祭壇である。

(1) 神に近づくためには血の犠牲が必要である。

(2) レビ17:11「なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である」

(3) ヘブ9:22「それで、律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです」

IV. 内庭 (27:9～19)

1. 幕屋を取り囲む庭

(1) 亜麻布の掛け幕で囲む。

(2) 庭の広さは、東西が約44m、南北が約22m。

(3) 南側と北側に、それぞれ柱20本、20個の台座は青銅。

(4) 西側に柱10本、10個の台座は青銅。

(5) 東側の中央に入口が付けられた。

①約8.8mの入口。

②4本の柱と4個の台座

③亜麻布の幕、刺繍を施したもの。

(6) 庭の面積は、約970㎡、約300坪である。

2. 掛け幕は、イスラエルの民と異邦人を区別した。

結論：このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

1. 幕による区別について

(1) 掛け幕は、イスラエルの民と異邦人を区別した。

①エペ2:14～16「キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのもの

をご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました」

②ヨハ 10：9「わたしは門です。だれでも、わたしを通して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます」

(2) 聖所の入り口の幕は、祭司と一般のイスラエルの民を区別した。

(3) 垂れ幕は、大祭司と祭司を区別した。

2. 垂れ幕について

(1) イエスのいのちが十字架上で捧げられた時、驚くべきことが起こった。

①マタ 27：50～51「そのとき、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られた。すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。」

②上から下に真っ二つに裂けたということは、神がそれをなさったのである。

(2) ヘブ 9：6～12「…しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事からの大祭司として来られ、…やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです」

(3) ヘブ 10：19～22「…イエスをご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。…」

3. 祭壇について

(1) 幕屋全体が、神が聖であることを教える視聴覚教育になっている。

①聖と俗(罪)とを混同することは許されない。

②罪人は、そのままの姿では神のもとに出ることができない。

③神に近づくためには、神の方法によらなければならない。

(2) 祭壇の上で犠牲の動物を焼くことは、イスラエルの民に対する視聴覚教育であった。

①レビ 1～8章

②それは、イエスの十字架を指し示すものとなった。

(3) 聖なる神が、罪人のいる所まで下ってくださり、和解の道を開いてくださったというのが、新約聖書のメッセージである。

① 2 コリ 5：19～21「すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことはを私たちにゆだねられたのです。こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです」

【出エジ 40】 出エジプト記 27章 20節～28章 43節

「祭司に関する命令」

1. 文脈の確認

- (1) 幕屋は、神の民に礼拝の方法を教えた。
- (2) これまでに、幕屋の構造、器具に関する命令を学んだ。
- (3) きょうの箇所から、祭司に関する命令が始まる。27：20～28：43
- (4) 幕屋は、神の計画が成就する前の一時的な仕組みである。
 - ①幕屋は型である。対型は何かを考えることこそ重要。
 - ②幕屋は、キリストの型である。

2. アウトライン

- (1) ともしび (27：20～21)
- (2) ひとつの家族の選び (28：1～5)
- (3) エポデ (28：6～14)
- (4) さばきの胸当て (28：15～29)
- (5) ウリムとトンミム (28：30)
- (6) 青服 (28：31～35)
- (7) 純金の札、かぶり物、長服 (28：36～39)
- (8) 一般の祭司の衣装 (28：40～43)

3. メッセージのゴール (なぜ私たちが、幕屋について学ぶ必要があるのか)

- (1) 幕屋の中に隠されたキリストを発見する。

このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

I. ともしび (27：20～21)

1. 祭司の務めに関する最初の命令

- (1) ともしびを絶えずともしておく。
 - ①燭台は、聖所の中に置かれていた。
 - ②神の臨在が常にイスラエルの民とともにあることを示している。

2. 燭台には7つの枝があった。

- (1) 7は完全数である。

(2) このともしびは聖霊を象徴していると考えられる。

①黙1:4「ヨハネから、アジャヤにある七つの教会へ。今いまし、昔いまし、後に来られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、」

②「七つの御霊」とは、聖霊のことである。

③黙3:1、4:5 参照

II. ひとつの家族の選び (28:1～5)

1. アロンの一家の選び

(1) 神の召しによる。自分からの申し出ではない。

(2) アロンは大祭司となる。

①ナダブ、アビフ、エルアザル、イタマルは、大祭司の補助をする祭司となる。

2. 衣装の指定

(1) 栄光と美を表わす聖なる装束

①幕屋のデザインと調和する衣装

②アロンを聖別し、大祭司としての任務に就かせるため

(2) 衣装の制作者は、神によって用意される。

①「わたしが知恵の霊を満たした、心に知恵のある者たち」(3節)

②神の御心を行う時、必要なものは神によって用意される。

* 人 (man)

* 金 (money)

* 方法 (method)

3. 6種類の衣装

(1) 胸当て

(2) エポデ

(3) 青服

(4) 市松模様の長服(格子模様)

(5) かぶり物

(6) 飾り帯

4. 材料

(1) 金色や、青色、紫色、緋色の撚り糸

(2) 亜麻布

III. エポデ (28:6～14)

1. 大祭司の衣装の中で最も大事なもの

- (1) 2つの肩当てが両端にそれぞれつけられる。
- (2) 2つのしまめのうを取り、その上にイスラエルの12部族の名を刻む。
 - ①それぞれの石に、6つの名
 - ②生まれた順に刻む。
- (3) その2つの石をエポデの肩当てにつける。
 - ①「その二つの石をイスラエルの子らの記念の石としてエポデの肩当てにつける。
アロンは【主】の前で、彼らの名を両肩に負い、記念とする」(12節)
 - ②アロンは、神の前でイスラエルの民を代表した。
 - ③アロンはその衣装によって、イスラエルの民の前で神を代表した。

2. エポデは祭司にとって欠かせない衣装となった。

- (1) 少年サムエル (1サム2:18)
- (2) ノブの85人の祭司たちは、亜麻布のエポデを着ていた (1サム22:18)。
- (3) ダビデはエポデを着て、【主】の前で踊った (2サム6:14)。
 - ①ダビデの妻ミカルは、ダビデが裸になって踊ったと皮肉を言った。
 - ②エポデは全身を覆うものではなく、エプロンのようなものである。

IV. さばきの胸当て (28:15～29)

1. サイズ

- (1) 「ひとあたり」とは、約22センチ
 - ①正方形
 - ②22cm × 22cm
- (2) 宝石をはめ込む。
 - ①赤めのう、トパーズ、エメラルド
 - ②トルコ玉、サファイヤ、ダイヤモンド
 - ③ヒヤシンス石、めのう、紫水晶
 - ④緑柱石、しまめのう、碧玉
- (3) それぞれの石に、イスラエル12部族の名を彫り込む。
 - ①「アロンが聖所に入るときには、さばきの胸当てにあるイスラエルの子らの名をその胸の上に載せ、絶えず【主】の前で記念としなければならない」(29節)
 - ②肩当てに付けられた2つの石と同じ役割を果たす。

V. ウリムとトンミム (28:30)

1. 裁きの胸当ての中に入れておく2つの石

- (1) それ以上の具体的な描写はない。
- (2) ウリムとは「光」、トンミムとは「完全」を意味する。
 - ①七十人訳は「光と完全」と訳している。
 - ②これは、神の御心を知るための道具であり、完全な啓示である。
- (3) 啓示の方法は、預言者のように文章によるのではない。
 - ①光るか光らないかで、イエスカノーかだけを伝えるもの

2. 使用例

- (1) アカンの罪の暴露 (ヨシ7章)
 - ①部族、氏族、家族、男ひとりひとり、アカン
 - ②「くじ」とあるのは、ウリムとトンミムのことである。
- (2) サウルとヨナタンが取り分けられた (1サム14章)
 - ①ヨナタンは蜂蜜を食べたので、取り分けられた。
- (3) モルモン教
 - ①ジョセフ・スミスは、ウリムとトンミムを使って金版を翻訳したという。
 - ②それは、古代ヘブライ語 (変体エジプト文字) であったという。
 - ③ウリムとトンミムは、このように使用するものではないので、嘘である。

VI. 青服 (28:31～35)

1. エポデの下に着る青服

- (1) 真ん中に頭を通す口を作り、それをすっぽりかぶる。
- (2) イエスの衣
「さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった」(ヨハ19:23)

2. ざくろと金の鈴

- (1) 風で衣がまくれないようにする。
- (2) 大祭司が死なないためである。
 - ①金の鈴に力があるというわけではない。
 - ②鈴が鳴っている間は、外の人たちに大祭司が生きていることが分かる。
 - * 大祭司は足にロープを結び付けて聖所と至聖所に入った。
 - * もし死んだなら、外から引っ張り出せるようにした。
 - ③大祭司は、鈴の音を聞きながら、自らの奉仕に欠けがないことを確認した。

VII. 純金の札、かぶり物、長服 (28:36～39)

1. 純金の札

(1) 「【主】への聖なるもの」と彫る。

- ① 「主の聖なる者」(新共同訳)
- ② 「主に聖なる者」(口語訳)
- ③ 「Holy to Yahweh」(英訳)

2. これをかぶり物に付ける。

(1) 純金の札をかぶり物の前面につける。

- ① アロンの額の上にくるようにする。
- ② 理由は38節にある。

「これがアロンの額の上にあるなら、アロンは、イスラエル人の聖別する聖なる物、すなわち、彼らのすべての聖なるささげ物に関しての咎を負う。これは、それらの物が【主】の前に受け入れられるために、絶えずアロンの額の上になければならない」

3. 長服

(1) 市松模様の亜麻布

(2) 飾り帯は刺繍をしたもの。

VIII. 一般の祭司の衣装 (28:40～43)

1. 長服、飾り帯、栄光と美を表すターバン

- (1) モーセがこの衣装をアロンとその子どもたちに着せる。
- (2) 油を注ぐ。
- (3) 祭司職に任命する。
- (4) 聖別する。

2. 亜麻布のももひき

- (1) 水夫のズボンのような形(前にも後ろにも空いた所がない)
- (2) 【主】の前に裸をさらすことのないように。

結論：このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

1. 聖書の中心テーマは、「罪ある人間がいかにして神に近づくことができるのか」というものである。

- (1) 神は聖である。
- (2) 神と人をつなぐ仲介者が必要である。

2. 神は聖である。

- (1) アロン一家の選び
- (2) 大祭司の装束
- (3) 青服のすそに付けるざくろと金の鈴
- (4) 裸をおおう亜麻布のももひき

3. 神と人をつなぐ仲介者が必要である。

- (1) エポデの両肩に付けられた2つの石（しまめのう）
 - ①それぞれの石に、6つの部族の名が刻まれた。
- (2) エポデの前に付けられたさばきの胸当て
 - ①12個の宝石
 - ②それぞれの石に、1つの部族の名が刻まれた。
- (3) かぶり物に付けられた純金の札
 - ①「主への聖なるもの」
 - ②アロンは、聖なるささげ物に関しての咎を負う。

4. イスラエルの民は大祭司という仲介者を持った。

- (1) 私たちにはイエス・キリストという新しい大祭司が与えられた。
- (2) ヘブ9：11～12「しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事からの大祭司として来られ、手で造った物でない、言い替えれば、この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられたのです」

5. キリストの死は罪を贖うだけでなく、私たちを栄光の姿に変えるためのものである。

- (1) 1ペテ1：13～16「ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現れのとときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なるものとされなさい。それは、『わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならぬ』と書いてあるからです」

【出エジ 41】出エジプト記 29 章 1 節～ 46 節

「祭司の聖別」

1. 文脈の確認

- (1) 幕屋は、神の民に礼拝の方法を教えた。
- (2) これまでに、幕屋の構造、器具、祭司の衣装について学んだ。
- (3) きょうは、祭司の聖別について学ぶ。
- (4) 幕屋は、神の計画が成就する前の一時的な仕組みである。
 - ①幕屋は型である。対型は何かを考えることこそ重要。
 - ②幕屋は、キリストの型である。

2. アウトライン

- (1) 祭司の聖別 (29 : 1 ~ 37)
- (2) 絶やすことのない全焼のいけにえ (29 : 38 ~ 42)
- (3) 幕屋建設の目的 (29 : 43 ~ 46)

3. メッセージのゴール (なぜ私たちが、幕屋について学ぶ必要があるのか)

- (1) 幕屋の中に隠されたキリストを発見する。

このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

I. 祭司の聖別 (1 ~ 37 節)

1. 聖別のための準備 (1 ~ 9 節)

- (1) 準備するもの
 - ①若い雄牛一頭
 - ②傷のない雄羊二頭
 - * 神の性質の反映
 - * 神が人間に期待するもの
 - ③種を入れない 3 種のもの
 - * 種を入れないパン (bread)
 - * 油を混ぜた種を入れない輪型のパン (cakes)
 - * 油を塗った種を入れないせんべい (wafers)
- (2) アロンとその子らを水で洗う。

(3) 大祭司アロンに装束を着せる。

①長服、②青服、③エポデ、④胸当て、⑤帯、⑥かぶり物、⑦聖別の記章

(4) そそぎの油を頭に注ぐ。

* イスラエルの王は油注ぎを受ける。

* カリスマチックな王がメシアである。

* 聖霊の力による奉仕を象徴している。

(5) アロンとその子らに衣装を着せる。

(6) アロンとその子らは祭司職に任命された。

2. 雄牛のいけにえ (10～14節)：罪のためのいけにえ

(1) アロンとその子らは雄牛の頭に手を置く。

①罪の転嫁が行われる。

(2) 雄牛をほふる。

①血を取り、指で祭壇の角につける。

②残りの血は、祭壇の土台に注ぐ。

③内臓の脂肪は焼いて煙にする。

④脂肪は最良の部位とされた。

⑤肉と皮と汚物は、宿営の外で焼かれる (汚れたものの象徴)。

⑥「これは、罪のためのいけにえである」(14節)

* アロンとその子らの罪

3. 最初の雄羊のいけにえ (15～18節)：全焼のいけにえ

(1) アロンとその子らは雄羊の頭に手を置く。

①罪の転嫁が行われる。

②罪は命(血)によって贖われる。

(2) 雄羊をほふる

①その血を取り、祭壇の回りに注ぎかける。

②部分に切り分け、内臓と足を洗い、ほかの部分を一っしょにする。

③全部祭壇の上で焼いて煙にする。

④神への感謝と、全面的献身を象徴している。

4. 次の雄羊のいけにえ (19～21節)：聖別のためのいけにえ

(1) アロンとその子らは雄羊の頭に手を置く。

①罪の転嫁が行われる。

(2) 雄羊をほふる。

①その血をアロンとその子らにつける。

* 右の耳たぶ

* 右手の親指

* 右足の親指

* 全的献身を表す。

②残りの血を祭壇の回りに注ぎかける。

(3) 聖別のためのいけにえ

①祭壇の上にある血と注ぎの油を、祭司たちの装束に振りかける。

②祭司とその衣装の聖別となる。

5. 種を入れない3種のもの(22～25節)

(1) アロンとその子らの手のひらに載せ、【主】に向かって揺り動かす。

①種を入れないパン一個

②油を混ぜた種を入れない輪型のパン一個

③油を塗った種を入れないせんべい一個

(2) 任職用の雄羊の脂肪とともに祭壇の上で焼いて煙とする。

6. 祭司の取り分(26～28節)

(1) 任職用の雄羊の胸肉ともも肉

(2) 祭司がイスラエル人から受け取る永遠の分け前

7. 祭司任命の儀式(29～30節)

(1) アロンの後継者も同じようにする。

(2) その儀式は7日間続く。

8. 祭司の食事(31～34節)

(1) 幕屋の入り口で雄羊の肉を煮る(内庭のことであろう)。

(2) その肉といっしょにかごの中のパンを食べる。

①祭司は、聖別のための贖いに用いられたものを食べる。

②ほかの者は、食べてはならない。

③肉やパンが朝まで残ったなら、それを火で焼く。

(3) 【主】との親密な交わりを象徴する。

9. 聖別は7日間(35～37節)

(1) 任職式は7日間続く。

(2) 雄牛一頭を毎日ささげる。

II. 絶やすことのない全焼のいけにえ (38～42節)

1. 祭司の5つの務め

- (1) 香をたく (30:7～8)
- (2) 毎日いけにえをささげる (29:38～42)
 - ①火は24時間燃え続けている (レビ6:13)。
- (3) いけにえの検査 (レビ27:11～12)
 - ①イエスの時代にはこれが悪用された。
- (4) 燭台に火をともし続ける (レビ24:1～4)。
- (5) モーセの律法を教え、裁判官となる (申17:8～13、19:15～20、21:5)。

2. 毎日ささげる全焼のいけにえ

- (1) 1歳の若い雄羊2頭
 - ①1頭の若い雄羊は朝ささげる。
 - ②他の1頭の若い雄羊は夕暮れにささげる。
- (2) これに添えるもの
 - ①上質のオリーブ油を混ぜた最良の小麦粉
 - ②ぶどう酒
- (3) 絶やすことのない全焼のいけにえ
 - ①祭司は、毎日これを行う。

III. 幕屋建設の目的 (43～46節)

1. その所でわたしはイスラエル人に会う。
2. わたしはイスラエル人の間に住み、彼らの神となろう。
3. 彼らは、わたしが彼らの神、【主】であり、彼らの間に住むために、彼らをエジプトの地から連れ出した者であることを知るようになる。

結論：このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

1. 雄牛とキリストの対比

- (1) 出29:14「ただし、その雄牛の肉と皮と汚物とは、宿営の外で火で焼かなければならない。これは罪のためのいけにえである」

(2) ヘブル13:11～14「動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都を求めているのです」

2. 祭司の務めとキリストの務めの対比

(1) ヘブ10:11～14「また、すべて祭司は毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえをくり返しささげますが、それらは決して罪を除き去ることができません。しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、それからは、その敵がご自分の足台となるのを待っておられるのです。キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです」

(2) 対比

- ①祭司は死ぬとその務めが継承されるが、キリストは復活されたのでそれがない。
- ②祭司は、毎日立って務めをするが、キリストは神の右の座に着いておられる。
- ③祭司は、同じいけにえを繰り返しささげるが、キリストは一度だけささげた。
- ④祭司のいけにえは、罪を除き去ることができないが、キリストのいけにえはそれをなした。

3. 幕屋とキリストの対比

(1) 幕屋はシャカイナグローリーが現れた場所

- ①神はイスラエルの民の間に住まわれた。
- ②イスラエルの民は、神を知った。
- ③出エジプトの体験は、神を知るためのものである。

(2) ヨハ1:18「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである」

- ①マタ1:23「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である)。
- ②ヨハ14:9「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか」

【出エジ42】出エジプト記30章1節～38節

「香の壇、贖い金、洗盤、注ぎの油、香料」

1. 文脈の確認

- (1) 幕屋は、神の民に礼拝の方法を教えた。
- (2) これまでに、幕屋の構造、器具、祭司の衣装、祭司の聖別について学んだ。
- (3) きょうは、5つの項目について学ぶ。
- (4) 幕屋は、神の計画が成就する前の一時的な仕組みである。
 - ①幕屋は型である。対型は何かを考えることこそ重要。
 - ②幕屋は、キリストの型である。
- (5) 幕屋に関する命令は、重荷ではなく恵みである。
 - ①安価なぶどう酒と、高価なぶどう酒の違いをどのように見分けるのか。
 - ②神は、クリスチャン生活を大いに祝福しようとしておられる。

2. アウトライン

- (1) 香の壇 (30:1～10)
- (2) 贖い金 (30:11～16)
- (3) 洗盤 (30:17～21)
- (4) 注ぎの油 (30:22～33)
- (5) 香料 (30:34～38)

3. メッセージのゴール (なぜ私たちが、幕屋について学ぶ必要があるのか)

- (1) 幕屋の中に隠されたキリストを発見する。

このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

I. 香の壇 (1～10節)

1. 構造 (1～5節)

- (1) 幕屋の中に置く調度品に関しては、すでに指示があった。
 - ①香の壇と洗盤は、祭司に関する命令の中に出てくる。
- (2) 材質
 - ①アカシヤ材
 - ②底部を除いてすべて純金で覆う。

(3) サイズと形状

- ①縦 44cm、横 44cm、高さ 88cm
- ②4角形の4隅に角を作る。
- ③担ぎ棒を通すための金環を作る。

2. 設置場所 (6節)

(1) 垂れ幕の手前

- ①至聖所の「あかしの箱」とは、垂れ幕を隔てて向かい合っている。

3. 使用法 (7～9節)

(1) 祭司がそこで香りの高い香をたく。

- ①朝のいけにえを捧げる時間
- ②夕暮れのいけにえを捧げる時間

(2) これを常供の香の捧げ物という。

- ①英語では、「a perpetual incense」という。

(3) 禁止事項

- ①異なった香をたいてはならない。

* 配合の異なったもの

- ②全焼のいけにえ、穀物のささげ物、ぶどう酒をささげてはならない。

* これらのものは、祭壇で捧げる。

- ③民3:4「しかしナダブとアビフは、シナイの荒野で【主】の前に異なった火をささげたとき、【主】の前で死んだ。彼らには子どもがなかった。そこでエルアザルとイタマルは父アロンの生存中から祭司として仕えた」

* アロンが死ぬと、エルアザルが大祭司となる。

4. 贖罪の日との関係 (10節)

(1) アロンは年に一度、罪のためのいけにえの血を角にぬる。

- ①年に一度、とは贖罪の日のこと。
- ②出エジプト記に贖罪の日が出てくるのは、ここだけである。

II. 贖い金 (11～16節)

1. 納める時期

(1) 人口調査 (国政調査) のあるたび

- ①その登録にあたり、各人は自分自身の贖い金を【主】に納める。

2. 納める額

(1) 半シケルを【主】への奉納物とする。

- ① 20歳、またそれ以上の者が納める。
- ② 富んだ者も、貧しい者も、同じ額を納める。

3. 納める目的

(1) 目的は、「わざわざ起こらないため」

- ① 人口調査をすると、傲慢になりやすい。
- ② 2サム24章ダビデが御心ではない人口調査を行った。
- ③ 傲慢の罪を戒めるための贖い金である。

(2) 贖い金の用途は、幕屋建設のためである(16節)。

- ① それ以降は、幕屋(神殿)の運営のための資金となる。

III. 洗盤(17～21節)

1. 構造

- (1) 青銅の洗盤と青銅の台
- (2) その中に水を入れる。

2. 置く場所

- (1) 幕屋と祭壇の間に置く。
- (2) 幕屋に行く場合も、祭壇に行く場合も、便利である。

3. 使用目的

- (1) アロンとその子らは、そこで手と足を洗う。
 - ① 会見の天幕に入る時
 - ② 祭壇に近づく時
- (2) 彼らが死なないためである。

IV. 注ぎの油(22～33節)

1. 材料は最上の香料

(1) 5種類の香料

- ① 液体の没薬 500 シケル (5.7 kg)
- ② 香りの強い肉桂 250 シケル (2.8 kg)
- ③ におい菖蒲 250 シケル
- ④ 桂枝 500 シケル
- ⑤ オリーブ油 1 ヒン (3.8 ℓ)

(2) 調合法に従って混ぜ合わせ、聖なる注ぎの油を作る。

2. この油を注ぐ対象

(1) 器具類

- ①全焼のいけにえのための祭壇とそのいろいろな器具
- ②洗盤とその台
- ③これらを聖別するなら、それは、最も聖なるものとなる。

(2) 人間

- ①アロンとその子ら
- ②彼らを聖別して祭司としてわたしに仕えさせなければならない。

3. 禁止事項

(1) 2つの禁止令

- ①これと似たものを調合することは禁止
- ②祭司以外の者にこれをつけることは禁止

(2) 違反した者は、民から断ち切られる。

- ①死によって
- ②あるいは、追放によって

V. 香料 (34～38節)

1. 材料は高価な香料

(1) 4種類の香料を同じ量用意する。

- ①ナタフ香
- ②シェヘレテ香
- ③ヘルベナ香
- ④乳香を取れ。

(2) 調合法にしたがって、香ばしい聖なる純粋な香油(香)を作る。

2. 使用法

- (1) 香の壇の上で香としてたく。
- (2) その日に使用する分だけを細かく砕く。
 - ①細かく砕く理由は、燃えやすいように。

3. 禁止事項

- (1) 似たものを自分自身のために作ってはならない。

結論：このメッセージは、幕屋の中に隠されたキリストを発見するためのものである。

1. 香の壇と香は、聖徒たちの祈りを象徴している。

- (1) 詩 141:1～2【主】よ。私はあなたを呼び求めます。私のところに急いでください。
私があるに呼ばわるとき、私の声を聞いてください。私の祈りが、御前への香として、
私が手を上げることが、夕べのささげ物として立ち上りますように」
- (2) 黙 5:8「彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長老は、おのおの、立琴と、香のいっぱい入った金の鉢とを持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである」
- (3) 黙 8:3～4「また、もうひとりの御使いが出て来て、金の香炉を持って祭壇のところに立った。彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った」
- (4) アロンは贖罪の日に、罪のためのいけにえの血を香の壇の角にぬる。
 - ①私たちの祈りの中にある欠陥は、キリストの血によって清められる。
 - ②私たちの祈りは、キリストを通してのみ、父なる神の御前への香となる。
- (5) その日に必要なものを取り、よく砕いてから香の壇の上で燃やす。

2. 贖い金は、神の働きは神の民の捧げ物によって支えられるということを教えている。

- (1) 贖い金によって、幕屋が建設され、それが維持された。
- (2) フルタイムの献身者は、信徒たちの献金によって支えられる。
- (3) 1テモ 5:18「聖書に『穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない』、また『働き手が報酬を受けることは当然である』と言われているからです」

3. 洗盤の水は、真理のみことばを象徴している。

- (1) ヨハ 15:3「あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです」
- (2) ヨハ 17:17「真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です」
- (3) エペ 5:25～27「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです」

4. 注ぎの油は、聖霊を象徴している。

- (1) イザ 61:1「神である主の霊が、わたしの上にある。【主】はわたしに油をそそぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、」

- (2) ルカ4:20～21「イエスは書を巻き、係りの者に渡してすわられた。会堂にいるみんなの目がイエスに注がれた。イエスは人々にこう言って話し始められた。『きょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおり実現しました』」
- (3) 使10:37～38(コルネリオに対するペテロのメッセージ)
「あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、ガリラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事がらを、よくご存じです。それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました」
- (4) 1ヨハ2:27「あなたがたの場合は、キリストから受けたそそぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教える必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、——その教えは真理であって偽りではありません——また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです」
- ①信仰の基本について教えてもらう必要はない。
- ②偽教師から教えてもらう必要はない。

【出エジ43】出エジプト記31章1節～18節

「聖霊の賜物、安息日」

1. 文脈の確認

- (1) 幕屋は、神の民に礼拝の方法を教えた。
- (2) モーセの律法と幕屋は、イスラエルの民にのみ与えられたものである。
- (3) 幕屋は、神の計画が成就する前の一時的な仕組みである。
 - ①幕屋は型である。対型は何かを考えることこそ重要。
 - ②幕屋は、キリストの型である。
- (4) これまでの話の流れ
 - ①出20章 十戒
 - ②出21章～23章 付加条項
 - ③出24章 民の同意
 - ④出24章 モーセは山に上る（これで2回目である）
 - ⑤出25章～31章 幕屋に関する命令（これが幕屋に関する8回目のメッセージ）
 - ⑥出31章 モーセはあかしの板2枚を受ける。
 - ⑦出32章 40日の間に山の麓の状況が変化する。

2. アウトライン

- (1) 聖霊の賜物 (31:1～11)
- (2) 安息日 (31:12～17)
- (3) 石の板 (31:18)

3. メッセージのゴール（なぜ私たちが、幕屋について学ぶ必要があるのか）

- (1) 新約時代の信者と聖霊の賜物
- (2) 新約時代の信者と安息日
- (3) 新約時代の信者と石の板

このメッセージは、幕屋の中に隠された新約時代の真理を発見するためのものである。

I. 聖霊の賜物 (1～11節)

1. ベツアルエル (1～5節)

「見よ。わたしは、ユダ部族のフルの子であるウリの子ベツアルエルを名ざして召し、彼に知恵と英知と知識とあらゆる仕事において、神の霊を満たした」(2～3節)

- (1) ユダ部族のフル、その子ウリ、その子ベツアルエル
 - ①フルとはモーセの手を両側から支えた2人のうちのひとり(出17章)
 - ②フルの孫がベツアルエルである。
 - (2) 「神の霊を満たした」
 - ①知恵(wisdom)
 - ②英知(understanding)
 - ③知識(knowledge)
 - (3) 聖霊による力の付与を「わたしは、彼に神の霊を満たした」と表現した。
 - ①ベツアルエルには工芸の能力があったはずである。
 - ②その上に、聖霊の力が与えられた。
 - ③人間の能力以上の仕事をするために。
 - (4) 仕事の内容(4～5節)

「それは、彼が、金や銀や青銅の細工を巧みに設計し、はめ込みの宝石を彫り、木を彫刻し、あらゆる仕事をするためである」

 - ①聖霊は、美と芸術の霊である。
2. ベツアルエルの援助者(6～11節)
- (1) オホリアブ(6a節)

「見よ。わたしは、ダン部族のアヒサマクの子オホリアブを、彼のもとに任命した」

 - ①オホリアブは、ダン部族のアヒサマクの子である。
 - ②小さい部族の中の、無名の人物が選ばれている。
 - (2) すべて心に知恵のある者(6b節)

「わたしはすべて心に知恵のある者に知恵を授けた。彼らはわたしがあなたに命じたものを、ことごとく作る」

 - ①多数の芸術家、工芸家、職人が用意された。
 - ②モーセの心配は吹き飛んだはずである。
 - (3) 制作する物(7～11a節)
 - ①幕屋とその中に入れる器具
 - ②祭司の装束
 - ③注ぎの油とかおりの高い香
 - (4) 私たちへの教訓
 - ①神が、財、方法、人材のすべてを用意された。
 - ②神が私たちに何かをお命じになる時、必要なものはすべて与えられる。

③ 2種類の人生

- * 恐れて退く人生
- * 自分の能力以上の成就を見る人生

④ 【主】の命令どおりに(11b節)

「彼らは、すべて、わたしがあなたに命じたとおりに作らなければならない」

- * 幕屋と教会は機能が異なる。
- * 教会(建物)は、信者がともに集い、神を礼拝する場所。
- * 教会は、ユダヤ教の会堂(シナゴグ)に似ている。
- * 幕屋は、神が住まう(臨在する)場所。

(例話) リッチ・フリーマン師のメッセージ

「ユダヤ人も異邦人も、キリストなしでは失われている」

II. 安息日(12～17節)

1. シナイ契約のしるし(13節)

「あなたはイスラエル人に告げて言え。あなたがたは、必ずわたしの安息を守らなければならない。これは、代々にわたり、わたしとあなたがたとの間のしるし、わたしがあなたがたを聖別する【主】であることを、あなたがたが知るためのものなのである」

(1) 契約としるし

- ① ノア契約のしるしは、虹である。
- ② アブラハム契約のしるしは、割礼である。
- ③ シナイ契約のしるしは、安息日である。

2. 安息日の規定の目的

(1) イスラエルの民を聖別するため

- ① 聖別とは、俗世界からの区別である。
- ② イスラエルの民は、安息日が来るたびに、自らの選びと使命を思い出す。
- ③ 安息日の規定は、離散の地に住むユダヤ人を守った。

(2) 神の性質を教えるため

「それは【主】が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである」(17節)

(3) イスラエルの民の信仰を育てるため

- ① 安息日に休息することは、神がすべてを満たしてくださると信じること。

3. 安息日の規定の厳格さ

(1) 幕屋建設の文脈の中でこの規定が与えられている。

①幕屋建設の間も、安息日には休まねばならない。

(2) 違反した場合は、「だれでも必ず殺される」(14節)

①常に実行することを想定した規定ではない。

②神とつながり、神からのちを受ける道はひとつしかない。

③律法の時代の始まりに、神に反抗するなら死しかないと教えている。

④使5:1～11 アナニヤとサツピラの罪

III. 石の板(18節)

1. あかしの板2枚

「こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち、神の指で書かれた石の板をモーセに授けられた」

(1) あかしの板とは、シナイ契約の条項が書かれているという意味。

①神の指で書かれた。神ご自身が書かれたという意味である。

(2) 通常は、契約の当事者が同じ契約書を一通ずつ保管する。

①石の板は、両面に書かれていた。

②この2枚は全く同じものと考えられる。

2. これからモーセは山を下るのであるが、麓では異変が起きていた。

結論: このメッセージは、幕屋の中に隠された新約時代の真理を発見するためのものである。

1. 新約時代の信者と聖霊の賜物

(1) 旧約時代の例

①創41:38 ヨセフ

「そこでパロは家臣たちに言った。『神の霊の宿っているこのような人を、ほかに見つけることができようか』」

②民11:17 モーセ

「わたしは降りて行って、その所であなたと語り、あなたの上にある霊のいくらかを取って彼らの上に置こう。それで彼らも民の重荷をあなたとともに負い、あなたはただひとりで負うことがないようになろう」

③士6:34 ギデオン

「【主】の霊がギデオンをおおったので、彼が角笛を吹き鳴らすと、アビエゼル人が集まって来て、彼に従った」

④士14:19 サムソン

「そのとき、【主】の霊が激しくサムソンの上を下った。彼はアシュケロンに下って行って、そこの住民三十人を打ち殺し、彼らからはぎ取って、なぞを明かした者たちにその晴れ着をやり、彼は怒りを燃やして、父の家へ帰った」

⑤1サム10:6 サウル

「【主】の霊があなたの上に激しく下ると、あなたも彼らと一しょに預言して、あなたは新しい人に変えられます」

⑥1サム16:13 ダビデ

「サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中で彼に油をそそいだ。【主】の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った。サムエルは立ち上がってラマへ帰った」

(2) まとめ

- ①聖霊の働きは、その範囲が限定されていた。
- ②聖霊の内住や聖霊のバプテスマはなかった。
- ③ペンテコステ以降、それが変化する。

(3) 新約時代の例

①執事の選抜(使6章)

「この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた」

②聖霊の内住

*すべての信者に与えられている祝福である。

*神からの一方的な贈り物である。

*聖句

ヨハ7:37～39、14:16～17

ロマ5:5

Iコリ2:12

IIコリ5:5

ガラ4:6

Iヨハ3:24、4:13

③聖霊のバプテスマ

*信じた時に受けるもので、後になって繰り返されるものではない。

*聖霊のバプテスマによって、キリストの死、埋葬、復活につながった。

ロマ6:1～10

コロ2:12

* 聖霊のバプテスマによって、キリストのからだである教会に連なった。

I コリ 12:13

ガラ 3:27

2. 新約時代の信者と安息日

(1) 新約時代の信者は、モーセの律法からは解放されている。

- ① 異邦人は、そもそもモーセの律法の下にいたことはない。
- ② ユダヤ人は、モーセの律法の下にいたが、今は解放されている。
- ③ 安息日の規定は、キリストの律法にはない。

(2) 安息日は、キリストを信じた人が経験する霊的状态の型である。

① ヘブ 4章

(3) 新約時代の信徒は、どの日に礼拝をしてもよい。

① ヘブ 10:25 は、定期的に来ることを勧めている。

「ある人々のように、いっしょに来ることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか」

3. 新約時代の信者と石の板

(1) 2 コリ 3:6～9 「神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです。もし石に刻まれた文字による、死の務めにも栄光があって、モーセの顔の、やがて消え去る栄光のゆえにさえ、イスラエルの人々がモーセの顔を見つめることができなかつたほどだとすれば、まして、御霊の務めには、どれほどの栄光があることでしょうか。罪に定める務めに栄光があるのなら、義とする務めには、なおさら、栄光があふれるのです」

① 古い契約と新しい契約

② 文字に仕える者と御霊に仕える者

③ 文字は殺し、御霊は生かす。

④ 死の務めにも栄光があるが、義とする務めにはなおさら栄光があふれる。

(例話) 今月の大阪の月例会で、日曜日に礼拝できないという女性から相談を受けた。

① 安息日と日曜日とは同じではない。

② 今の時代の信者は、モーセの律法の下にはいない。

【出エジ44】出エジプト記32章1節～14節

「金の子牛事件(1)」

1. 文脈の確認

(1) これまでの話の流れ

- ①出20章 十戒
- ②出21章～23章 付加条項
- ③出24章 民の同意
- ④出24章 モーセは山に上る(これで2度目である)。
- ⑤出25章～31章 幕屋に関する命令
- ⑥出31章 モーセはあかしの板2枚を受ける。
- ⑦出32章 40日の間に山の麓の状況が変化する。

2. アウトライン

- (1) 子牛を礼拝するイスラエルの民(32:1～6)
- (2) 怒りを覚える神(32:7～10)
- (3) 執りなしの祈りを捧げるモーセ(32:11～14)

3. メッセージのゴール

- (1) 偶像礼拝と真の礼拝の対比
- (2) モーセが受けたテスト
- (3) 神の御心の変化

このメッセージは、金の子牛事件を通して私たちに適用される霊的真理を発見するためのものである。

I. 子牛を礼拝するイスラエルの民(1～6節)

1. 民の要求(1節)

(1) 出24:18とのつながり

「モーセは雲の中に入って行き、山に登った。そして、モーセは四十日四十夜、山にいた」

(2) 手間取っていると感じた。

- ①神が民に必要なものを用意しておられる間に、民の心は神から離れた。
- ②神の時を待つことができないで、自分の計画に走るのは罪である。
- ③サウルの罪(自分でいけにえを捧げた)1サム13:8～9
- ④イスラエルの民の罪 イザ30:15～18

(3) 自分の手で安心を勝ち取ろうとした。

①神の臨在を人間的に作り出そうとした。

②自分たちを守り、導いてくれる神を作り出そうとした。

(4) 神が建てたリーダーであるモーセを軽蔑した。

①「あのモーセという者」(this fellow Moses)

(5) 現代人の感覚では、必ずしも悪いこととは思えないだろう。

①自力で自分の安全を確保し、心の平安を得ようとした。

②神の視点と人間の視点は、どこまで行っても平行線である。

2. アロンの対応 (2節)

(1) 民の決意が固いことを見て、こう言った。

「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳にある金の耳輪をはずして、私のところに持って来なさい」

(2) 金の耳輪

①当時の中近東の人たちは、男女ともに金の耳輪をしていた。

②これはエジプトから受け取った貴重な品である。

③アロンは、妻、息子、娘たちの金の耳輪を要求した。

④これは、ことの進展を送らせるため、ことによっては断念させるためであろう。

3. 民の応答 (3節)

(1) アロンの意図に反して、民はすぐに行動した。

「そこで、民はみな、その耳にある金の耳輪をはずして、アロンのところに持って来た」

①偶像礼拝のためには、すぐに行動する。

②偶像礼拝のためには、犠牲を惜しまない。

4. 鋳物の子牛 (4節)

「彼がそれを、彼らの手から受け取り、のみで型を造り、鋳物の子牛にした。彼らは、『イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ』と言った」

(1) 子牛

①エジプトの偶像の中に、雄牛があった。

②雄牛は、力、権威、豊穡を表す偶像である。

(2) なぜ雄牛でなく、子牛なのか。2つの可能性。

①アロンは雄牛を造ったが、モーセは軽蔑の意味を込めて「子牛」と書いた。

②アロンは子牛を造った。罪が軽くなるように。

(3) 民の叫び

「イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ」

- ①彼らは、エジプトで経験した10の災害を忘れた。
- ②彼らは、エジプトの偶像が無力であったことを忘れた。

(4) イスラエルの悩ませた偶像礼拝には2種類ある。

①真の宗教の墮落

- * ヤロブアムの道 (1列12:26～30)
- * 北王国の初代王であるヤロブアムは、金の子牛をダンとベテルに据えた。

②外国の偶像礼拝

- * バアル礼拝
- * 預言者エリヤの時代に最も盛んになった。

5. 祭壇の前での礼拝 (5～6節)

「アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼ばわって言った。『あすは【主】への祭りである』。そこで、翌日、朝早く彼らは全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえを供えた。そして、民はすわっては、飲み食いし、立っては、戯れた」

(1) リーダーシップを放棄するアロン

- ①民の願い通りに動くリーダーは、真のリーダーではない。

(2) 墮落した礼拝

- ①全焼のいけにえを捧げた。
- ②和解のいけにえを供え、飲み食いした。
- ③立っては、戯れた。

「ペリシテ人の王アビメレクが窓から見おろしていると、なんと、イサクがその妻のリベカを愛撫しているのが見えた」(創26:8)

- * イツハックという名と動詞の言葉遊びがある。
- * 「戯れる」とは、性的意味を持つ言葉である。

(3) 偶像礼拝の本質

- ①神の領域と物質の領域がつながっているという誤解
- ②儀式や形式によって、神の領域に影響を与えることができるという誤解
- ③道徳的墮落

II. 怒りを覚える神 (7～10節)

1. 民の墮落 (7～8節)

「さあ、すぐ降りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、墮落してしまっただけから。彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道からはずれ、自分たちのために鋳物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえをささげ、『イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ』と言っている」

(1) 礼拝が墮落した。

- ①わたしが彼らに命じた道からはずれた。
- ②鑄造の子牛を造り、それを伏し拝んだ。

(2) いけにえの制度が墮落した。

- ①偶像に全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえを供えた。

(3) 出エジプトの手柄を偶像に与えた。

2. 神の決意 (9～10節)

【主】はまた、モーセに仰せられた。『わたしはこの民を見た。これは、実にうなじのこわい民だ。今はただ、わたしのするままにせよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がって、わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民としよう』

(1) うなじのこわい民

- ①「かたくなな民」(新共同訳)
- (2) 神はイスラエルの民を滅ぼそうとされた。
- (3) モーセから新しい民を誕生させると言われた。

III. 執りなしの祈りを捧げるモーセ (11～14節)

1. 執りなしの祈りの内容 (11～13節)

(1) 神の恵みへのアピール (11節)

【主】よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から連れ出されたご自分の民に向かって、どうして、あなたは御怒りを燃やされるのですか」

- ①イスラエルへの愛に対するアピール

(2) 神の性質へのアピール (12節)

「また、どうしてエジプト人が『神は彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ』と言うようにされるのですか。どうか、あなたの燃える怒りをおさめ、あなたの民へのわざわざを思い直してください」

- ①神の御名の栄光へのアピール

(3) 神の契約へのアピール (13節)

「あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを覚えてください。あなたはご自身にかけて彼らに誓い、そして、彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のようにふやし、わたしが約束したこの地をすべて、あなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれを相続地とするようになる』と仰せられたのです」

- ①アブラハム契約は無条件契約であることへのアピール

2. 執りなしの祈りの結果(14節)

「すると、【主】はその民に下すと仰せられたわざわいを思い直された」

(1) 神はモーセの祈りを喜ばれた。

結論：私たちに適用される霊的真理

1. 偶像礼拝と真の礼拝の対比

(1) 金の子牛

① 聖職者アロンが民に命じて捧げ物を出させた。

② 聖職者アロンが金の子牛を造り、民がそれを礼拝した。

(2) 真の礼拝

① 民が自発的に捧げた。

② 幕屋建設には、聖霊の賜物を受けた僕が立てられ、民がそれに参加した。

2. モーセが受けたテスト

(1) 「あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民」(7節)

① あなたは神になれというテスト

② モーセが傲慢になっていないかどうかを試すテスト

(2) 「今はただ、わたしのするままにせよ」(10節)

① 絶望と見るか、執りなしの祈りの機会と見るかのテスト

② 仲介者モーセの成長を促すテスト

(3) 「わたしはあなたを大いなる国民としよう」(10節)

① アブラハムに語られたのと同じことば

② もしモーセがこれを受けていたなら、モーセの民が誕生していたことになる。

③ これはモーセの自己中心性を試すテスト

④ これはモーセがどの程度神の計画を理解していたかを試すテスト

3. 神の御心の変化

(1) 神の視点と人間の視点の違い

① 人間の視点から見ると、神の御心が変化したように思える。

(2) 神の計画は変化しない。

① モーセの律法の中の食物規定

② 今は適用されない。

③ 神の計画が変わったように見えるが、最初からこれは一時的な規定である。

④ アブラハム契約があるので、イスラエルの民が減びることはあり得ない。

⑤ 神の計画が変化したように見えるのは、執りなしの祈りの機会を与えるため。

【出エジ45】出エジプト記32章15節～35節

「金の子牛事件(2)」

1. 文脈の確認

(1) これまでの話の流れ

- ①出24章 モーセは山に上る(これで2度目である)。
- ②出25章～31章 幕屋に関する命令
- ③出31章 モーセはあかしの板2枚を受ける。
- ④出32章 40日の間に山の麓の状況が変化する。
 - * 子牛を礼拝するイスラエルの民
 - * 怒りを覚える神
 - * 執りなしの祈りを捧げるモーセ

2. メッセージのアウトライン

- (1) 怒りを覚えるモーセ(32:15～20)
- (2) アロンの弁解(32:21～24)
- (3) 裁かれる民(32:25～29)
- (4) モーセの懇願(32:30～35)

3. メッセージのゴール

- (1) 霊的洞察力
- (2) 弁解の本質
- (3) 献身の本質
- (4) いのちの書の意味

このメッセージは、金の子牛事件を通して私たちに適用される霊的真理を発見するためのものである。

I. 怒りを覚えるモーセ(15～20節)

1. 2枚のあかしの板(15～16節)

- (1) 板は両面から書いてあった。
 - ①つまり、十戒が両面に書かれていた。
 - ②同じ板が2枚用意された。
- (2) 神の作
 - ①モーセが書いたのではない。
 - ②神の手によって書かれたシナイ契約の条項である。

2. ヨシュアの判断 (17～18節)

(1) モーセはヨシュアがいる所まで降りて来た。

- ①ヨシュアは山の中腹にいた。
- ②山頂での神とモーセの会話を聞いていない。
- ③麓での民の様子も分からない。

(2) ヨシュアは、民の叫ぶ大声を聞いて、判断を下した。

「宿営の中にくさの音がします」

- ①敵の声なのか、味方の声なのかは分からないが、ときの声がする。
- ②こういう重要な時に、自分が民とともにいなかったのは残念なことである。

(3) モーセの判断

「それは勝利を叫ぶ声ではなく、敗北を嘆く声でもない。私の聞くのは、歌を歌う声である」

- ①よりの確な判断を下している。
- ②歌を歌う声である。祭りか宗教的儀式の声である。

3. モーセの怒り (19～20節)

(1) 子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。

- ①モーセほど謙遜な人はいなかった(民12:3)。
- ②神に「どうしてご自身の民に対して怒りを燃やされるのですか」と言った。
- ③そのモーセも、怒りをとどめておくことができなかった。

(2) モーセは、2枚の板を山の麓で砕いてしまった。

- ①怒りの表現
- ②シナイ契約は破棄されたことを示している。
- ③これを示して神の恵み深さを説明しようとしたものを破壊した。

(3) 怒りの4つのステップ

- ①子牛を火で焼いた。
- ②それを粉々に砕いた。
- ③それを水の上にまき散らした。
- ④それをイスラエル人に飲ませた。

* 全員にではなく、首謀者たちに飲ませた。

* 民の体内を通過することによって、金の子牛は汚れたものとなった。

II. アロンの弁解 (21～24節)

1. アロンに対するモーセの言葉 (21節)

「この民はあなたに何をしたのですか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは」

(1) モーセはアロンをある程度まで信用している。

- ①アロン自身の意志でこれをしたとは思えない。
- ②民からの脅迫があったのではないかという判断を下している。
- ③なぜ民にこんなに大きな罪を犯させたのかと問うている。

2. アロンの回答 (22～24節)

(1) 民は本質的に悪い性質を持っている。

「わが主よ。どうか怒りを燃やさないでください。あなた自身、民の悪いのを知っているでしょう」

- ①「わが主よ」という謙遜な言葉を口にする。
- ②民は悪い性質を持っている。

(2) 民は私に要求した。

「私たちに先立って行く神を、造ってくれ。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから」

- ①民の声は強かった。
- ②あのモーセという者がどうなったか、分からない。

(3) 子牛は自然に出てきた。

「『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りはずせ』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです」

- ①これを火に投げ入れると、自然にこの子牛になった。

III. 裁かれる民 (25～29節)

1. 民の状態 (25節)

「モーセは、民が乱れており、アロンが彼らをほうっておいたので、敵の物笑いとなっているのを見た」

(1) モーセはアロンの弁解の欺瞞性を見抜いている。

- ①アロンはリーダーとしての役割を放棄した。

(2) 「民が乱れており」とは、衣服の乱れのこと。

- ①民は裸になって踊っていた。
- ②これはエジプトの習慣でもある。

(3)「敵の物笑いとなっている」とはどういう意味か。

①アマレク人は砦を荒野の各所に持っており、そこから監視していたとの説

②将来にわたってイスラエルの民は偶像礼拝をしている民から軽蔑される。

* イスラエルの神を捨てて偶像に走った民

* その結果、自分たちの神から見捨てられた民(エゼ36:19~20)

2. モーセの呼びかけ(26節)

「そこでモーセは宿営の入口に立って『だれでも、【主】につく者は、私のところに』と言った。するとレビ族がみな、彼のところに集まった」

(1)「宿営の入口」は、「町の門」と同じ機能を果たす場所である。

①裁判を行い、契約を交わし、売買を行う場所

②モーセは公に呼びかけた。

③民に選択権を与えている。

(2)「だれでも、【主】につく者は、私のところに」

①偶像礼拝ではなく、真の礼拝を求める者は私のところに。

②神の栄光を熱心に求める者は私のところに。

(3) 呼びかけの結果

①レビ族がみな集まった。

②「みな」とは「多く」という意味である。

③レビ族の中にも罪を犯した者がいた。

3. 神の命令(27と29節)

「イスラエルの神、【主】はこう仰せられる。おのおの腰に剣を帯び、宿営の中を入口から入口へ行き巡って、おのおのその兄弟、その友、その隣人を殺せ」

「あなたがたは、おのおのその子、その兄弟に逆らっても、きょう、【主】に身をささげよ。主が、きょう、あなたがたに祝福をお与えになるために」

(1) この命令は、問題の原因を早急に取り除くためのものである。

(2) レビ族の中に首謀者たちがおり、さらに【主】に熱心な者たちがいた。

①それ以外の部族の中にも罪を犯した者はいたであろうが、中心はレビ族である。

(3) 【主】に献身をする理由は、祝福を受けるためである。

①幕屋での奉仕

②大祭司を出す民

4. 命令の実行 (28 節)

「レビ族は、モーセのことばどおりに行った。その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた」

(1) レビ族の中の熱心な者が、金の子牛事件の首謀者たちを殺した。

①殺されたのは、約3千人であった。首謀者の人数である。

②そのほとんどがレビ族であった。

③アロンも殺されて当然であるが、大祭司に任命されていたために免れた。

IV. モーセの懇願 (30～35 節)

1. モーセの決意 (30 節)

「翌日になって、モーセは民に言った。『あなたがたは大きな罪を犯した。それで今、私は【主】のところの上って行く。たぶんあなたがたの罪のために贖うことができるでしょう』」

(1) 当面の処置は完成した。

①【主】は次に何を求めておられるのか。

②「贖うことができるでしょう」とは、身代わりの死を決意した言葉である。

2. 【主】への言葉 (31～32 節)

「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら——。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください」

(1) 民の罪を認めている。

(2) 民の罪が赦されるために、自分の命を差し出している。

3. 【主】からの言葉 (33～34 節)

「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう。しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に、民を導け。見よ。わたしの使いが、あなたの前に行く。わたしのさばきの日にわたしが彼らの罪をさばく」

(1) 裁きは神の主権によって行われる。

(2) 今はカナンのに民を導け。

①アブラハムに約束した地

(3) 「わたしの使いが、あなたの前に行く」

①出 23：20 との対比

「見よ。わたしは、使いをあなたの前に遣わし、あなたを道で守らせ、わたしが備えた所にあなたを導いて行かせよう」

②この使いはメシアのことであるが、出32:34の使いとは被造物の天使である。

③出33:3～4では、【主】は民とともに登らないとされている。

(4) 裁きは延期された。

①時が来たなら、裁きが行われる。

②35節の言葉、「【主】は民を打たれた」は、将来の裁きを示したものである。

結論：私たちに適用される霊的真理

1. 霊的洞察力

(1) ヨシユアは、戦士の経験に基づく判断を下している。

①アマレク人が潜んでいる可能性がある。

②あの声は「ときの声」である。

③やはり、心配していたことが起こったのだ。

(2) モーセは、神との対話を通して、何が起きているのかを知っていた。

①霊的洞察力の差が出ている。

(3) 自分の経験だけに頼るのではなく、霊的洞察力を求める。

①みことばに聞く。

②正しすぎてはいけない。

2. 弁解の本質

(1) 民は本質的に悪い性質を持っている。

①民の悪癖については、モーセもよく知っているはずだ。

(2) 民は私に要求した。

①あのモーセという者がどうなったか、分からない。

②40日もいなかったモーセにも責任があるのではないか。

(3) 子牛は自然に出てきた。

①彼らは自発的に金を私に渡した。

*アロンが命じたという事実は隠された。

②これを火に投げ入れると、自然にこの子牛になった。

*アロンが鋳型を作ったことは隠された。

*この子牛が奇跡的に誕生したかのように言われた。

(例話) スターバックスの業績回復

3. 献身の本質

(1) レビ族に対する裁きは厳しかった。

①レビ族の人口は、1カ月以上のすべての男子で2万2千人(民3:39)。

②他の部族は、20歳以上でももっと多い。

*平均4万人程度、3万人以下の部族はいない。

(2) 多く与えられた者は、多く求められる(ルカ12:48)。

①イスラエルの民は選びの民であり、多く求められる。

②選びと苦難とは表裏一体である。

③祭司の民の中でも、レビ族は祭司の部族である。

(3) 神第一の生活の重要性

「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません」(マタ10:37)

4. いのちの書の意味

(1) 「あなたの書物から、私の名を消し去ってください」とは「いのちの書」のこと。

①詩69:28「彼らがいのちの書から消し去られるように」

②イザ4:3、ダニ12:1、ピリ4:3参照

③黙3:5、17:8、20:12、20:15参照

(2) 生まれた人はすべてこの書に名が記される。

①この書の名は、消される可能性がある。

②救われないままで死ぬと、その名が消される。

(3) 「小羊のいのちの書」

①黙13:8、21:27参照

(4) 救われた人の名がこの書に記される。

①その名が消されることはない。

②一度救われたなら、その救いを失うことはない。

③「では何をしてもいいのか」と問う人は、まだ救われていない可能性が大である。

(5) 自己犠牲の祈り

①ユダ 創44:33

②モーセ

③パウロ ロマ9:1~3

④イエス ルカ23:34

【出エジ46】出エジプト記33章1節～23節

「金の子牛事件(3)」

1. 文脈の確認

(1) これまでの話の流れ

- ①出32章 モーセが山にいた40日の間に山の麓の状況が変化した。
- ②執りなしの祈りを捧げたモーセは、山を下る。
- ③怒りを覚えたモーセは、石の板2枚を砕いた。
- ④アロンは弁解した。
- ⑤民は裁かれた。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 悲しむ民(33:1～6)
- (2) 神との新しい対話法(33:7～11)
- (3) モーセの祈り(33:12～23)

3. メッセージのゴール

- (1) なぜ神はモーセの祈りに答えるのか。
- (2) モーセが最も求めていることは何なのか。
- (3) 真の安息はどこにあるのか。

このメッセージは、モーセの祈りから私たちに適用される霊的真理を発見するためのものである。

I. 悲しむ民(1～6節)

1. 【主】の約束は継続する(1節)

「【主】はモーセに仰せられた。『あなたも、あなたがエジプトの地から連れ上った民も、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓って、「これをあなたの子孫に与える」と言った地にここから上って行け』」

- (1) 神はイスラエルの民を滅ぼすことを留められた。
- (2) 神はイスラエルの民にカナンの地を与えてくださる。
 - ①アブラハム契約のゆえに
 - ②この契約は無条件契約である。

2. 【主】とイスラエルの民の関係が、金の子牛事件以降変化した(2～3節)。

「わたしはあなたがたの前にひとりの使いを遣わし、わたしが、カナン人、エモリ人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い払い、乳と蜜の流れる地にあなたがたを行かせよう。わたしは、あなたがたのうちにあっては上らないからである。あなたがたはうなじのこわい民であるから、わたしが途中であなたがたを絶ち滅ぼすようなことがあるといけないから」

(1) 変化していない部分

①カナンの地の住民を追い払う。

* カナン人、エモリ人、ヘテ人、ペリジ人、エブス人

③そこは乳と蜜の流れる地である。

* エジプトほど肥沃な地ではないが、荒野よりもはるかに農業に適した地。

(2) 変化した部分

①出23：23で約束が与えられていた。

「わたしの使いがあなたの前を行き、あなたをエモリ人、ヘテ人、ペリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人のところに導き行くとき、わたしは彼らを消し去ろう」

* この使いは、「【主】の使い」である(第二位格の神)

②出33：2でその約束が変更された。

* 「ひとりの使い」とは、被造物の天使である。

* 「わたしは、あなたがたのうちにあっては上らないから」

(3) 変化の理由

①「あなたがたはうなじのこわい民であるから」

* シナイ契約に違反した民

②「途中であなたがたを絶ち滅ぼすようなことがあるといけないから」

(4) 変化の結果

①出25～31章までの幕屋に関する命令は、すべて無駄となる。

②シャカイナグローリーは民の間には現れない。

3. 悲しむ民(4節)

「民はこの悪い知らせを聞いて悲しみ痛み、だれひとり、その飾り物を身に着ける者はいなかった」

(1) 金の子牛の回りで踊った時に、これらの飾り物を身に着けていた可能性がある。

(2) 内面的な悲しみと悔い改めを、外面的に表現した。

①自らの罪によって、【主】の臨在を失ったことへの反省

4. 【主】のことば(5～6節)

「【主】はモーセに、仰せられた。『イスラエル人に言え。あなたがたは、うなじのこわい民だ。一時でもあなたがたのうちにあって、上って行こうものなら、わたしはあなたがたを絶ち滅ぼしてしまうだろう。今、あなたがたの飾り物を身から取りはずしなさい。そうすれば、わたしはあなたがたをどうするかを考えよう』。それで、イスラエル人はホレブの山以来、その飾り物を取りはずしていた」

(1) 「わたしはあなたがたを絶ち滅ぼしてしまうだろう」

①出24：1～8でシナイ契約が血の契約であることが明らかになっていた。

②違反した者は、血の代価を要求される。

③【主】が民の命を要求されても、それは当然のことであった。

④【主】がともに上らないのは、民にとっては恵みである。

(2) 「そうすれば、わたしはあなたがたをどうするかを考えよう」

①神が迷っているのではない。

②民の悔い改めの度合いによって、神の対応が変化するのである。

(3) イスラエルの民は、ホレブの山以来、飾り物を取りはずしていた。

①喪に服する時の恰好をしたということ。

II. 神との新しい対話法(7～11節)

1. 会見の天幕(7～8節)

「モーセはいつも天幕を取り、自分のためにこれを宿営の外の、宿営から離れた所に張り、そしてこれを会見の天幕と呼んでいた。だれでも【主】に伺いを立てる者は、宿営の外にある会見の天幕に行くのであった。モーセがこの天幕に出て行くときは、民はみな立ち上がり、おのおの自分の天幕の入口に立って、モーセが天幕に入るまで、彼を見守った」

(1) 金の子牛事件の前は、シャカイナグローリーは宿営の中に宿っていた。

①民の罪のゆえに、シャカイナグローリーは宿営から離れた。

(2) モーセは宿営から離れた所に天幕を張った。

①これが会見の天幕である。

②「呼んでいた」とは「呼んだ」、「名づけた」という意味である。

③会見の天幕が幕屋を指すこともあるが、これは幕屋ではない。

④モーセは、神と民の完全な和解を達成するために神と対話する必要があった。

⑤距離はどれくらいか。

*ユダヤ人の学者は、ヨシ3：4を根拠に距離を約900メートルと考える。

「あなたがたと箱との間には、約二千キュビトの距離をおかなければならない。それに近づいてはならない。それは、あなたがたの行くべき道を知るためである。あなたがたは、今までこの道を通ったことがないからだ」

(3) モーセが天幕に向かうと、民は立ち上がり、彼がそこに入るまで見守った。

①かつては、「あのモーセという者」と呼んだ。

②今は、モーセに対する尊敬の念がある。

* リーダーとして

* 神の器として

* 神と民の仲介者として

2. 雲の柱 (9～11節)

「モーセが天幕に入ると、雲の柱が降りて来て、天幕の入口に立った。主はモーセと語られた。民は、みな、天幕の入口に雲の柱が立つのを見た。民はみな立って、おのおの自分の天幕の入口で伏し拝んだ。【主】は、人が自分の友と語るように、顔と顔とを合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた」

(1) モーセが天幕に入ると、雲の柱がシナイ山の頂から地上に降りて来た。

①雲の柱は天幕の入口に立った。

②主は雲の柱の中からモーセと語られた。

③これは大いなる恵みであった。

(2) 民は自分の天幕の入口で伏し拝んだ。

①モーセが神と話しているという事実の前に、畏怖の念を感じた。

(3) 【主】は、人が自分の友と語るように、顔と顔とを合わせてモーセに語られた。

①【主】は、モーセの信仰をよしとされた。

②神は、恐れを与える語り方ではなく、優しく、明瞭に語られた。

③モーセの側からすると、神と民の和解の可能性が残されているということ。

(4) 民に神のことばを告げるために、モーセは宿営に帰る。

(5) ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた。

①「幕屋」ではなく「会見の天幕」である。そこを管理していた。

②若者

* モーセの従者。モーセと比較すると若い。

* 実際は、アマレクとの戦いで司令官を務めた。

* ヨシュアの寿命は110歳であった(ヨシ24:29)。

* そこから50数年を引くと、当時は50代の半ばになっていた。

③モーセの後を継ぐリーダーが育っていた。

Ⅲ. モーセの祈り(12～23節)

1. 第一の願い：「あなたの道を教えてください」(12～13節)

(1) 「ひとりの使い」が誰なのか分からない。

①以前は「【主】の使い」がともにいてくださった。

②これからは、被造物の名も知らない天使が来るというが、不安である。

(2) 私が御前で特別な恵みをいただいていると言われました。

①名ざして選んだ。

②わたしの心になっている。

(3) もしそうなら、あなたの道を教えてください。

2. 第一の願いに対する神からの答え(14節)

「わたし自身がいっしょに行って、あなたを休ませよう」(新改訳)

「わたしが自ら同行し、あなたに安息を与えよう」(新共同訳)

①直訳は、「わたしの顔が行く」である。

②幕屋の再建が約束された。

③モーセ個人の安息ではなく、民全体の安息が約束された。

3. 第二の願い：「いったい何によって知られるのでしょうか」(15～16節)

(1) 【主】がともにおられないなら、荒野にいた方がまだ。

(2) イスラエルの民が地上のすべての民と区別されるのは、【主】がともにおられるという事実による。

4. 第二の願いに対する神からの答え(17節)

「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名ざして選び出したのだから」

5. 第三の願い：「どうか、あなたの栄光を私に見せてください」(18節)

6. 第三の願いに対する神からの答え(19～23節)

(1) 「わたし自身、わたしのあらゆる善をあなたの前に通らせ、【主】の名で、あなたの前に宣言しよう。わたしは、恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ」

①あらゆる善とは、神の栄光のことである。

②【主】の性質の宣言を行う。

③神の主権の宣言を行う。

(2)「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである」

①顔や手という言葉は、擬人法である。

②「わたしの顔」とは神の栄光のすべてを指す。

③人間の限界性のゆえに、神の栄光のすべてを見ることはできない。

(3)「見よ。わたしのかたわらに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておこう。わたしが手をのけたら、あなたはわたしのうしろを見るであろうが、わたしの顔は決して見られない」

①「わたしのうしろ」とは背中のこと。

②栄光の片鱗を見るということ。

結論：私たちに適用される霊的真理

1. なぜ神はモーセの祈りに答えるのか。

(1) 神は負けるのが好きなのだ。

①真剣に神の祝福を求めている者に対して

②真実に悔い改めている者に対して

(2) 創32章に出てくるヤコブの祈りを見よ。

①ヤコブは神に勝った。

②イスラエルという名をもらった。

(3) 出33章のモーセの祈りを見よ。

①3度のリクエストは、徐々に厚かましくなっていく。

②神が負けることを楽しんでおられるようではないか。

③幕屋の建設が許可された。

④モーセは誰も体験したことのないレベルで、神の栄光を体験した。

2. モーセが最も求めていることは何なのか。

(1)「あなたの道を教えてください」(13節)

①どのようにして民をカナンの地に導こうとしているのか。

②誰が導いてくれるのか。

③自分(モーセ)に対する計画はどのようなのか。

④民に対する計画はどのようなのか。

⑤何よりも、神のご性質はどのようなものなのか。

(2) 「あなたの栄光を私に見せてください」(18節)

- ①神の完全性
- ②神の知恵
- ③神の聖さ
- ④神の義
- ⑤神の力
- ⑥神の忠実さ
- ⑦神の恵み

(3) 出エジプトの目的は、神を知ることにある。

- ①これは、神がイスラエルの民に期待したことである。
- ②少なくとも、ひとりの人がそれを理解し始めた。
- ③聖書の神と、人間が想像する神とは違う。

(例話) クリスチャン・スミスという人の本
最近の福音派クリスチャンの神観

「moral, therapeutic deism」(the Santa Claus god)

- * 神は私たちに善良な人間になって欲しいと願っておられる。
- * 神は私たちに幸せになって欲しいと願っておられる。
- * 神は遠くにいて、私たちの日常生活には関わらない。

3. 真の安息はどこにあるのか。

- (1) アブラハム以来、この民族には安らぎがなかった。
- (2) 彼らはカナン之地に導かれる。
- (3) 私たちにとっての安息は、天のエルサレムにある。

(例話) 先日出会った車いすの90歳になるご婦人のことば。早く召されたい。

【出エジ47】出エジプト記34章1節～35節

「契約の再締結」

1. 文脈の確認

(1) これまでの話の流れ

- ①モーセが山にいた40日の間にイスラエルの民は金の子牛を作った。
- ②怒りを覚えたモーセは、石の板2枚を砕いた(契約破棄)。
- ③民は裁かれた。

(2) 前回のメッセージのアウトライン

- ①悲しむ民
- ②神との新しい対話法(宿営の外で神と出会う)
- ③モーセの祈り
 - * 「あなたの道を教えてください」
 - * 「いったい何によって知られるのでしょうか」
 - * 「どうか、あなたの栄光を私に見せてください」

2. メッセージのアウトライン

- (1) 神の栄光の啓示(1～9節)
- (2) 契約の再締結(10～28節)
- (3) モーセの顔の輝き(29～35節)

3. メッセージのゴール

- (1) 新約聖書における神の栄光の啓示
- (2) モーセが顔におおいをかけた理由

このメッセージは、シナイ契約の再締結から私たちに適用される霊的真理を学ぶためのものである。

I. 神の栄光の啓示(1～9節)

1. 【主】からの命令(1～3節)

「【主】はモーセに仰せられた。『前と同じような二枚の石の板を、切り取れ。わたしは、あなたが砕いたこの前の石の板にあったあのことばを、その石の板の上に書きしるそう。朝までに準備をし、朝シナイ山に登って、その山の頂でわたしの前に立て』」

- (1) 神が契約を再締結してくださる。
 - ①朝までに2枚の石の板を用意する。
 - ②シナイ山に登り、頂で【主】の前に立つ。

(2) 最初の時との相違

- ①石の板はモーセが用意する。
- ②そこに文字を書くのは【主】である。
- ③モーセがひとりで山に登る。
- ④家畜が山の麓で草を食べていてもいけない。

2. 山に登るモーセ(4節)

「そこで、モーセは前と同じような二枚の石の板を切り取り、翌朝早く、【主】が命じられたとおりに、二枚の石の板を手を持って、シナイ山に登った」

(1) モーセの従順

- ①2枚の石の板を切り取った。
- ②翌朝早く
- ③【主】が命じられたとおりに
- ④これで3度目の登山。毎回40日40夜山頂に留まる。

(2) 軽くて小さい石の板

- ①モーセが自分の手で山頂まで運べたほどの重さ
- ②契約の箱に入るサイズ

3. シャカイナグローリー(5節)

「【主】は雲の中であって降りて来られ、彼とともにそこに立って、【主】の名によって宣言された」

(1) この雲はシャカイナグローリーである。

- ①会見の天幕の入り口にあった雲の柱が山頂に移動した。
- ②【主】はシャカイナグローリーの中から宣言された。

(2) 訳語の問題

「【主】の名によって宣言された」(新改訳)、「主の名を宣べられた」(口語訳)、「主の御名を宣言された」(新共同訳)

- ①新共同訳がよい。
- ②この箇所は、御名による宣言ではなく、御名の宣言である。
- ③御名とは神の本質であり、それこそモーセが祈りの中で願ったことである。
- ④御名の内容は、6～7節に出てくる。

4. 【主】はモーセの前を通り過ぎた(6～7節)

「【主】は彼の前を通り過ぎるとき、宣言された。「【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、恵みを千代も保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に」

(1) 【主】は彼の前を通り過ぎた。

- ①【主】の栄光の啓示がモーセに与えられる。

②【主】の栄光の啓示とは、神の性質の啓示である。

(2) 訳語の問題

「【主】、【主】は」(新改訳)、「主、主」(口語訳)、「主、主」(新共同訳)

①口語訳と新共同訳がよい。原文では、「ヤハウエ、ヤハウエ」である。

(3) 神の栄光の啓示(あらゆる善が8つの性質で表現されている)

①「【主】、【主】」

* 契約の神の御名

* 神の固有名詞

②「あわれみ深く、情け深い神」

③「怒るのにおそく」

④「恵みとまことに富み」

* 創造主がイスラエルの民を通してご自身を全人類に啓示しておられる。

* これらの性質がなければ、旧約聖書はここで終わっている。

* あるいは、人類の再創造が始まっている。

* これらの性質のゆえにシナイ契約の再締結が行われるのである。

⑤「恵みを千代も保ち」

⑥「咎とそむきと罪を赦す者」

⑦「罰すべき者は必ず罰して報いる者」

* 罪を赦すという性質は神の弱さではない。

* また罪を犯す口実としてはならない。

* 罪は赦されるが、その結果は残る。

⑧「父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に」

* 親の悪影響は子孫に及ぶ。

* それは3代、4代までである。

5. モーセの応答(8～9節)

「モーセは急いで地にひざまずき、伏し拝んで、お願いした。『ああ、主よ。もし私があるあなたのお心にかなっているのですしたら、どうか主が私たちの中において、進んでくださいますように。確かに、この民は、うなじのこわい民ですが、どうか私たちの咎と罪を赦し、私たちをご自身のものとしてくださいますように』」

(1) ここで出33:21～23の約束が成就した。

①モーセは神の背中(after-glow)を見た。

②彼は地にひざまずき、伏し拝んだ。

(2) モーセの祈り

①民の咎と罪が赦されるように。

②民が神の所有物となるように。

③神と民の関係が完全に回復されるように。

II. 契約の再締結(10～28節)

1. 出20章～23章の繰り返し

(1) 基本的な内容が要約されている。

- ①民が神のことばに従うなら、神からの守りがある。
- ②カナン人との契約は禁止。
- ③偶像礼拝も禁止。
- ④三大祭りを祝う。
 - *種なしパンの祭り(過越の祭りを含む)
 - *七週の祭り
 - *仮庵の祭り
- ⑤安息日を守る。

2. モーセの役割と神の役割

(1) モーセが契約条項を書き記す(27節)。

「これらのことばを書きしるせ。わたしはこれらのことばによって、あなたと、またイスラエルと契約を結んだのである」

(2) 四十日四十夜(28節)

「モーセはそこに、四十日四十夜、【主】とともにいた。彼はパンも食わず、水も飲まなかった。そして、彼は石の板に契約のことば、十のことばを書きしるした」

- ①モーセは、40日40夜、【主】とともにいた。
- ②モーセは断食をした。
- ③新改訳、口語訳、新共同訳のすべてが、モーセが書いたように訳している。
- ④しかし、「彼」とは【主】のことである。

III. モーセの顔の輝き(29～35節)

1. 初回にはなかった現象が起こった(29節)

「それから、モーセはシナイ山から降りて来た。モーセが山を降りて来たとき、その手に二枚のあかしの石の板を持っていた。彼は、主と話したので自分の顔のはだが光を放ったのを知らなかった」

(1) 前回同様、2枚のあかしの石の板を持って山を降りて来た。

(2) モーセの顔のはだが光を放った。

- ①モーセは知らなかった。
- ②【主】の栄光を見たために、モーセの顔が輝いていた。
- ③月が太陽に光を反射するように、モーセの顔が【主】の栄光を反射させていた。

2. 民の反応(30～32節)

- (1) アロンとイスラエルの民は、恐れた。
 - ①モーセに近づけなかった。
 - ②モーセが彼らを呼び寄せた。
- (2) それから、シナイ山で神から命じられたことを、ことごとく告げた。

3. おおいに関する方針

- (1) 民と語り終わると、顔におおいを掛けた。
- (2) 天幕で神と語る時は、おおいを外した。
- (3) 天幕から出て民に語る時は、モーセの顔は光を放った。
- (4) それが終わると、再び顔におおいを掛けた。

結論：私たちに適用される霊的真理

1. 新約聖書における神の栄光の啓示

- (1) 人間が作る神概念
 - ①無神論者は、神はいないと考えている。
 - ②偶像礼拝者は、偶像礼拝が悪いとは思っていない。
 - ③クリスチャンでさえも、自分の神概念を作り上げている。
- (2) 出エジプトの目的は、【主】を知ることにある。
 - ①モーセひとりがそれを理解し始めている。
 - ②幕屋は、【主】を知るための恵みの手段である。
 - ③クリスチャン生活の目的もまた、【主】を知ることにある。
- (3) 新約聖書における神の栄光の啓示は、イエス・キリストである。
 - ①ヨハ1:14「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた」
 - ②ヨハ14:9「イエスは彼に言われた。『ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、「私たちに父を見せてください」と言うのですか』」
 - ③コロ1:27「神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです」
 - * 罪の赦し（義認）
 - * 人格の清め（聖化）
 - * 栄光の姿に変えられること（栄化）

2. モーセが顔におおいをかけた理由

- (1) 日常会話で顔が輝いていると、相手に恐れを与える。

(2) パウロの解釈が2コリ3:12～18にある。

「このような望みを持っているので、私たちはきわめて大胆にふるまいます。そして、モーセが、消えうせるものの最後をイスラエルの人々に見せないように、顔におおいを掛けたようなことはしません。しかし、イスラエルの人々の思いは鈍くなったのです。というのは、今日に至るまで、古い契約が朗読されるたびに、同じおおいが掛けられたままで、取りのけられてはいません。なぜなら、それはキリストによって取り除かれるものだからです。かえって、今日まで、モーセの書が朗読される時はいつでも、彼らの心にはおおいが掛かっているのです。しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除かれるのです。主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」

- ①モーセの顔の輝きは徐々に消えて行くものである。
- ②モーセは栄光が消えて行くところを民に見せたくなかった。

(3) 3つの対比

- ①モーセの務めは、石に刻まれた十戒によって人を罪に定め、死を宣告するもの。新しい契約の務めは御霊の務めであり、人を義とし、命を与える務めである。
- ②顔の光が消えていったことから分かるように、古い契約の栄光は一時的なもの。新しい契約の栄光は永続性のあるもの。
- ③消え去る栄光を見られまいとして顔に覆いをかけるのは消極的働きである。新しい契約に仕える弟子たちは、何かに覆いをかけるような消極的なことはしない。

(4) パウロによる適用

- ①モーセが顔におおいをかけたように、イスラエル人は心におおいをかけている。
- ②イスラエル人が心にかけているおおいは、「霊的なおおい」である。
- ③旧約聖書はキリストを指し示しているが、イスラエル人はその事実を理解できない。
- ④同じおおいが、「今」も会堂でモーセの律法の朗読を聞く人々の心にかかっている。
- ⑤この状況は、21世紀になった今も変わっていない。
- ⑥モーセが【主】に向く時におおいを外したように、イスラエル人もキリストに向けば、霊的おおいが取り除かれる。
- ⑦霊的おおいとは、律法によって救われようとする頑迷さのことである。
- ⑧このおおいは、御霊によって取り除かれる。「主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります」
- ⑨キリストを仰ぐ者は、顔の覆いなしに主と対面し、鏡のように主の栄光を反映させながら、主と同じ姿に変えられていく。

【出エジ48】出エジプト記35章1節～39章43節

「幕屋建設」

1. 文脈の確認

(1) 金の子牛事件が決着した。

①モーセの執りなしの祈りによって、神の赦しが得られた。

②神の栄光を見たモーセの顔が輝いた。

③神は再びイスラエルの民の中に住み、彼らとともに進むことを約束された。

(2) きょうの箇所から、幕屋建設が始まる。

①幕屋は神の臨在が現れる場所である。

②きょうの箇所は、出25～31章で扱った内容の繰り返しである。

* 順番が異なる部分が若干ある。

③それゆえ、要約だけを述べる。

2. メッセージのアウトライン

(1) 安息日の規定 (35:1～3)

(2) 幕屋のための捧げ物 (35:4～36:7)

(3) 幕屋と器具の制作 (36:8～39:43)

3. メッセージのゴール

(1) リピート (繰り返し) の教訓

(2) 【主】への奉納物の教訓

このメッセージは、幕屋建設から私たちに適用される霊的真理を学ぶためのものである。

I. 安息日の規定 (35:1～3)

1. 「これは、【主】が行えと命じられたことばである」(1節)

(1) 安息日の規定の再確認をしている。

①出31:12～18の繰り返し

(2) 幕屋建設の前に、この規定が再確認されている。

①つまり、幕屋建設の間も、安息日の規定を守ること。

②安息日には、火さえもたいてはならない。

2. 安息日は、シナイ契約の「しるし」である。

(1) 幕屋建設はシナイ契約の一部であるから、その「しるし」を守る必要がある。

(2) モーセは、割礼を無視したために殺されそうになったことがある(出4章)。

①割礼はアブラハム契約の「しるし」である。

②モーセは、アブラハム契約に基づいて民を奴隷から解放しようとしている。

II. 幕屋のための捧げ物(35:4~36:7)

1. 必要な品物(35:4~9)

(1) モーセは民に主への奉納物を持って来るように命じた。

①15種類の品物(25:4~7で指定されていた物)

②すべてエジプト人から受けた物である。長年の労働の対価である。

(2) 心から進んで捧げることが条件である。

①誰もが参加できる。

②自分の能力に応じて参加できる。

(3) 新約聖書の原則(2コリ9:6~7)

「私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者は、豊かに刈り取ります。ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます」

2. 必要な人材(35:10~19)

「あなたがたのうちの心に知恵のある者は、みな来て、【主】が命じられたものをすべて造らなければならない」(10節)

(1) 奉仕者の召集が行われる。

①「心に知恵のある者」が招かれた。

②すでにベツアルエルとオホリアブの名が上がっていた(出31章)。

③このふたりのもとに、多くの人たちが集まった。芸術家集団である。

(2) 24種類の作品が列挙されている。

3. 民の応答(35:20~29)

「イスラエル人の全会衆は、モーセの前から立ち去った。感動した者と、心から進んでする者とはみな、会見の天幕の仕事のため、また、そのすべての作業のため、また、聖なる装束のために、【主】への奉納物を持って来た」(20~21節)

(1) 民はつぶやいたりせずに、すぐに行動に移した。

(2) 「感動した者と、心から進んでする者」が行動を起こした。

①聖霊による感動である。

②金の子牛事件の罪が赦された感動である。

③【主】の臨在が再び宿するという恵みへの感動である。

(例話) 2009年の第一回ANRCで感じた印象

④詩 110：3 (メシア的詩篇。神の国が世界中に広がる)

「あなたの民は、あなたの戦いの日に、聖なる飾り物を着けて、夜明け前から喜んで仕える。あなたの若者は、あなたにとっては、朝露のようだ」

(3) 締めくくりの言葉 (29 節)

「イスラエル人は、男も女もみな、【主】がモーセを通して、こうせよと命じられたすべての仕事のために、心から進んでささげたのであって、彼らはそれを進んでささげるささげ物として【主】に持って来た」

4. 制作者の任命 (35：30～36：1)

(1) ベツアルエル

①ユダ族のフルの孫

②神は彼に、知恵と英知と知識の霊で満たした。

③霊で満たすとは、霊の支配下に置くことである。

(2) オホリアブ

①ベツアルエルの補助者

②最小部族のダン部族出身

(3) 心に知恵のある多くの工人

(4) 捧げ物はすべての人に関係するが、制作者の任命は神の主権による。

①妬ましく思う必要はない。

5. あり余る奉納物 (36：2～7)

(1) 困った問題が起きた。

①民は朝ごとに捧げ物をモーセのもとに持って来た。

②その量が多すぎたので、制作者たちは困惑した。

③彼らは一時仕事を中断して、モーセのもとに来て、状況報告をした。

④そこでモーセは、捧げ物を中止するというおふれを出した。

(2) 2 歴 31：10 (ヒゼキヤ王の時代)

「すると、ツアドクの家のかしら、祭司アザルヤが彼に答えて言った。『人々が奉納物を【主】の宮に携えて来始めてから、食べて、満ち足り、たくさん残りました。【主】が御民を祝福されたからです。その残りがこんなにたくさんあるのです』」

①残ったものは、宮の脇部屋に保管された。

②幕屋建設の時も、余分なものは将来の必要のために保管されたと思われる。

III. 幕屋と器具の制作 (36：8～39：43)

1. 制作した物：13 項目 (36：8～38：20)

(1) 幕屋の幕

- ①亜麻布の撚り糸で織られたもの
 - ② 10枚の幕で幕屋を作った。
 - ③ケルビムの刺繍が施されていた。
- (2) 幕屋の上に掛ける天幕
- ①山羊の毛で作られていた。
 - ② 11枚あった。
 - ③その上に、赤くなめした雄羊の皮と、じゅごんの皮を乗せた。
- (3) アカシヤ材の板と横木
- ①板は56枚
 - ②横木は15本
- (4) 垂れ幕と入口の幕
- ①垂れ幕は聖所と至聖所を仕切る幕であり、大祭司と一般の祭司を区別した。
 - ②入口の幕は外光を遮断し、祭司とイスラエルの民を区別した。
- (5) 契約の箱
- ①至聖所に置かれた。
 - ②マナを入れた金の壺、十戒が記された石の板2枚、芽を出したアロンの杖
 - ③この上にシャカイナグローリーがとどまった。
- (6) 贖いの蓋
- ①蓋の両側にケルビムが置かれた。
 - ② 3つの役割
 - * 神の御座
 - * 贖いの場
 - * 啓示の場
- (7) パンを置く机
- ①供えのパンを置く。
 - ② 12個のパン (イスラエルの民は神の前に覚えられている)
- (8) 燭台
- ①七枝の燭台
 - ②聖所の中に置かれ、光源を提供する。
- (9) 香の壇
- ①毎日、朝と夕に香をたく。
 - ②【主】が命じた方法でたく。
- (10) 聖なる注ぎの油
- ①祭司や器具を聖別するためのもの
 - ②【主】が命じた通りの調合法

(11) 祭壇

- ①幕屋の庭の中央に置かれた。
- ②この祭壇の上でいけにえの動物が焼かれた。

(12) 洗盤

- ①祭壇と幕屋の間に置かれた。
- ②幕屋で奉仕をする祭司が水で手と足を洗うためのもの

(13) 幕屋の庭

- ①亜麻布の掛け幕で覆われた。
- ②約990平米
- ③イスラエルの民と異邦人を区別する。

2. 会計報告 (38:21～31)

(1) アロンの子イタマルの指揮で、レビ人が調査した。

- ①【主】の働きにおける説明責任

(2) 使用した貴金属

- ①金は約900キロ、銀は約3トン、銅は約2トン。
- ②エジプト人たちがいかにイスラエル人を恐れたかが分かる。

3. 祭司のための衣服 (39:1～31)

4. モーセによる点検 (39:32～43)

(1) 仕事が【主】の命令通りに行われたかを確認した。

- ①【主】からの啓示を受けたのは、彼だけである。

(2) その仕事を忠実に完成した民を祝福した。

「モーセが、すべての仕事を彼らが、まことに【主】が命じられたとおりに、したのを見たとき、モーセは彼らを祝福した」

結論：私たちに適用される霊的真理

1. リピート（繰り返し）の教訓

(1) きょうの箇所は、出25:1～31:18のリピートである。

- ①命令とその実行という関係にある。
- ②「イスラエル人は、すべて、【主】がモーセに命じられたとおりに、そのすべての奉仕を行った」(出39:42)
- ③「モーセはそのようにした。すべて【主】が彼に命じられたとおりに行った」(出40:16)

(2) 人間の方法与神の方法的対比

①金の子牛事件は、人間の方法で神の臨在を確保しようとしたものである。

* その結果、民は裁かれ、神の臨在が宿営から去った。

②幕屋は、神の方法による臨在の提供である。

* 出40:34～38にその結果が記されている。

(3) 幕屋は、罪人が神に近づくための恵みの方法である。

①それゆえ、神が指定した通りに建設する必要がある。

②幕屋全体が、メシアを示す型となっている。

(4) 使徒たちに啓示された福音の真理は、決して曲げてはならない。

①偽教師に対するパウロの厳しい言葉(ガラ1:8)

「しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです」

②私たちは、使徒たちから伝えられた福音のために労するのである。

③【主】が命じた通りに教会を建設しなければ、私たちの奉仕は空しい。

2. 【主】への奉納物の教訓

(1) 金の子牛を作るためにアロンが指定したのは、金だけであった。

(2) 幕屋のためには、15種類のものが必要とされた。

①誰もが参加できる命令である。

②事実、民はあり余るほど捧げた。

(3) 出35:25「また、心に知恵のある女もみな、自分の手で紡ぎ、その紡いだ青色、紫色、緋色の撚り糸、それに亜麻布を持って来た」

①彼女たちは、原料と提供したのでも、完成品を作ったのでもない。

②しかし、糸を紡ぐという労働を提供した。中間的作業である。

③これらの糸がなければ、ベツアルエルは幕を作れなかった。

④一見重要でない作業に見えるが、幕の強度は糸の紡ぎにかかっている。

(4) キリストのからだなる教会のイメージがある。

「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです」(エペ4:16)

【出エジ 49】 出エジプト記 40 章 1 節～ 38 節

「幕屋の設置」

1. 文脈の確認

(1) 前回の内容

- ①民は、必要な量以上に幕屋のための捧げ物を捧げた。
- ②【主】の知恵に満たされた工人たちが、幕屋とその器具を制作した。
- ③神の命令によって、幕屋が設置される。

2. メッセージのアウトライン

- (1) 神の命令 (40 : 1 ~ 15)
- (2) モーセの従順 (40 : 16 ~ 33)
- (3) シャカイナグローリー (40 : 34 ~ 37)

3. メッセージのゴール

- (1) 油そそぎについて
- (2) モーセとイエスの対比
- (3) シャカイナグローリーのその後

このメッセージは、幕屋の設置から私たちに適用される霊的真理を学ぶためのものである。

I. 神の命令 (40 : 1 ~ 15)

- 1. 「【主】はモーセに告げて仰せられた。『第一の月の一日に、あなたは会見の天幕である幕屋を建てなければならない。これは、【主】が行えと命じられたことばである』」(1 ~ 2 節)
 - (1) エジプトを出てから1年が経過した。
 - ①シナイ山の麓に到着してから9カ月になる。
 - ②その後金の子牛事件があった。
 - ③モーセは2回、シナイ山で40日を過ごしている。
 - (2) イスラエルの民は約半年で幕屋の部品や器具類を完成させたことになる。
 - ①明確な幻
 - ②民の献身
 - ③聖霊の助け
 - (3) 幕屋の設置に要した日数は数日であろう。

2. 設置の順番

- ①幕屋を建てる。
- ②あかしの箱(契約の箱)を置く。
- ③垂れ幕で至聖所と聖所を仕切る。
- ④供えのパンの机を置く。
- ⑤燭台を置いてともし火をともし。
- ⑥香の壇を置く。
- ⑦垂れ幕を幕屋の入口に掛ける。
- ⑧幕屋の入口の前に祭壇を据える。
- ⑨幕屋と祭壇の間に洗盤を据えて水を入れる。
- ⑩周りを幕で囲って内庭を作り、庭の門に垂れ幕を掛ける。

3. 聖別の順番

- ①幕屋とその中のすべての器具にそそぎの油を注ぐ。
- ②祭壇とそのすべての用具に油を注ぐ。
- ③洗盤とその台に油を注ぐ。
- ④アロンとその子らを水で洗い、油を注ぐ。

II. モーセの従順(40:16～33)

1. 7回繰り返される同じ表現

(1)「【主】がモーセに命じられたとおりである」

40:19、21、23、25、27、29、32

(2) 7は完全数。神の計画通りに幕屋が建設されたことを示している。

2. 完璧な従順

(1)「こうしてモーセはその仕事を終えた」

III. シャカイナグローリー(40:34～38)

1. 出エジプト記のクライマックス(34～35節)

「そのとき、雲は会見の天幕をおおい、【主】の栄光が幕屋に満ちた。モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、【主】の栄光が幕屋に満ちていたからである」

(1) 神の約束通りのことが起こった。

- ①神は、幕屋を認定された。
- ②神は、幕屋をご自身の宿りの場とされた。

(2) 雲が幕屋をおおった。

- ①エジプトを出た直後からイスラエルの民を導いた雲の柱が、形を変えた。
- ②シナイ山をおおっていた雲が、地上に下り、幕屋をおおった。

(3) 【主】の栄光が幕屋に満ちた。

- ①これは、幕屋の中(聖所も至聖所も)に満ちた超自然の光、輝きである。
- ②人間がその栄光を直視することはできない。

(4) モーセも幕屋に入ることができなかった。

- ①彼は、至聖所において、契約の箱の位置を確認したばかりではないか。
- ②彼は、聖所において、机、燭台、香の壇の位置を確認したばかりではないか。
- ③信仰をもって聖書を読み始めると、単なる本ではなく神のことばとなる。

(5) 出エジプトの目的は、神を知ることにある。

- ①神を体験的に知らなければ、約束の地は祝福の地とはならない。

2. 民を導く雲(36～38節)

「イスラエル人は、旅路にある間、いつも雲が幕屋から上ったときに旅立った。雲が上らないと、上る日まで、旅立たなかった。イスラエル全家の者は旅路にある間、昼は【主】の雲が幕屋の上に、夜は雲の中に火があるのを、いつも見ていたからである」

(1) 雲がイスラエルの民を導いた。

- ①昼の雲は、方向性を示し、日陰を提供した。
- ②夜の火は、同じく方向性を示し、野獣から宿営を守った。

(2) 民の責務は、雲を見上げるだけである。

結論：私たちに適用される霊的真理

1. 油そそぎについて

(1) 出40:15「あなたは、彼らの父に油をそそいだように、彼らにも油をそそぐ。彼らは祭司としてわたしに仕える。彼らが油をそそがれることは、彼らの代々にわたる永遠の祭司職のためである」

- ①アロンとその子らが油そそぎを受けた。
- ②ユダヤ教の解釈では、一般の祭司の聖別はこれで終わったとする。
- ③しかし、大祭司だけは代が変わるとそのつど油そそぎを受ける。
- ④大祭司は、「油そそがれた祭司」と呼ばれる。レビ4:3、5、16

(2) 「永遠の祭司職」の意味

- ①アロンの祭司職が続く限りは、この油そそぎは続く。
- ②メシア(油そそがれた者)が来られたなら、アロンの祭司職は終わる。

(3) アロンの祭司職は、モーセの律法が機能するための土台である。

- ①アロンの祭司職が終了したなら、モーセの律法も終了する。
- ②それが、キリストの十字架によってモーセの律法が終了したという意味である。
- ③アロンの祭司職に代わる「メルキゼデクに等しい祭司」が出現したのである。
- ④キリストがその大祭司であり、キリストの律法が機能するための土台とされた。

2. モーセとイエスの対比

(1) モーセは幕屋を建設した。

「こうして、モーセはその仕事を終えた」(33節)

①【主】が命じられたデザイン通りに幕屋を建設した。

(2) イエスは教会を建設された。

「ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません」(マタ16:18)

①イエスは神の子であり、救い主であるという信仰告白の上に教会を建てる。

②その教会は、使徒たちが死んでも継続する。

③もし異なった土台の上に建てるなら、それは教会とは言えない。

(3) イエスは地上での仕事をすべて終えた。

「イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、『完了した』と言われた。そして、頭をたれて、霊をお渡しになった」(ヨハ19:30)

①福音は、イエスの忠実な奉仕者によって伝えられたものである。

②福音の3要素

* イエスは私たちの罪のために死なれたこと

* 墓に葬られたこと

* 三日目に甦られたこと

3. シャカイナグローリーのその後

(1) ソロモンの神殿に【主】の栄光が宿った。

「祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が【主】の宮に満ちた。祭司たちは、その雲にさえぎられ、そこに立って仕えることができなかった。【主】の栄光が【主】の宮に満ちたからである」(1列8:10~11)

(2) エゼキエル書11章で【主】の栄光が神殿から去った。

(3) バビロン捕囚の時(前586年)に、神殿が破壊され、契約の箱が持ち去られた。

(4) 第二神殿には【主】の栄光は宿らなかった。

(5) ハガ2:9「この宮のこれから後の栄光は、先のものよりまさろう。万軍の【主】は仰せられる。わたしはまた、この所に平和を与える。——万軍の【主】の御告げ——」

①この預言は、イエスがメシアとして神殿の中を歩まれた時に成就した。

②イエスの内にこそ、シャカイナグローリーが宿っている。

【出エジ 50】

「総集編」

1. 文脈の確認

(1) 文脈を意識して読む。

- ①直前、直後の文脈
- ②聖書全体の文脈
- ③歴史という文脈

* 第49回聖地旅行のテーマ「過去、現在、未来」

2. メッセージのアウトラインとゴール

- (1) 人類が抱えている問題とは何か。
- (2) 神が用意された計画とは何か。
- (3) 出エジプト記は神の計画の中でどのような位置を占めているか。
- (4) 神の計画はいかにして成就するか。

このメッセージは、出エジプト記全体から神の計画を学ぼうとするものである。

I. 人類が抱えている問題とは何か。

1. 創2:16～17「神である【主】は人に命じて仰せられた。『あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ』

(1) 人は無垢であるが、それはまだ試されていない清さである。

- ①神の命令に従うことによって、清さが確定する。
- (2) 神の意図は、人の思いやサタンの誘惑の言葉とは異なる。
 - ①命令を守ることによって、善悪の知識を得るといのが神の意図である。
 - ②しかし、人は命令に違反することによって、善悪の知識を知ってしまった。
 - ③罪から離れることによってではなく、罪を犯すことによって知ってしまった。

(3) 罪の本質は、自らが神のようになり、善悪の基準を決めたことである。

2. 創3:8「そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間に身を隠した」

(1) 3種類の断絶

- ①神と断絶
- ②隣人との断絶
- ③自己との断絶

(2) 霊的死はただちにやって来たが、肉体的死は遅れてやって来た。

(3) 罪の現実

- ① 11月23日、北朝鮮が韓国の島を砲撃した。聖地旅行中のニュース。
- ② 旅行中のセキュリティ検査の煩雑さ
- ③ 罪は経済的損失である。

II. 神が用意された計画とは何か。

1. 創3:15「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとかみつく」

(1) 最初のメシア預言

(2) サタンの子孫(反キリスト)とメシア(女の子孫)との戦い

- ① イザ7:14になって、女の子孫が超自然的に誕生することが明らかになる。
- ② イザ53章になって、メシアが受難のしもべであることが明らかになる。

2. 創12:1~3「【主】はアブラムに仰せられた。『あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される』」

(1) 神の計画は契約によって明らかにされた。

① 聖書の神は、契約を結ぶ神である。

(2) アブラハム契約の条項

- ① 土地の約束
- ② 子孫の約束
- ③ 祝福の約束(異邦人の救いは最初から想定されていた)

(3) この契約は無条件契約である。

3. 契約の継承

(1) アブラハム契約は、イサク、ヤコブ、そして12人の息子たちにされた。

- ① 弟が契約を継承する。
- ② 12人の息子たちの中では、ヨセフとユダが主役を演じる。

Ⅲ. 出エジプト記は神の計画の中でどのような位置を占めているか。

1. 神の意図は、神の計画を実行する民を育て、カナンの地に植え付けることにある。

- (1) 神を信頼する民がいかに祝福を受けるかを諸国に示す。
- (2) そのために、目立つ所に置く。

2. イスラエルの民はエジプトで一大民族として成長する。

- (1) 400年間奴隷
- (2) やがて自由の民となる。

3. 出エジプト記の構造

(1) 1～18章は、出エジプト体験（洗礼を受けるところまで）

- ① 10の災害はエジプトの偶像の裁きであった。
- ② 過越の祭りが設定され、それがイスラエル人の歴史の起点となった。
 - * 過越の祭りは、私たちの救いの起点でもある。
 - * 過越の祭りは、メシアの死の型である。
- ③ 紅海を渡った奇跡は、民が【主】の力と恵みを体験するためのものであった。
- ④ 出エジプト記というタイトルについての疑問
 - * ヘブル語で「ヴァエレー・シュモット」（さて、これらが名前である）。
 - * 奴隷からの解放だけで終わってはならない。
 - * 出エジプトの目的を知る。

(2) 19～24章は、シナイ契約とモーセの律法（神がどういうお方であるかを知る）

- ① 律法は救いの条件や方法ではない。
- ② 律法は、神に選ばれ自由の民となった者への生活の指針である。
- ③ その本質を、山上の垂訓に見る。
 - * イエスは、すでに信じた者たちにモーセの律法の解説を行った。
 - * 新生体験を経た者は、神のご性質を反映するような生き方を始める。

(3) 25～40章は、幕屋と神の臨在（神との交わり）

- ① 出40:34～35「そのとき、雲は会見の天幕をおおい、【主】の栄光が幕屋に満ちた。モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、【主】の栄光が幕屋に満ちていたからである」
- ② 金の子牛事件が障害となったが、最後はシャカイナグローリーが現れた。
- ③ イスラエルの神は、民とともに歩む神である。
- ④ メシアの名は「インマヌエル」（マタ1:23）である。
- ⑤ イエスは、神が私たちとともに歩んでくださることのしるしである。

IV. 神の計画はいかにして成就するか。

1. 出エジプト記は、アブラハム契約の延長線上にある。
(例話) 出エジプト記第1回目のメッセージは、2009年11月1日。
10月28日、鳩山由紀夫首相の所信表明演説に対する各党の代表質問が行われた。
民主党は、衆院選のマニフェストを実行していないという批判
出エジプト記のテーマは、神はマニフェストを実行されるか、である。
 - (1) 出2:24～25「神は彼らの嘆きを聞かれ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。神はイスラエル人をご覧になった。神はみこころを留められた」
 - ①神はイスラエルの民をエジプトから解放された。
 - ②神はイスラエルの民を約束の地に導かれた。
2. しかし、イスラエルの民は失敗を繰り返す。
 - (1) 士師記の時代
 - (2) 王国時代から南北朝時代
 - (3) バビロン捕囚、そしてカナンへの帰還
3. 最大の失敗は、メシアを拒否したこと。
 - (1) 少数の人たちだけが信じた。
 - ①イスラエルの残れる者(レムナント)
 - ②現代のメシアニック・ジューたち
 - ③アブラハム契約が有効であることを示している。
 - (2) 民がメシアを拒否したため、神の愛と恵みを伝える器(民)がいなくなった。
 - ①教会がその代理的器となった。
 - ②ユダヤ人信者と異邦人信者がともに「ひとりの人」を形成する。
 - ③異邦人信者は、アブラハム契約の幹に接ぎ木された野生種の枝である。
4. では、イスラエルに対する神の計画はどうなるのか。
 - (1) イスラエルの民は民族的救いを経験するようになる。
 - (2) それが、メシア再臨の条件である。
 - (3) 神の計画は、千年王国、そして新天新地につながっていく。

結論：

1. 聖地旅行の最後に見た3組の婚礼は、キリストと教会の婚礼を想起させた。
2. ナイジェリアのクリスチャンたちとの賛美は、天国の礼拝を想起させた。